

アセンション BOOK 3

天の川銀河の物語 NO3

2013 年 10 月～12 月

Peace of Galactic Cluster

天の川銀河の物語 3

時を紡ぐ水晶とケンタウル
スの勇者達



時を紡ぐ水晶とケンタウルスの勇者達	目次
○第 1 章	ケンタウルスからのメッセージ
○第 2 章	天の川銀河の守護者達を求めて
○第 3 章	ケンタウルス座の深い闇
○第 4 章	傷つけられても闇のマスターに愛を伝えます
○第 5 章	時を司るスピカ星の白鳥とクリスタル
○第 6 章	南十字星の創造主と魔法使い
○第 7 章	南十字星の次元上昇と高次の創造主
○第 8 章	ケンタウルス座に光を送る
○第 9 章	ケンタウルスが生まれる星
○第 10 章	気高き狼一族とケンタウルス座の次元上昇

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック

<https://www.k-suai.com/sp/index.html>

宇宙の光公式 HP

<http://hikari1.com/sp/index.html>

アセンション評議会

<http://s-sun1.com/sp/index.html>

アメブロ光の世界へ

<http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI yume34@k-suai.com

イラスト えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

星座のイラストは下記からお借りしました。

88 星座図鑑 自然学習館

http://www.study-style.com/index_seiza.html

第1章 ケンタウルスからの メッセージ



PART1 ケンタウルスからのメッセージ

私達が「ペテルギウスのダイヤモンド」の星のツアーを行っている時に、野原にたたずみこちらを見ているケンタウルスを見かけました。

彼に声をかけると、彼は「私達もあなたの仕事を手伝いますので、どうか私達の星を救ってください。」と懇願してきました。

私達は、現在オリオン座のリゲル星の救出を行っていたので、その後で良ければ・・・と答えると、うれしそうに私達の仲間に入り、負傷しているマスター達を運んだり、闇のエネルギーに向かって一緒に矢を放ち、闇を光に統合するお手伝いをしてくれました。

そして、約束通り、今週から、星のツアーは、ケンタウルス座の騎士団達を救出するための仕事に入ることになりました。
今回は、ケンタウルスからのメッセージをお届けします

私達はケンタウルス座からやってきました。ケンタウルス座の安定と復興を望むグループのメンバーです。

私達の目的は、争いの中にあるケンタウルスの星々を和解させ、調和と正義の道へと歩ませることです。

ケンタウルス座の中でも、特に問題になっているのが、リギル・ケンタウルス星とフロキシマ・ケンタウルス星の争いです。

またこれらの星に影響を受けた他の星々も争いに巻き込まれています。

そしてケンタウルスの友人である「いて座」のケイロン達も、その和解に努力していますが、ケンタウルスの影響を受けて、自己中心的な行動に走る存在も出てきました。

本来ケンタウルスは、その素早い動きとたぐいまれなる戦闘能力を生かして、この天の川銀河の秩序を守り、困っている星々の人達を助けて来ました。

そして、天の川銀河の隅々の星まで、創造主のメッセージや光を運ぶことが役目でした。私達は、天の川銀河の秩序を守るために、皆さんが闇と呼ぶ存在と戦っているうちに、自らもその闇にとらわれ、いつしか権力争いや自己主張をぶつけ合うようになってしまいました。

現在、私達をつかさどる創造主の意見も聞かず、創造主から与えられた仕事もしていません。

そして、お互いの争いに明け暮れているうちに私達の星は荒廃し仲間たちの心も荒んできました。

そのような状況を解決するために、私達は、創造主と共に働くことを心に決めた仲間達で「光のケンタウルス連合」を作りました。しかし、私達の力だけでは、その目的を果たすことができませんでした。

闇に落ちたケンタウルスの力は強大で多くの勇敢なケンタウルス達が彼等に従っています。

彼らは、自分達の心を顧みることなく、争いばかりを繰り返しています。

そこに住む心優しい女性や子供たちさえも犠牲になってしまいました。

ケンタウルスの闇に落ちたマスター達の力は、ケンタウルス座だけでなく創造主がいらっしゃる南十字星にまでおよび、この星域全体を不安定なものにしています。

彼らが求めているのは、この星域の支配と暴力による優越性だけなのです。

どうか、私達の星を闇と混乱から救いだし、昔ながらの勇気とパワーに満ち溢れたケンタウルス座に戻していただけるようお願いいたします。

そして創造主がいる南十字星の光を輝かせてください。

南十字星は、ケンタウルスの支配により力を失い、創造主の力を弱らせています。

その為に、ケンタウルス座のマスター達に対する統制も取れない状態です。

この南十字星が復活することによって、ケンタウルスの勇気ある者達は、自らの行いに目覚め、闇の手から離れて、私達と共に戦ってくれることでしょう。

PART2 ケンタウルス座を巡る状況

私達の新しい「星のツアー」が始まりました。今回のツアーの目的は、ケンタウルス座のマスター達を助け出し、ケンタウルス座の騎士団を立て直すことにあります。

ケンタウルスの騎士団はとても勇敢で力が強く、また高い叡智を持っています。

その騎士団が闇に落ちているという事は、闇の原因となっているマスターの処理だけでなく、闇に捕らわれているケンタウルス騎士団そのものとも戦う必要が出てくるかもしれません。

しかも、天の川銀河では、とりわけすぐれた戦闘力と数の多さを誇る騎士団ですので、今の私達の戦力では十分ではないようです。

しかも前回までの星のツアーでは、中心となる創造主の方がいて、創造主を中心に他の星々がまとまっていたので、私達も安心して仕事を行う事が出来ました。

しかし、今回は頼みの創造主がいないばかりか創造主さえも、闇のマスターに捕えられているという事ですので、最初から困難な展開が予想されます。

私達は、この状況を打開するためにはどうしたらよいか相談することにしました。

まずケンタウルス座の状況を知っているのは、私達の仲間であるケンタウルスだけです。そして私達の戦力と言えば、もともと私達と共に活動しているさそり座騎士団とペガサス騎士団。

そして「白鳥の六芒星」で仲間になってくれたアルケイデースと闇に落ちた星を攻略するときに中心的な戦力として戦ってくれる

トゥバンのドラゴン騎士団とエニフ星のエルフ達。

「ペテルギウスのダイヤモンド」で仲間になってくれたアルデバランの騎士団です。

いざという時には女神アテネの親衛隊と大天使たちがお手伝いしてくれると思われます。

通常の闇に落ちた星を救い出すにはこれで、十分かもしれませんが、ケンタウルス座には、およそ 7 個ほどの闇に堕ちた星々がありますし、荒れ狂うケンタウルス達がいるとすれば、今の私達の戦力に、「光のケンタウルス連合」が加わっただけでは、防ぎきれないでしょう。

私は、今回の作戦について騎士団達にも意見を聴くことにしました。

先ず私の片腕となっているアルケイデースに意見を聴きました。

「正直な所、今回の仕事に関してはいくつか調べなければならないことがあります。

それは、今回の闇のエネルギーを作り出している存在が何なのか、私達には一切わかっていません。

その闇に引きずられるようにして、多くのケンタウルスの騎士団達が闇に落ちていったので、その正体を暴く必要があると思います。

そして、ケンタウルス座で闇に落ちている星と騎士団がどれほどあるかを正確に知らないといけないとおもいます。

おそらくケンタウルスには、7 個以上の大きな星があり、それぞれに騎士団が存在していると思いますが、そのうちのどれくらいが私達の見方をしてくれるかという事も知る必要があります。」

ペガサス騎士団のアトス様も心配そうに言います。

「私が最も心配しているのは、南十字星の創造主達です。

この星域は、南十字星の創造主達が指導している場所です。

その創造主達が、ケンタウルス達によって捕えられているとなると、これは大きな問題です。

本来、この南十字星の創造主とケンタウルス騎士団たちは、彼等だけで天の川銀河の南半球を守護しているといっても過言ではありません。

その彼等が、闇に落ちたとすれば、創造主だけでなく南半球の星々にも問題が広がっている可能性があります。突然強敵が現れてくる可能性もありますので十分に注意しなければなりません。」

話はかなり深刻な様相を帯びてきました。

さそり座のアンタレス様が発言します。

「確かにこの星域の状態は思わしくありません。

私の星座は、ケンタウルス座のすぐ横にありますので、ケンタウルス座の混乱については話を聴いています。

確かに彼等は強力な戦闘力と機動力を持っていますので、パワーで対抗できるのはアルデバランの騎士団だけでしょうし、機動力で対抗できるのはペガサス騎士団だけでしょう。

しかしこの星域には、ウミヘビ座騎士団という優秀な騎士団がいて、今でもケンタウルス座の騎士団たちの動向を見張っています。

また、ウミヘビ座の上には、天の川銀河でも最も優れたパワーを持つしし座の騎士団がいるはずです。

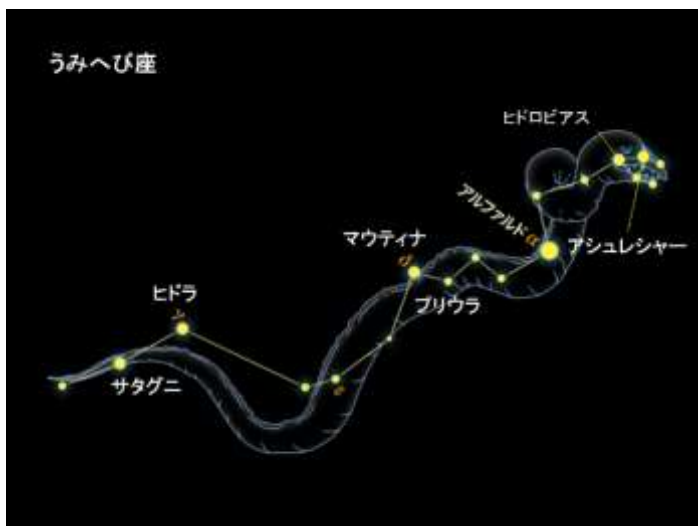
この騎士団達とあって一緒に行動できるかどうか相談したらよいと思います。もし彼等が共に働けるのであれば、私達にも勝ち目があると思います。」

私達はアンタレス様の言葉でようやく救われたような気がします。

今回は仲間を集めるにしても、創造主様の力添えがあるわけではないので、騎士団たちの交流関係が頼みです。

さそり座騎士団とアルケイデースを中心として、さっそく出かけることにしましょう。

第2章 天の川銀河の守護者 達を求めて



PART1 うみへび座騎士団のヒュードラ様

ケンタウルス座は、とても大きく、ほとんどの星が、闇に支配され、しかも争いの真ただ中という事で、私達の現在の戦力ではケンタウルス座に入ることができませんし、私達を迎えてくれる星も有りませんので、私達は共に戦ってくれる仲間達をさがすために、ウミヘビ座にやってきました。

ウミヘビ座はケンタウルス座のすぐ上にある星座で、ちょうど南半球と北半球の境目をなすように、空に長く伸びている星座で、この宇宙の中でも一番大きな星座です。

さそり座のアンタレス団長の勧めで、うみへび座のアルファルド星に降り立ちました。このアルファルド星もそうですが、ウミヘビ座の星々は、それほど緑豊かで美しい星ではないようです。

海が多く、陸地が少ないために、資源やすむ場所をあらそって、内戦や民族間の攻防などがあり、良く争いが起きているようです。

私達は、さそり座のアンタレス様の案内で、アルファルド星のマスターの城を訪ねると「ヒュードラ様」と名乗るマスターが私達を迎えてくれました。

アンタレス団長からすでに、私達の話は聞いているようで、ウミヘビ座騎士団の団長であるヒュードラ様は、私達を友好的に迎えてくれます。

ヒュードラ様は、頭の髪の毛が束になったまま、まるで蛇が頭に絡みついているように見えますので、見かけはとても怖い感じですが、とても紳士的なふるまいをされる方です。

「地球から来られた皆さん、そして天の川の銀河の騎士団の皆さん、とりわけ私どもが尊敬するアルケイデース様、皆さんとお会いできたことをうれしく思います。

私達、ウミヘビ座騎士団は、多くの戦いを経験し、強力な部隊を有しておりますが、ケンタウルス座の騎士団の多くが闇のマスターによって混乱させられ、闇の力と共に活動している事を大変恐れています。

彼等が、このウミヘビ座の境界線を破って北半球に入ってくるとおとめ座を中心とした大切な働きを持つ星々に大きな被害が出てしまいますので、私達はここで警備を行っております。」

彼は、ケンタウルス座の惨状を良く知っており、とても警戒しているようです。

ケンタウルスの闇の力が、北半球に及ばないように、網のようなシールドを張り、北半球

に行こうとする闇の存在を、ここでとらえて処理していたようです。

「しかし、警備するだけでは、問題は解決しません。

闇に落ちたケンタウルス達を闇から救い出し、昔のように正義感に満ち溢れた力強いケンタウルス騎士団に戻さないと、私達もいつ、彼等と大きな争いが起きるか心配でなりません。

どうか、私達と共にこの問題を解決して下さるようお願いいたします。」

私も、ウミヘビ座騎士団の代表であるヒュードラ様の言葉に胸が熱くなりました。

「私達も皆さんのように正義感が強く、天の川銀河の平和のために一生懸命に働いている騎士団に会えたことをとてもうれしく思います。

この星域は、私達にとっては全く未知の世界です。

皆さんのお力をお借りしない事には、全く動けない状態です。

どうかよろしくお願いします。」

このうみへび座の騎士団は、合計8名の団長がいて、それぞれの役割分担を行い、協力して働いているそうです。

さそり座の騎士団のように特殊工作を行う部隊や、ペガサス騎士団のように叡智と愛を持って働く部隊、アルデバランの騎士団のように強力なパワーを持っている部隊などがあるようです。

まさにケンタウルス座の闇に攻勢をかけるには、理想的な騎士団です。

ウミヘビ座騎士団のヒュードラ様にとっても、私達は待ち構えていた仲間たちのようです。

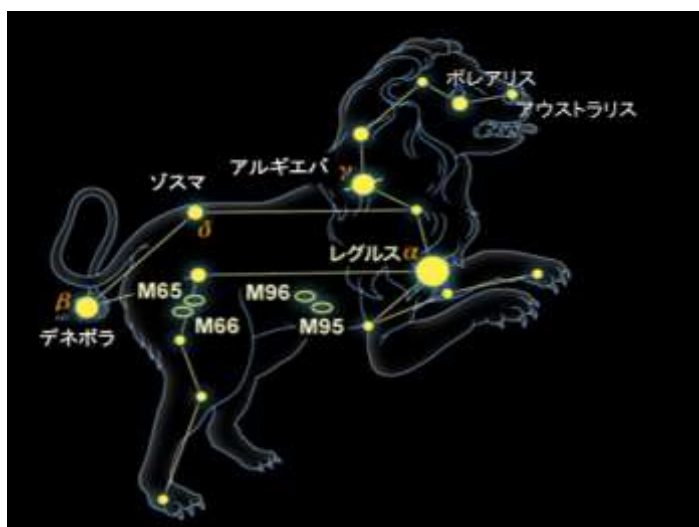
私達はその後騎士団を中心としてケンタウルス座の状況について話をしていました。さそり座のアンタレス様の計画によると、ケンタウルス座の包囲網を速く作りたいようで、北側の包囲網は、このウミヘビ座で大丈夫かどうか、確認しているようです。アンタレス様とヒュードラ様は昔から仲が良いようですので安心です。

PART2 しし座の偉大なレグルス騎士団

私達は、さらなる騎士団を求めて旅に出ました。

そして天の川銀河最大のパワーを持つといわれるしし座のレグルス星に向かいました。この星は、まるでアフリカの大地を思わせるような広々とした草原と木立が立ち並ぶ森によってできているようです。

私達がシェンロンに乗ってレグルス星を回っていると、かけまわるライオンの姿が見えます。



私達はさそり座のアンタレス様の導きで、レグルス騎士団の神殿へと向かいました。

このレグルス騎士団は、しし座の騎士団の中でもリーダー的な騎士団で、宇宙の秩序を守る叡智とパワーに満ちた騎士団です。

そして、天の川銀河の多くの騎士団のメンバー達が、このレグルス星に学びに来るような騎士団の模範となるような優れた騎士団のようです。

私達を待っていてくれたのは、見る人によっては、ライオンのようにも見えるとてもパワフルで思慮深い騎士です。

まるでナルニア国物語に出てくる「アスラン」と呼ばれるライオンにそっくりです。

遥さんのテンションがいきなりマックスになります。

「ライオンの騎士さん、あなたにお目にかかれて、とてもうれしいわ。」とっています。

彼は低く落ち着いた声で話します。

「素晴らしい騎士団の皆さん、そしてアルケイデース様、お久しぶりです。

そして地球から来られた勇者の皆さん、お会いできて光栄です。

皆さんが創造主様と共にご活躍なさっている事は、私達の耳にも入っております。

おそらく、今回来られたのは、ケンタウルス座の問題であろうと察しております。

私達も、以前はよくケンタウルス騎士団と共に活躍しておりましたが、いつの頃から彼等と連絡が取れなくなり心配しております。

現在、彼等だけでなく他の騎士団の中にも闇に飲まれる者がおりまして、私達も非常に心配しております。」

おうし座騎士団のアルデバラン様もレグルス騎士団と仲が良いようです。

「私達も、その様に思います。

リゲル星も TAKESHI さん達に救ってもらいましたが、この天の川銀河にも暗い影が差しこんでいるようです。

大天使様のお話では、闇に落ちた人間と天使の遺伝子を持つ闇が生まれ、それが急速にひろがっているという事も聞いております。私達も、力のかぎりこの問題を解決し、少しでも早く天の川銀河を平和にしたいと思っております。」

さそり座騎士団のアンタレス様も話に加わります。

「幸い地球から、どのような次元でも自由に入れる勇者 TAKESHI さんとそのグループの女神達も私達のために共に活動してくださっていますし、アルケイデース様もその雄姿を拝見することが出来ましたので、皆で力をあわせれば、きっと天の川銀河の平和も取り戻せると思います。

先ほども、ウミヘビ座のヒュードラ様と話をしてきました。

彼等の部隊も、私達と共に行動してくれるようですので安心です。」

アンタレス様も念願の平和に向けて力強く動き出せたことがうれしいようです。

そして、共に旅している宇宙の光の女性メンバーも自分達の事を女神と言われて喜んでいます。

「確かにみなさんの言うとおりです。

皆で力を合わせれば、きっと素晴らしい天の川銀河を取り戻せるでしょう。

私達も以前ほどの力はありませんが、皆さんと一緒になら、私達にもできそうな気がします。私達も、皆さんと力を合わせて共に活動しましょう。」

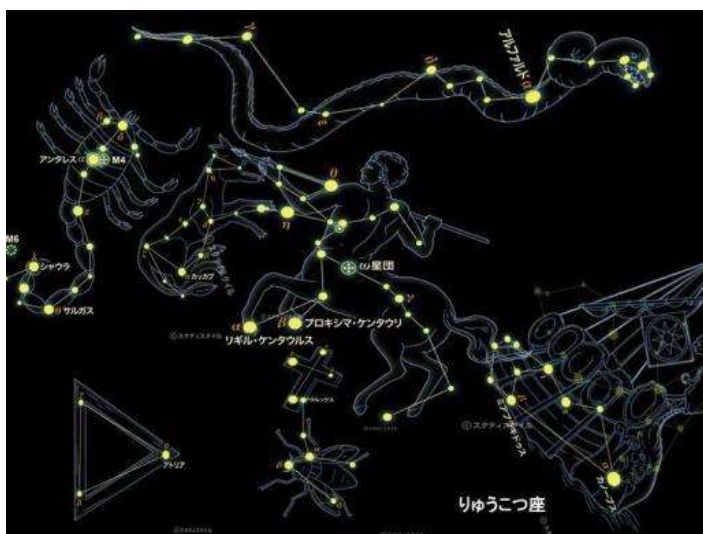
本来ならば、とても勇壮な騎士団の団長のはずですが、少し力のないしゃべり方をしています。

レグルス騎士団の団長には大きな悩みがありそうで気になります。

しかし、アルケイデース様を始め、さそり座騎士団、ペガサス騎士団、おうし座のアルデバラン騎士団、ウミヘビ座騎士団、天の川銀河のリーダー的なレグルス騎士団も仲間に加わり、私達の希望も大きく広がります。

レグルス騎士団の神殿の周りでは、まだ若い騎士たちが盛んに戦いの練習をしているようです。

勇ましいことが大好きな美緒さんは、その様子がとても気に入ったらしく、彼らの近くで様子を見ています。



PART 3 南十字星を守るために、騎士団を配置する

ついにケンタウルス座にたいする行動が始まる時が来ました。

私達は、新たにウミヘビ座の騎士団、レグルス騎士団も仲間に加えることが出来ましたし、さそり座の騎士団もアントレス様のグル

ープだけでなく他の星の騎士団やシャーマンたちもお手伝いしてくれるようです。

私達が最初に行う事は、ケンタウルス座の周りを光の壁で覆う事です。

ここは、この星域に詳しいさそり座のアンタレス様を中心に行う事にしましょう。

「では騎士団の皆さん、これから私達の行動の第 1 歩として、ケンタウルス座に対する包囲網を作りたいと思います。

これは、私達の光を恐れて、ケンタウルス座から逃げ出していく闇のエネルギーが、他の星々に移ることを避けるためです。

もちろん大きな戦いが起こった時にはこの包囲網を狭め、戦いに協力してもらう事になりますが、いきなり最初から戦いは起こらないと思いますので、しばらくは光の包囲網を作り様子を見たいと思います。

ここでは、どの場所にどの騎士団を配置するかという事を話したいと思います。

その後、直接その場所に行き、シェンロンやドラゴン、ペガサス達を中心にしてケンタウルス座の周りに光の通路を作り、その通路を上下に延ばしながら、大きな光の壁をつくり囲みます。

さらに守護隊を置くことで、闇がそこからでないようにして、閉じ込めてしまいます。皆さん、その方法でよろしいでしょうか。」騎士団の団長たちは大きくうなずきます。

アンタレス様は続けて、各包囲網について説明をはじめました。

「ケンタウルス座の上の方は、大きなウミヘビ座が横たわり、ケンタウルス座と北半球の星々の間に、ウミヘビ座の騎士団達がしっかりと境界を作っていますので、それをそのまま利用させていただきます。

ケンタウルスの頭側にはさそり座がありますので、こちらは私達さそり座騎士団や他のさそり座の星々のシャーマンや騎士たちが守ります。

そして、ケンタウルスの後ろは、大きな船を形作る星座たちが並び、その中でもひとときわ輝くカノーブス星を拠点として、光の壁を作っています。

この星々は、南半球でも交易をおこなっている場所なので、一番狙われやすい場所ですが、彼らは騎士団を持ちませんので、ちょっと守護が大変な場所になると思います。

この場所はペガサス騎士団とレグルス騎士団の皆さんに守って頂きたいのですがお願いできますか。」

ペガサス騎士団の団長であるアトス様とレグルス騎士団の団長はうなずいています。

「そして大変なのは、ケンタウルス座の足元です。

ここはさそり座のサルカス星から、三角座のアトリア星を経て、りゅうこつ座のカノーブスまでつなぎます。とても広い範囲なのでトゥバンのドラゴン達と機動力とパワーをそなえたアルデバランの騎士団達におねがいましたと思います。」

アルデバランの騎士団達もうなずきます。
トゥバンのドラゴン達は私からお願いすることにしました。

「これで、ケンタウルス座の周りはしっかりと固めることが出来ると思いますが、一番大切なのは、TAKESHIさん達とともに、南十字星やケンタウルス座にはいる勢力ですが、こちらはアルケイデース様を中心に、各騎士団の団長クラスと私達の仲間になっているケンタウルス達にお願いしたいと思います。

また危険が伴う場合には、女神アテネの親衛隊の方々にもご協力いただきたいと思っております。」

これで話はまとまったようです。

シェンロンを持つメンバー達も協力して、ケンタウルス座を取り囲む光の壁を作る作業に入ります。

騎士団達は立ち上がり、意気揚々と自分達の部隊に戻っていきました。

PART4 追い詰められた南十字星の創造主

騎士団達が光の壁を作っている間に、私とアルケイデース様は、仲間になったケンタウルスを連れて南十字星の事を調べに行きます。ケンタウルス座の足元には、有名な南十字星があり、その 4 つの星にこの星域を守護する創造主様やマスターが、それぞれいらっしゃることになっていますが、どの星もきちんとした働きを行っていませんし、仲間のケンタウルスの話では、創造主様さえも捕えられ、どこにいるかさえもわかりません。

私達は最初に、アクルックス星に降り立ちましたが、闇にまみれた星は荒れ果てて生命力がありません。

どんよりとした天気で、気分まで重くなります。

私は、星に降り立つと創造主様をお呼びしたのですが出てこられません。

北極星の創造主やペテルギウスの創造主様にもお願いして声をかけてもらいましたが返事がないようです。

やはり闇に落ちたケンタウルスのマスター達にとらえられそうになって、アクルックスの星にどこかに隠れているという話は本当のようです。

創造主さえも手におえないほどの力を持つ存在とは、・・・・・・・・。

私達も相当気をつけて戦わないと危険です。

南十字星のカクルクス星やほかの星も見て回りましたが、どの星も闇のエネルギーに満ち溢れ、荒れ果てています。

私は、大天使達に相談して、南十字星の闇のエネルギーを浄化するために、光の箱で 4 つの星を包み込むことを提案しました。

そうしなければ、降り立っても創造主様をさがす事すらできません。

大天使達も、私の提案に賛成してくれました。

私達は、大天使たちをお願いして、南十字星の4つの星に光のマカバを設置し大天使達に光を送ってもらい、闇のエネルギーを浄化してもらう事にしました。

これで、しばらく闇のエネルギーを浄化し続けると、来週のツアーの時には、南十字星にはいる事も出来るかもしれません。

それから、光の壁を作っている間に、うれしい仲間達がやってきてくれました。

わし座のアルタイル星からきてくれたマスター・ビジョンとわし座の騎士団です。

アルタイルは、マスター達がその支配欲と傲慢さのために、闇に閉ざされた星で、私達が最初に取り組んだ星でした。

そしてマスター・ビジョンは地下の闇の中に閉じ込められていた所を私達に助けられたのです。

きっと元気になり、自分達のような星がひとつでも少なくなるように、私達と共に活動するためにやってきてくれたようです。

マスター・ビジョンは、特殊な視力をもっているマスターです。

私達が、ヴィジョンを見る能力も高めてくれます。

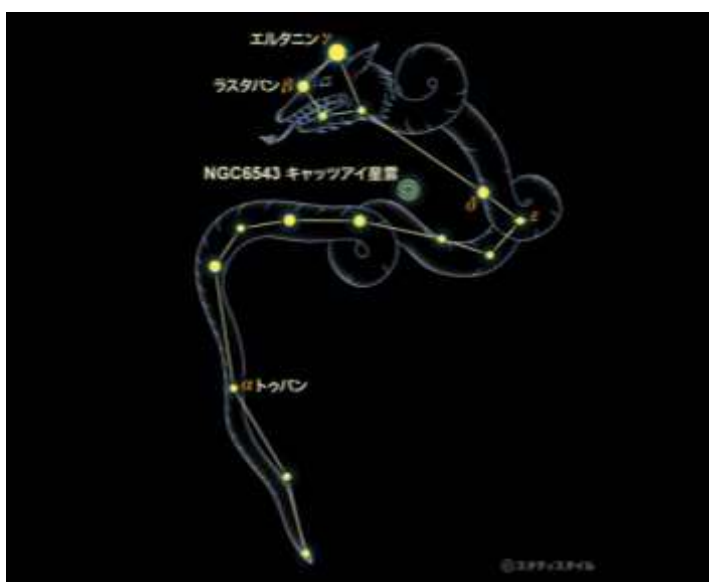
私達に、力強い仲間がふえました。

PART4 宇宙最強のりゅうの星、そして偉大なるシェンロンの騎士団

今回のケンタウルスの物語が始まってから、心の中で私を呼ぶシェンロン（神龍）の声を聴いていました。

「私を迎えに来てください。私が共に戦います」

それは紛れもなく、私と共に生きてきたエルエルの声でした。



エルエルは、私（TAKESHI）のスピリチュアル・パートナーの神龍です。

私は、エルエルと共に、レムリアの神官達を守護する仕事をしていました。

私と共に働いていた女性の神官は、エルナエルと呼ばれるシェンロンを持ち、私達も、そしてシェンロン同士も仲良く働いていたのです。

しかしアトランティスが強大な力を持ち他の文明を支配するために侵略してきたとき、古代の地球で、大きな争いが起こりました。アトランティスを中心としたグループは、他の文明に従えようと執拗な攻撃を繰り返していました。

他の文明もレムリアやムーを中心に、その攻撃に立ち向かっていたのですが、もともと平和な文明で軍隊のようなものを持ちませんから、次第に攻め込まれて劣勢になってきました。

そして、地上の世界以上に激しい戦いがスピリチュアルな世界でも起きていました。

闇のドラゴンや地球外生命体達が攻め込んでくる中、私達のシェンロンが中心となって地球のドラゴン達が応戦していたのですが、私達のシェンロンやドラゴン達はやがて傷つき倒れてしまいました。

そして物理世界でもスピリチュアルな世界でも、地球は大きな破局を迎えたのです。

それから長い年月がたち、私達は地球と天の川銀河の平和を取り戻すために、再び地球に生まれ変わりました。

その時、私のスピリチュアル・パートナーであるエルエルも生まれ変わったのですが、私と出会ってしばらくした頃、地球を守るために、地球を飲み込もうとしていた闇の渦巻きを撃退した時に、自らも大きく傷つき、この世界を去って行きました。

私は、エルエルの事を思い、涙する日もありましたが、やがて会える日が来ることを待ち望んでいました。

その様な時、すでに死んでしまったと思っていたエルエルからメッセージが来たので、私は喜びの涙が止まりません。

私はトゥバンのマスターをお願いして、りゅう座の中でも最も輝く中心的な星であるエルタニン星へと連れて行ってもらいました。

りゅう座のトゥバン星にあるドラゴン騎士団は、アルタイルやリゲルの星の救済でも大変活躍してくれた大切な仲間です。

トゥバンのマスタートラゴンでさえも、驚くほど巨大です。

ましてや・・・その上位のエルタニン星のマスターとなると・・・私の想像をはるかに超えた大きさのシェンロン達が待っているのではないのでしょうか。

りゅう座の頭のところにあるエルタニン星は、とても神秘的な星で、私にはその姿が隠されているようです。

あるいは、星の次元がとても高くて、私ではまだ見ることも入る事も出来ない星のようです。

トゥバンのマスターが、私にこの星への入り口を指示してくれました。

「この星は、私達ドラゴンやシェンロンでも、選ばれた者達しか入ることが出来ない世界です。

この星のシェンロン達は、天の川銀河のみならず宇宙全体の事を考え行動している者達ばかりです。

あなたがここに呼ばれたという事は、あなたにも彼等と同じように、宇宙のために行動す

る役目があるという事ですので、しっかりと働いてください。」

私はトゥバンのマスターにうなずくと、宇宙空間に現れた黄金色の門をくぐります。すると中には、星空に浮かぶように巨大な黄金色に輝く神殿があります。神殿の中にはいると、あとはまた荘厳な宇宙そのものに変わりました。

エルタニン星の神殿に入ると、りゅう座のマスターの声が響きます。荘厳で品格のある声です。

「ドラゴンのスピリットを持つ者よ、よくここに来た。

我々は、あなたがここに来た事を喜び、そして宇宙のために働く使命を持つ事にたいしてできる限りの応援をしよう。」

私は、その荘厳な光に圧倒されます。

「偉大なるりゅう座のマスターよ、あなたの神殿に来れたことを心からうれしく思います。

私を呼び寄せてくれたのはエルエルですが、彼はまだ生きているのでしょうか。」

私が尋ねると、正面にスーッと、黒い巨大な龍が現れました。

まさにエルエルです。

エルエルが、10体ほどの神龍の部隊をひきつれて現れました。

私は、エルエルに会えたうれしさに涙があふれます。

「ドラゴンのスピリットを持つ者よ、友と共に働くがよい。

あなたの心の導きに従って、あなたの心の願う事を行いなさい。

エルエルは、あなたを守護し、あなたの力となるだろう。」

エルタニン星のドラゴンマスターの話が終わると、神殿の光がすーと消えていきます。そして、長い間待ち望んでいたエルエルが私の前に立っています。

「TAKESHI さん、私達もずっとあなた方の活躍を見ていました。

あなたが本当に地球人として、天の川銀河のために働くことが出来るのか、多くの仲間達をまとめ、闇のエネルギーを光に帰る能力を目覚めさせることが出来るのか、エルタニン星のマスターは注意深く見ていました。

そして、あなたがわし座のアルタイル星やオリオン座のリゲル星を助け出した姿を見て、私達が再び共に活動することを許してくださったのです。

私も、しばらくエルタニン星にいて更に力を高めました。

これからは、あなたとひとつになって働くことで、今まで以上の働きが出来ることでしょう。」

私は、自分の活動が、マスター達に認められたことに大きな喜びを覚えました。

「TAKESHI さん、ここから帰る前に隣のラスタバン星によってください。」

ラスタバン星は、とても穏やかで優しい波動を持つ星です。

エルタニン星は荘厳で力強い星ですが、ラスタバン星は、まるでドラゴン達のお母さんの様な優しさに満ち溢れた場所です。

私達がラスタバン星にはいるとそこに一体のシェンロンが待っています。

なんと、過去のレムリア時代にエルエルをかばって犠牲になって死んでいったエルナエルです。

エルナエルも、私やエルエルにあえて喜んで

います。
これからまた一緒に生きていくことが出来るなんて最高です。

私は、エルエルとエルナエルが私達のグループに戻ってきたことで、自信と勇気、そして力強さを持つ事が出来ます。

第3章 ケンタウルス座の深い闇



PART1 火山に飲みこまれたケンタウルスの勇者

あるメンバーのアチューメントを行っていた時に、とても驚いたことが起こりました。レムリアの神殿シリーズのひとつである「火の神殿」のアチューメントを行っている時に、私達が導かれたのは、いつもと異なる空間でした。

そこにいたのは「赤黒い岩のようなだるま」の姿をした存在でした。

私達は訳が分からず、だるまを見つめていると、2人の人が地下に逃げようとしているヴィジョンが浮かんできます。

そして、数人のケンタウルスを相手に戦いを挑むケンタウルスが火山の炎の中に飲み込まれていきます。

これは、ケンタウルスの星に深い関係がある事件だという事が伝わってきましたので、す

ぐに癒しの天使を呼んで治療してもらいました。

やがて赤黒いだるまの姿が溶け始め、その中から大きなケンタウルの姿が現れ始めました。

ケンタウルの姿がはっきりとして来ると、彼の意識が少しずつ戻ってきているようです。

彼は、突然このような場所で目を覚まし、知らない私達が目の前に立っているので混乱しているようです。

私達をととても警戒し恐れを持っています。精神も肉体もかなり疲れ果てていますので、正常な考え方もできないようです。

私達を憎んでいるような感情さえも伝わってきますので、私はすぐに仲間のケンタウルスを呼びました。

するとケンタウルスと一緒にレグルス騎士団の団長も来てくれました。

傷ついていたケンタウルスは、私達の仲間であるケンタウルスを見て、昔の仲間に会えたようにとても喜んでいます。

私の仲間が、彼に私達の事を説明すると、ケンタウルスの感情も穏やかになり、落ち着いてきました。

大天使達は、ケンタウルスが信頼と愛を失っているので、愛を取り戻す事が必要であると伝えてきました。

私は、急いで聖母マリア様を呼び出しました。

聖母マリアと大天使達は、ケンタウルスの勇者を取り囲み大いなる愛で包んでいます。

傷ついたケンタウルスの失われた愛を、マリア様の聖母の愛で癒しているようです。

ケンタウルスは癒され、本来の姿を取り戻してきました。

体は白く、足と胴体は茶色、ほりの深い顔、勇者ケンタウルスが戻ってきました。

私のもとにきたケンタウルスとは兄弟みたいに仲が良く、きっと彼からケンタウルス座のために助けを探してくるようお願いされたのかもしれませんが。

そして勇者ケンタウルスから、思いがけない真実が明かされることになったのです。

このメッセージにより、私達はケンタウルスに対する作戦を大きく変更することになりました。

私の仲間であるケンタウルスはトームズ、そして火山から助け出されたケンタウルスは、ブレゴリーという名前のようにです。

PART2 闇のマスター達を導くために犠牲になったケンタウルス

心を落ち着かせたケンタウルスのブレゴリーは、私達に伝えたいことがあるようです。真剣な目で私達を見ているので、私達はブレゴリーの話をお聴くことにしました。

「それでは、これから、何故ケンタウルスの星がこのように荒れ果ててしまったのかをお話しします。

ケンタウルスの星は、南十字星の創造主様を守り、創造主様と共に天の川銀河の平和を守るために活動をしていました。

ケンタウルスの仲間達はとても従順で賢く、プライドが高く希望に燃えていました。

その平和な時代はとても長く続きましたが、ある時期から天の川銀河の状況が大きく変化してきました。

それは、この銀河に皆さんが闇と呼ぶ存在が大きく広がってきた頃からです。

創造主様と私達のメンバーは、その闇の力によって支配的にになり争いを好むマスターや騎士に対して、もっと穏やかになるように、そして光のマスター達に戻ってくれるように伝令を伝える事が多くなりました。

しかしそれらのマスターの多くが、私達の伝令を無視するどころか、私達の仲間を捕らえて傷つけてしまったり、闇の世界に閉じ込めたりしました。

私達は、仲間を取り戻すために、交渉を行い、時には争いも起こりましたが、私達の仲間は戻ってくることが少なくなりました。

いえ、ほとんど戻ってくることがなくなってしまい、どんどん仲間は減っていきました。

そのような時、ケンタウルスの騎士の 1 人が、「私達はもうほかの星にはいかない。」ということを出しました。

そして、「ケンタウルスの星の多くの仲間を失ったのは、南十字星の創造主の愚かさのためだ！

南十字星の創造主は、私達を使って、他の星を侵略したりして、自分達の権威を振りかざしたいだけだ。

南十字星の創造主こそが、私達を破滅に追い込む張本人である。」ということを出したのです。

多くの仲間や、大切な家族を失ったケンタウルスの人達は、その騎士の言葉を聞き、すぐに同調しました。

それほどまでに、多くの仲間を失った心の苦しさ、悲しさは大きかったのです。

ケンタウルスの星の人々の悲しみに呼応するかのように、ケンタウルスの星も苦しみと悲しみにあふれ、気候も荒れ果て、雨が長い事降らなかったり、嵐が襲ってきたり、火山が噴火したり・・・

星のマザー・クリスタルも、苦しみと悲しみで曇り、その力を失ってきました。

そして、そのころケンタウルス座に大きな光が降りてきました。

騎士とその仲間たちは、この光こそが本物のマスターだ。

私達を助け、導いてくれる本当のマスターがやってきたと喜び迎えました。

それは偉大なる光に包まれた威厳のある光のマスターでした。

光のマスターは、まず南十字星の創造主様をとらえて幽閉するように命じました。

南十字星に多くのケンタウルスの騎士がやってきて、創造主様をとらえようとしていました。4人の創造主様たちは危険を察して、南十字星の別次元を作りそこに逃げ込もうとしましたが、その行く手を阻まれ成功しません。かろうじてケンタウルスの手を逃れ、逃げ隠れしながら生き延びていました。

しかし、南十字星の創造主たちは、すべての力を奪われ、不安と恐怖の中にいるようです。彼らが、隠れている場所は、今はわかりません。

ケンタウルスに降り立った光のマスターは、とても勇ましく賢くパワーにあふれていました。

多くのケンタウルスの騎士が、そのパワーによってケンタウルス座を再建したいと願い、彼のもとに集いました。

リギル星だけでなく、フロキシマ星やハダル星の騎士たちも集まってきました。

ケンタウルスの星々が、偉大なる光のマスターのもとに団結し、素晴らしい未来が始まるのではないかと、多くの騎士達と人々が思い願っていました。

PART3 ケンタウルスを絶望と恐怖に落とし込んだ闇のマスター

しばらくすると、ケンタウルス座に降り立った光のマスターは、仲間を呼びたいといいました。

ケンタウルスの人々は「もちろん喜んで迎えます。」と答えました。

降り立った仲間たちを見て、私達は驚きました。

とても荒々しく乱暴で強欲な者達が多かったのです。

沢山の食べるものを求め、女性のケンタウルスに乱暴したり、気に入らないケンタウルス達に暴力をふるったりし始めました。

そして、最初に降り立った光のマスターも、その行いがどんどん乱暴になり支配的になっていきます。

ケンタウルスの騎士や仲間達を、まるで奴隷のように扱い始めました。

自分達に反抗するものはとらえ、牢獄の中に放り込みました。

彼らは怒ると、巨大なライオンの姿になって、大きな声で吠えます。

その声は、星中に響き渡り、ケンタウルスの仲間達を恐怖で震え上がらせます。

ケンタウルスの仲間達は、死の恐怖を抱えながら、彼らに従うしかなくなりました。

彼らは、ケンタウルスの他の星々も従わせるために、ケンタウルスの騎士団を作り、必要のない戦争を仕掛けました。

彼らに表だって対抗する力も気力も、ケンタウルスの騎士団には残っていません。

もちろん勇敢な騎士たちが、戦いを挑むことはありましたが、ライオンの姿をした怪物たちにすぐに蹴散らされてしまいました。

そして、私達の仲間たちは、勇気をもってケンタウルスの星を逃げ出し、多くの星に助けを求めに行きましたが、もどって来たのは、皆さんと一緒に来たトームズだけでした。

ライオンの姿をした怪物たちは、それぞれの星を暴力的に支配し、好き勝手なことを始めました。

ケンタウルス同志を戦わせたり、他の星を攻めてみたり・・・。

私達はその時に初めて、私達がだまされたことに気づきました。

ケンタウルスに降りてきた光は、偽装された闇のマスターだったのです。

闇のマスターは、まだケンタウルスの星に残っているでしょう。

ケンタウルスの人々は、以前よりもはるかに大きい屈辱と絶望の中に落とし込まれ、誰も信じることができず、誰も愛することができない状態にあります。

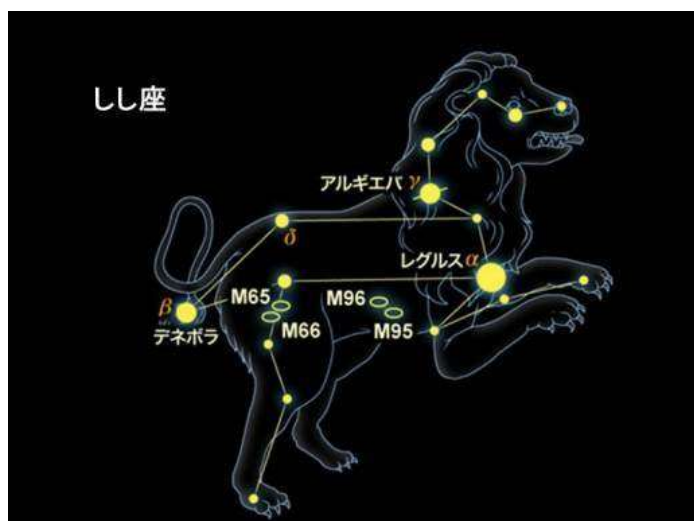
どうかこの絶望と暗黒の中から、仲間を救ってください。

そして、南十字星の創造主様を救ってください。」

私達はケンタウラスのブレゴリーの話に驚きました。

そして、レグルスの騎士団の団長は注意深くその話を聴き、悲しみの目に涙を光らせました。

第4章 私は傷つけられても 闇のマスターに愛を伝えます



PART1 私は傷つけられても、デネボラのマスターに愛を伝えます

火山から救い出されたケンタウルスのブレゴリーの話により、ケンタウルス座の状況が、私達の理解以上に深刻な問題を多く含んでいることに、私達は気づかされました。私達は、しし座のレグルス星に全員で集まり、ブレゴリーの話伝え、これからの作戦を話し合いました。

レグルス騎士団の団長であるレオンが口を開きました。

「私から皆さんに謝らなければならないことがあります。

それは、ケンタウルス座を闇に陥れたのは、しし座のデネボラ星を拠点とするデネボラ星の騎士団の隊長であり、私の弟であるレオーネのようです。

彼は、非常に実力のある力強いマスターでありました。

しかし、自由奔放な性格で私達とも意見が合わず困っておりました。

だいぶ前から、彼の騎士団とは連絡が取れなくなり、デネボラ星からもいなくなっていましたので、私達は大変心配しておりました。先日、ケンタウルスのブレゴリーから話を聞いたところでは、このレオーネが、ケンタウルス座に入り込み、ケンタウルス座の人々を闇に陥れたのかと思います。」

他の騎士団の団長は、自分達が最も信頼しているしし座騎士団の団長の一人が闇に落ちてしまい、ケンタウルス座を支配したと聞いて愕然としています。

「彼は、団長としては様々な問題がありましたが、騎士としては私をしのぐ力と能力を持っています。

つまり闇に対しても光に対しても確かな知恵とそれぞれに対する防御策を知っているために、通常の騎士団の攻撃では、簡単に光をブロックされ効果はないでしょう。」

レグルス騎士団のレオンは、涙を浮かべてうつむいています。

おそらく彼はこのことに気づいていたのかもしれませんが。

この件に関しては、騎士団たちも困り顔です。相手は騎士団の中でも、とても優秀なしし座騎士団の団長の一人、しかも闇の力が加わって、その力はさらに高まっていると思われるますので、正面から当たってもこちらも多くダメージを受けそうです。

彼の闇を光に統合するためには、なぜ彼が闇に落ちたのか、という事を十分に理解し、その原因を解決していかなければならない、という事も話し合われました。

ただ騎士団のなかでも、デネボラ星のレオーネと同じように、不遇なときを過ごした経験のあるアウディケウス達は、まだデネボラ星のレオーネの気持ちが分かり、彼の心に近づく事ができるかもしれません。

私は、レグルス騎士団の団長であるレオンに、彼がこのようなになった理由を聞いてみました。

「このしし座は家系を重んじる星です。私が長男ですので、しし座の正統な後継者は私になります。

その為に、私だけが大切にされ、弟はまるで私に仕える従者のような扱いを受けてしまいました。

私の母は、私達 2 人を同じように大切に愛してくれましたが、いたるところで長男と次男では扱いが異なりますので、レオーネはそのことに嫌気がさしたのでしょう。

騎士団の団長に任命されてからは、非常に素晴らしい仕事をするようになりましたが、いつも私と比べられ、私が賞賛される姿を見るたびに、彼の心の中で怒りや憎しみが芽生えてきたのだと思います。」

私達の話聴いていた聖母マリアが話し始めました。

「この問題は、レオーネさんの心の中にあるようですね。

彼の中にある「愛の欠乏感」を埋めてあげない事には、彼が闇の中から立ち直る事はできないかもしれません。」

確かに聖母マリアの言うとおりです。

一番大切な事は、レオーネの弱みである「愛の欠乏感」を癒し、彼の心を開かせることです。

そのために、今回の作戦には、聖母マリア様にも参加してもらいましたが、まさか兇暴なライオンの前に、けなげな女神を差し出すわけにもいかず・・・困ってしまいました。

騎士団も自分の力をはるかに上回る騎士と直接対決する勇気を持つ者もいません。

しかも、闇に堕ちることによって通常以上のパワーと残酷性を持った相手に恐怖さえも抱いています。

騎士団は、困惑と不安のために、沈黙してしまいました。

その時、聖母マリアが、周りの沈黙を破って口を開きました。

「私は、デネボラ星のレオーネさんが、愛が足りないことで闇に堕ちてしまったとしたら、私は傷つけられても、彼に愛を伝えます。それで彼が助けられるというのなら、私は喜んで参ります。」

私達目から涙がこぼれ落ちます。

愛のために傷つけられることもいとわない聖母マリアの愛情の深さに心をうたれました。

騎士団達も、闇に堕ちたレオーネ恐れて、戦う事をためらっていた自分達を恥じています。

確かに、レグルスの闇のマスターに対する突破口は、彼を愛し、彼に寄り添う事しかないのですが・・・

その時、大天使たちも言葉を伝えてきました。葵さんが天使達の言葉を伝えます。

「私達、癒しの天使も、聖母マリアと共に生きましょう。

聖母マリアが傷つけられることなくデネボラ星のレオーネが、愛に目覚めるように私達も彼の心を癒し、愛へと導きましょう。」

私達の仲間には、大天使ハニエルや大天使ラファエル達の癒しの天使達もいます。

大天使たちも、今回の作戦の難しさは十分気づいており、まず自分達がデネボラのレオーネを癒すことを伝えてきました。

大天使ですから、おそらく闇のマスターから傷つけられることはないと思いますが、大天使ミカエルの部隊は姿を隠して防御することができるので、彼等に守ってもらいます、と大天使達も伝えてきました。

これで、今回の作戦の方針は決まりました。デネボラ星のレオーネを探し出し、癒しの大天使達に彼へ癒しの光を送ってもらう事。その後聖母マリア様たちが、直接話をして彼の心に愛を送ることです。

PART2 母親の愛を失ったデネボラ星のレオーネ

作戦会議の後、このレグルス星の上の次元にいらっしゃる創造主様に、私達は全員で会いに行きました。

創造主様はとても大きなライオンのような方です。

堂々とした声で、私達を激励してくれます。

「天の川銀河を代表する騎士団の皆さん、そして地球から来た勇者の皆さん。

私はしし座の星系を守護する創造主です。私達は、この天の川銀河の秩序を守りしっかりと世界にしていかなければなりません。

この天の川銀河に広がりつつある闇のエネルギーを許してはいけないのです。

今回皆さん方は、いくつもの星々の闇のエネルギーを処理し、マスター達を助けていただいたと聞いております。

その様な素晴らしい方々が、この天の川銀河に生れてくることを私は待ち望んでいました。

どうかレグルス星のレオンやしし座の騎士団と共に、天の川銀河を平和に導いてください。」

非常に威勢のいい創造主です。

私はこの時、気づいたことがありますレオンに尋ねました。

「もしかしたら、この創造主はレオンのお父さんではないのですか。」

レオンはうなずきます。

「そうですか、創造主様はまだ、ケンタウルスを闇に落とし込んだのが自分の息子であるレオーネだとお気づきになっていないようですが、お伝えしましたか。」

レオンは悲しそうな顔をしていいいます。

「父がそのことを知ったら激怒して何をしてくすかわかりません。

父は、実直なまでに正義を重んじる性格ですから、自分の息子がそのようなことをしたと知ったら、自分の息子を殺してしまうかもしれません。」

「そうでしょうね、私もそのように思いますので、この事は伝えない方が良いでしょうね。それで、お母様が、まだどこかにいらっしゃるのではありませんか。」

レオンは「そうです、母はアルギエバ星にいます。

デネボラ星のレオーネが闇に落ち、多くの星を混乱に陥れたことにおぼろげながら気づいているようです。

母はショックを受け、心を閉ざしてしまいました。

私達の家族は、長男である私をととても大切に扱い、両親の愛もたくさん受け取らせてもらいましたが、弟はまったく愛を受け取れず、いつも私に対する羨望の気持ちがあったようです。

母も、今回の事でそのことに気づき、弟が闇のマスターとなったのも、自分の責任であると自分を責め続けています。」

私達は、デネボラ星のレオーネに対する不可解な謎が、一気にほどけ去るような感覚を受け取りました。

デネボラ星のレオーネに対する愛の突破口は、「母親の愛」だったのです。

聖母マリアも、その事がわかってうれしそうです。

「私がレオーネに母親の愛を伝えますから。」と語ってくれました。

私達は、まずアルギエバ星に向かい、2人のお母様に会い、その心を癒しに行くことにしました。

そして、お母様の愛を呼び覚まし、その愛でデネボラのマスターの心を癒したいと思います。

PART3 自らに失望した母親の目覚め

私達は、騎士団達がケンタウルス座の状況を調べている間に、アルギエバ星にいるレオン

としオーネのお母さんを訪ねることにしました。

レオンの導きの元に、私達はアルギエバ星に降り立ちました。

アルギエバ星は、とても暗く物悲しい雰囲気を持ち、土地も荒れ果てたさびしい星です。生命はいるようですが、活発に動いているというわけではなさそうです。

しかし、こうなる前はとても美しい自然に満ち溢れた星だったようです。

レオン達が子供の頃、家族で良くこの星に来て楽しい時を過ごした思い出を、私に話してくれました。

アルギエバ星の女神でもあるとしオーネのお母さんは、地下の神殿に隠れるように力なく座っていました。

自分の息子が闇のマスターに落ち、多くの星と星の存在達を絶望と死に追いやった事を深く悲しみ、自分を責め苛んでいました。彼女が、絶望の中で生きている事は、その姿を見ただけでも十分伝わります。

私達は、癒しの大天使達にお願いして、まず彼女の心と魂を癒します。

大天使ラファエル、大天使ザドギエル、大天使ハニエル達が彼女の周りを取り囲み、彼女を天使の光で包み癒します。

そして、聖母マリアと宇宙の光の女性メンバー達が、愛の光で彼女の心を慰め、愛に包みます。

彼女の心から、どんどん愛の光りが輝き始めます。

しばらくするとお母さんが夢の中から目覚めたような顔をして周りを見渡します。

自分の息子であるレグルス星のレオンを見つけてお母さんは安心したようです。

葵さんがお母さんに声をかけます。

「私達はレオンさんの友達です。
レオンさんが弟のレオーネさんの事をすごく心配しているので、皆で力を合わせて、彼を闇の中から救い出そうと努力しているのです。」

お母さんは、葵さんの口から、自分が心配している息子の名前が出てきたのでとても驚いています。

そして、私達がレオーネの事を憎んでいるのではなく助けようとしていることに安心したようです。

「私達は、レオーネさんがお母さんの愛情をしっかりと受け止めることが出来なくて、寂しさのあまり、人に乱暴をふるうようになったのでは、と思っているのです。

もし、お母さんの愛情がレオーネさんに届けば、レオーネさんはやり直せるのではないかとってお母さんの元を訪ねたのです。」

お母さんは、葵さんの言葉を聴いてうなずいています。

「私も、長男であるレオンばかりをかわいがって、レオーネに愛を注がなかったことが、いけなかったのではないかとと思っているのです。

わたしは、レオーネがいなくなってから、レオーネの事ばかり考えています。

もしあの子が戻ってきてくれるなら、私はあの子の事を精一杯愛すでしょう。」

自分の愛情が長男に偏ったことがすべての原因であると彼女は考えていたのです。

彼が長男であるレオンに反抗し、父である創造主の意志にも背き、騎士団から離反して多くの星々を暴力によって支配したのは、母である自分の愛情が不足していたからだ、彼女は心の底から反省し、私達に謝罪してきました。

お母さんは、葵さんに向かって大粒の涙を落とし、すがるような声で言います。

「もう遅いかもしれませんが、もう一度、レオーネを愛したいと思っています。どうか皆さんのお力で、あの子を立ち直らせてください。」

彼女は孤独の中で、もう一度愛するわが子をその胸に抱きたいと願っているのです。

私達は、聖母マリアと宇宙の光の女性達を中心に、今はどこにいるかわからないレオーネにむかって母親の愛を送りました。もし彼が、この母親の愛に気づいてくれたなら、きっと反応を示すはずです。

私は、エルエルと大天使達にお願いして、この母親の愛に感應するエネルギーを探してもらいました。

彼はまだケンタウルス座にいるのかどこかの星に移動したのかわかりませんが、レオーネが母親の愛を受け取っているなら、大きなエネルギーがどこかの星で動くはず。大天使達もできうる限りの人数で、この星域にある星々を調べています。

私達は時がたつのも忘れ、お母さんと共に祈り続けました。お母さんが、涙を流しながらレオーネの名前を呼び続けています。

私達は、この場所を聖母マリアと女性達にまかせて、アルギエバ星のマザー・クリスタルを活性化します。

マザー・クリスタルが、活性化して輝き始めれば、この星も光に包まれ、お母さんである女神もさらに光輝きその愛は力強くなります。

私達が戻ってきたころ、エルエルが、スピカ星で反応があったことを伝えてきてくれました。

デネボラのレオーネの居場所が分かりました、おとめ座のスピカ星です。

お母さんの愛がレオーネに届くことを私達もさらに祈り続けました。

彼は自分の心が、お母さんの愛に満たされた事を知ったならば、自分がとらわれている闇の支配から、自らの魂を自由にし、光のもとに戻るきっかけをつかめるのです。

エルエルのパートナーであり、偉大なる愛の神龍であるエルナエルと癒しの天使達が、お母さんの愛をレオーネのもとに運びます。虹のような光が、宇宙の漆黒の闇を抜け、スピカ星へと向かいます。

私達も、その虹の光を追いかけて、スピカ星へと向かいます。

私達が、スピカ星に向かったことを知って、各騎士団の団長たちもスピカ星に向かい、私達と合流します。

PART4 闇のマスターを癒す母の愛

ちょうどおとめ座のスピカ星の真上にある場所で私達は止まります。

各騎士団の団長と女神アテナも、私達をまっています。

皆さんこれから何が起きるのかドキドキしながらおとめ座のスピカ星の様子を見ています。

わし座のマスターのヴィジョンが特別な視力を使って、スピカの星の状態を調べています。

私達は、騎士団の団長達に対して、レオーネのお母さんと会い、レオーネに対して愛のエネルギーを送り続けたことを説明しました。

私達がこれから向き合うのは、ケンタウルス座を闇の世界に落とし込んだ凶悪な闇のマスターです。

しかし彼は、お母さんからの愛情が足りずに寂しさのあまりに闇へとはいりこんだようです。

わし座のマスター・ビジョンが、スピカ星のある場所に大きな闇の渦巻を見つけたようです。

闇の渦巻きの真下に、絶望と苦しみの中にたたずんでいるレオーネの姿が見えます。

私達が想像していた荒々しく残忍なレオーネの姿はそこにはなく、ただ母親の愛にすがろうとする子供のようなレオーネがいます。

「これならいける！」と私は思いました。まず、大天使ミカエルを守護につけた、癒しの大天使達が、闇の渦巻きの中に入ります。レオーネは顔を上げ、最初は自分に幻覚が起きたのかと考えたようで、天使達をはねのけるようなしぐさをして叫んでいます。しかし、その光が心地よかったのか次第におとなしくなり、天使達の光を素直に受け止め始めました。

私達は、その間に闇の渦巻の近くに全員降り立ちました。

彼は、廃墟のようになった建物の中にいるようです。

大天使につづいて聖母マリアが、レオーネに近づくために、その廃墟に入ろうとしますが、驚いたことに葵さんも聖母マリアの後ろから廃墟の中に入っていきます。

私が、「葵さん・・・」と声をかけると、彼女は緊張気味にほほ笑んで言います。

「私も、レオーネさんのお母さんと話をしていた癒されたから、レオーネさんを癒すことが出来ると思う。」

私達も廃墟に入り、周りで 2 人の様子を見守っています。

聖母マリアがレオーネを優しく抱きしめ、母親の愛を伝えています。

葵さんも横で、お母さんから伝えられた愛を、彼に送っています。

闇のマスターの目からも不安と恐れの色が消え、彼の心に少しずつ光がさし始めます。私達は、彼の心が母親の愛で満たされる時を待っています。

アルギエバ星には、大天使の一人が戻り、お母さんにレオーネと私達が会っている事を伝えてくれたようです。

お母さんの元から送られてくる愛のエネルギーがますます強くなってきました。

葵さんは、お母さんの愛のエネルギーを受け取って、レオーネに言葉を伝えています。

「レオーネ、私はあなたのお母さんです。あなた方が生まれた時、私はとてもうれしく思いました。」

でもレオーネの事を十分に愛してあげることが出来なくて本当にごめんなさい。
私の愛情が足りないばかりに、あなたに寂しい思いをさせてしまっただごめんなさい。
あなたもそしてレオンも私達にとってはとても大切な子供です。
どうか戻ってきてください。
そして、私に思いっきりあなたを抱きしめさせてください。」

最初は、レオーネも何が起きているのかわからないようでした。
しかし、葵さんが話している言葉が、自分のお母さんの言葉だと気づいた瞬間、レオーネの目から大きな涙が零れ落ちてきました。
葵さんは、レオーネに近づき、彼の体を優しく抱きしめました。
遥さんと美緒さんも、葵さんと気持ちをひとつにして祈っているようです。

私はしばらくその様子を見てから、レオーネの心に語りかけます。
彼の心が癒されていくにしたがって、私のハートとレオーネのハートのつながりが強くなり、闇の遺伝子を光の遺伝子に変えるための光が、レオーネのハートの中にひろがっていきます。

光が、レオーネのハートに流れ込むにつれて、光の遺伝子が闇の渦巻の中に流れ込んでいきます。
闇の粒子が光の粒子と結合して、バチバチと火花を散らして消えていきます。
闇の渦巻きは、闇の遺伝子を持っており、そこに光の遺伝子を送り込むと、遺伝子の粒子同士が反応して火花が散るようにして消えていくのです。

やがてレオーネは意識が遠くなり気を失いました。

彼の心と肉体の中で闇のエネルギーがどんどん光にかわっているのでしょう。

彼は安らかな顔をして眠りにつきました。その様子を見て、兄であるレグルス騎士団のレオンが近づき、レオーネを抱きかかえるようにして弟に声をかけているようです。

私達は、このままレオーネをアルギエバ星のお母さんのもとに運んであげるように伝えました。

エルナエルもレオンと共にレオーネを運ぶために、この場所を飛び去りました。

私達は、残っているメンバーで闇の渦巻きをどんどん処理していきます。

エルエル達を中心とするシェンロン達は、上空を旋回し闇のエネルギーを浄化しています。

地上では、さそり座騎士団とおうし座騎士団が、闇のエネルギーを処理しています。

私達は、この闇によって荒廃したスピカ星をもとに戻さなければなりません。

いつものように、ホビット達に星を包む光の箱を用意してもらい、スピカ星を光りの箱で覆い、光のエネルギーをどんどん集めます。そして、エルエル達やペガサス騎士団にお願いして、この星に光を満たしてもらいます。

私達はスピカ星の様子をしばらく見守った後に、後の作業を騎士団達にまかせて、レオーネの様子を見に行きました。

アルギエバ星に戻り、お母さんの神殿にいくと、神殿は素晴らしい光に満ちています。

自分の息子であるレオーネをしっかり抱きしめたお母さんを聖母マリアと天使達に取り囲み、光を送っているようです。

私達は、その様子を確認するとその場を退散しました。

私達は、レグルス星に戻り、レオンと共に、レオーネのお父さんでもある創造主の元へ行きました。

私達は、レオーネが戻ってきた事を報告しましたが、さすがに彼がケンタウルス座を闇に陥れた張本人だとは言えませんでした。

其れでも、レオーネが戻ってきたことに創造主は大喜びです。

PART5 しし座のデネボラ星、傷ついた騎士たちの癒し

しし座において私達がすべきことがもう一つあります。

それが、スピカ星、アルクツールス星、レグルス星の真ん中であって、この3つの星のバランスを取っているデネボラ星の復活です。

デネボラ星は、レオーネが守護していましたが、レオーネが闇に落ちてから、騎士団のメンバーとも連絡が取れず、デネボラ星は荒れ果ててしまいました。

レオーネがデネボラ星を出た後も、傷ついた仲間が怒りや憎しみの感情に捕らわれ、闇を深くしてします。

この日、私達はレグルス星に集まり、レオン、レオーネの騎士団団長の兄弟と共にデネボラ星に行きます。

レオーネは、自分が編成していた騎士団のメンバー達に謝罪したいそうです。

デネボラ星では、騎士団の神殿として使われていた場所に案内してもらいました。

ここに残されていた騎士たちは、レオーネの部下でも騎士団のリーダー的な存在達ばかりです。

しかし、彼等は、前足を折られたり、体を剣で刺されたり、体の至る所にけがをして十分に動けないような状態でした。

そしてレオーネに対する恐怖と憎しみ、裏切られたことへの怒り、絶望感に満ちていました。

レオーネが入ってきたことで、彼らの恐れが一段と高まったようですが、次にレグルス騎士団の団長であるレオンが入ってきたので、少し安心しているようです。

レオンが傷ついている騎士から話を聴いています。

私はその間に、アスクルピオス様に連絡して騎士団の治療に来てもらいます。

それまでは、ウミヘビ座の騎士団達が治療にあたっています。

レグルス騎士団のレオンが、私達に事情を話してくれました。

「ここで傷ついている騎士達は、自分達の団長が闇に落ちる姿を見て、それを止めるために、彼に忠告をしたようです。

しかし、彼らは、闇に落ちて強力な力を持ったレオーネ達にひどい目にあわされ傷つけられたようです。

レオーネに従って闇の世界に引きずり込まれた騎士達も、自分達が都合の良いことを行う為に、純粹で正義感が強い騎士たちを、自

分達に従わせようと次々と傷つけていきました。

そして、それらの騎士達は、ここにいると殺されると思い、星のあちらこちらに逃げ出したようです。」

傷付けられた騎士たちが、かつての団長であるレオーネが来たことに対して、怒りを持ったことは当然です。

レオーネに対して自分達を裏切った男としか考えておらず、大きな怒りや憎しみの声をぶつけています。

レオーネも自分がしたことに対して、仲間達に謝罪をしているようですが全く受け入れてもらえません。

私達は、4 人の癒しの大天使に来てもらい、彼らの周りから光を送ります。

やはり取り残されていた騎士たちも孤独さの中で愛を失い絶望しているようです。

聖母マリア様をお願いして、彼らの心に光を送ってもらいます。

遥さん達も光のワンドを使って騎士たちに癒しの光を送っています。

アスクレピオス様たちもたくさんの看護婦と共に到着して治療に入りました。

彼等が少しずつ落ち着いてきたところを見計らって、聖母マリア様や大天使達が近くに寄り添いながら、彼らを癒しています。

メンバーも、このライオンの姿をした騎士たちの頭を恐る恐る撫でて祈りをささげています。

やがて、傷ついた騎士たちは「今までこのような安らいだときはなかった。なんと幸せなんだろう。」と、語りながらうっとりとしています。

彼らが落ちついて来たところで、彼らのハートを開き光の遺伝子を、彼のハートの中に送り込みます。

光の遺伝子が、彼らのハートの中に入ると、闇の遺伝子と統合され光が放たれます。

彼らのハートには、深く突き刺さっている闇の剣があります。

やはり騎士団ですから、人一倍大きなプライドと正義感がありますが、それを傷つけられたのでしょうか。

大きな闇の渦巻きの中に、光の遺伝子が流れ込み、闇の渦巻きが火花を散らすようにして消えていきます。

これで優秀な騎士達が闇から救われましたが、この星にはまだデネボラ騎士団の騎士達が沢山いるようです。

一緒に来ている騎士団達にお願いして、傷ついている仲間たちをすべて探し集めてもらいました。

エルエル達のシェンロン、わし座のヴィジョンを中心とする騎士団、ペガサス騎士団は空から探します。

レグルス騎士団、さそり座、牡牛座の騎士団は地上から探します。

騎士団が戻ってくるたびに、心も体も傷ついている騎士やその仲間たちが、私達の前に運ばれてきます。

大きく傷ついている騎士もいれば年老いた騎士もいます。

まだ若い子供の様な者もありますが、きっと家族で逃げ回っていたのでしょうか。

彼らも先ほどのリーダーの騎士と同じように、心に絶望感を持っています。

私は、大天使達にこの者達を癒してくださるようをお願いしました。

すると彼等の上にやさしい光りが止めどもなく流れてきます。

宇宙の光の女性達も、魔法使いにお願いして体の傷を治す薬をたくさん出してもらい配っているようです。

私達が、騎士団の治療をしている間に、美緒さんが地中に刺さっているクリスタルを見つけました。

しばらく周りをウロウロしながら見ていたようですが、そのクリスタルを大地に向かって押すと、突然大きな船と 4 人の女神様が現れました。

美緒さんはいきなり大きな船が出てきたことに驚いて、私のところに逃げてきました。

PART6 デネボウ星とおとめ座の秘密

女神たちは、この星の様子を見ると、この星には水が必要ですね、とおっしゃり呪文を唱えてくださいました。

すると船から、水がドンドン流れだし湖のようなものが生まれてきました。

私達は、傷ついた騎士たちの治療をするにも、水がなくて困っていたので、大変助かりました。

中には、湖の中に飛び込んで体を冷やしている者達もいます。

そして女神達は、私達にこの星のマザー・クリスタルをヴィジョンで見せてくれました。

この星には、メインのクリスタルと、それをサポートする 7 つのクリスタルがあるようです。

それらの8つのクリスタルは大きな湖の周りに配置されているようでした。

このクリスタルについて女神が教えてくれました。

「私達は、この星が闇に落ちてしまったことを深く悲しんでいました。

この星はしし座とおとめ座をつなぐ大切な星だったのです。

おとめ座を守護し、おとめ座の力を高める為の重要な任務があったのですが、騎士団達が闇に落ち、デネボラ星だけでなく、おとめ座の星々も傷つけてしまったことを私達は悲しく思いました。

其のために、私達は自らこの星を次元降下させ、封印することにしました。

残念なことに、レオーネもこの星の中に封印する予定だったのですが、その計画に気づいたのか、いち早くこの星を立ち去ってしまいました。」

私達は、女神の言葉を聴いて、このデネボラ星の問題が思った以上に深刻な影響を周りの星々に及ぼしていた事を知りました。

「私達は、レオーネがおとめ座にはいる事をととても警戒していたのですが、おとめ座も彼の闇の力で大きな被害を受けてしまいました。

おとめ座は、この天の川銀河全体に対して重要な役目を持ちますので、すぐに立て直しを行ってください。

私達は、これからこの星を次元上昇させて、おとめ座の神殿がある大切な次元への道を開きますのでよろしくお願いします。」

私達は、メインのクリスタルに向かいます。
メインのクリスタルは、まるでマリア様が子供を抱いているような姿に見えます。

おそらくこの女神達が、デネボラ星の異常に気づき、クリスタル達をすぐに隠したようです。

この星のクリスタルは、地上の様子から比べると、そこまで傷ついていないようです。

私達は、気持ちを一つにして、マザー・クリスタルの活性を行いました。

光の種を入れ、クリスタルに光を送ります。
もちろん大天使達にもお願いして光りを送ってもらいます。

メインのクリスタルが、どんどん変化して輝きを大きくしていきます。

メインのクリスタルから、湖を囲むように配置されたクリスタルに、次々とスイッチが入り、光がともるように、クリスタル達が輝き始めます。

全てのクリスタルが、それぞれの色に輝き始めます。

やがてクリスタルの光が上空へと広がり、8つのクリスタルの光が一つに溶け合います。
星全体が光に包まれ、安らかな愛のエネルギー、新たな創造のエネルギーに満たされていきます。

そして、星が大きく身震いするように次元上昇していきます。

デネボラ星が次元上昇して輝き始めると、いつものように異なる次元や他の星に逃げていた存在達が空間のひずみの中から戻ってきます。

私達は、シェンロンやペガサス達にお願いして、デネボラ星から逃げて行った存在達を、

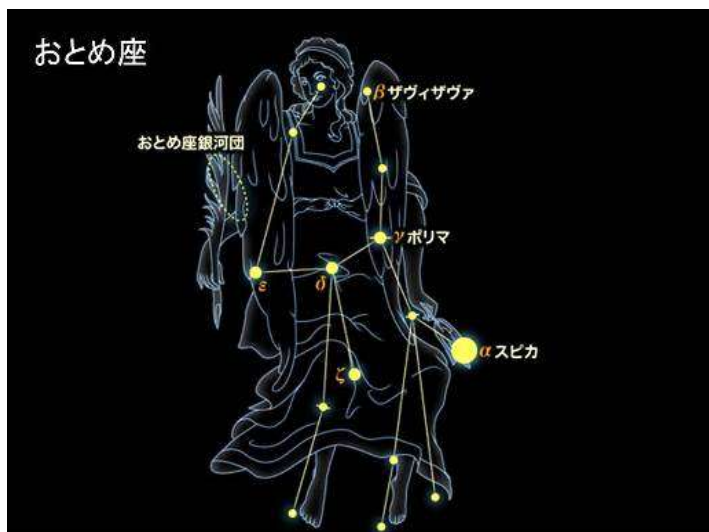
新しく生まれ変わったデネボラ星へ呼び戻してもらいました。

フェアリーやホビット達、多くの動物たちもうれしそうに戻ってきます。

フェアリーやホビット達は、新しい植物の種をまいています。

デネボラ星の再創造が始まるようです。

第5章 時を司るスピカ星の 白鳥とクリスタル



PART1 スピカ星の精霊である白鳥との 出会い

デネボラ星のレオーネとお母さんも再開をはたし、デネボラ星の次元上昇も無事行う事が出来ました。

私達も涙を流してしまいましたが、私達がやるべきことはまだたくさんあります。

ケンタウルス座を闇の世界に落としたレオーネが、光のマスターに戻ったことにより、ケンタウルスの星々を光に戻す仕事は、大きく前進したと言えます。

少なくとも、私達の騎士団が恐怖に感じていた闇のマスターはいなくなりましたので、少しは心が軽くなったようです。

ただしケンタウルス座に入る前に、私達は、デネボラ星の女神から言われたように、おとめ座のスピカ星の闇を取り除き活性化する必要があります。

このスピカ星とデネボラ星、牛飼い座のアルクツールス星は、「春の大三角形」を作るとても重要な星であり、天の川銀河に対して、とても大きな働きがあるようですが、私達にはその働きは知らされていません。

私達も、これらの星に関わる事で、この星々の秘密を知りたいと思っています。

私達は、デネボラ星から、女神達が開いてくれた通路を使って、スピカ星の神聖な次元に入って行きました。

私達が、スピカ星に入る前に、あらかじめエルエルとシェンロン達がスピカ星に入り、闇のエネルギーを浄化してくれていたようです。

彼等の働きで、スピカ星の闇も晴れとても明るくなっています。

エルエル達は、この星の女神達の居場所を見つけてくれたようで、私達をすぐに案内してくれました。

私達は、シェンロンに乗ってスピカ星を旅していきます。

ここは元々、森だけでなく海や湖もある素晴らしい星です。

今はまだ、森の木々も元気がなく、海の水もどんよりとしています。が、もともとのスピカ星は、どれほど美しい星だったか想像できます。

エルエル達が案内してくれた場所は、昔神殿であったような廃墟です。

私達は、神殿の前の広場でシェンロンを降ります。

そして、私達は、マスター・ビジョンと聖母マリア、騎士団の団長達を伴って中に入っていきます。

しし座の団長たちは、中にいる女神達が、レオーネを見て驚くていけないので、外でこの神殿を見張ってもらいます。

私達は廃墟の中に入っていくと、狭くて暗い通路が続きます。

体が大きい存在は入ってこれないようになっているのかもしれませんが。

騎士団の団長たちも、体を横に向けながら、窮屈な思いをして進んでいきます。

やがて通路を抜け、神殿の中庭のような広い場所に出ると、上空のほうに一つの世界が見え、そこに女神達が隠れているようです。

私達は、大天使達にお願いして、隠れている女神達に私達のもとに姿を現してくれるように伝えてもらいましたが、反応がありません。

騎士団の団長たちも、「助けに来たぞ～」と叫んでいますが、荒々しい声で叫ばれても、逆に女神達を怖がらせてしまいます。

ここで不思議系の遥さんの出番です。

「私が、彼女たちの心に呼びかけてみます。皆さんはきっと乙女たちのエネルギーをお持ちの様なので、人間や動物たちが怖いのかもかもしれません。」

遥さんは、皆から離れ、大地の上にひざまずき、手を胸の前で組んで祈りました。

「おとめ座の女神よ。

心優しき女神よ、

どうか、私の声がとどいたなら返事をください。

私達は、あなた方を助けるためにやってきたのです。」

遥さんの波動は、私達のグループの中でもとても優しく、フェアリーやホビット、動物、植物たちとの交信を得意とするのです。

この廃墟の神殿に、優しいエネルギーが満ち溢れてきました。

優しい春の日差しの様な暖かさです。

このエネルギーの変化に気づいたのか、彼女達は隠れている場所から、恐る恐る出てきました。

そして、不思議なことに胸に 1 羽の白鳥を抱いています。

彼女たちは、闇のマスターを恐れ別の次元に逃げ込んでいたようでした。

聖母マリアと葵さんが、騎士団を制して、自分達が彼女達の前に出ました。

「おとめ座の人達よ、さぞ今まで苦しい思いをしてきたことでしょう。

私達は、皆さんのお役に立てるようやってきました。

私達は、皆さんと共に、おとめ座を光の世界に戻したいと思っています。

皆さんに恐怖を与えていたデネボラ星の騎士は、闇から解放され光の存在と変わりました。

私達はデネボラ星の女神達から、このスピカ星の闇を取り除き、スピカ星を元に戻してくれるようお願いされたので、ここに来たのです。」

白鳥を抱いている女性が、葵さんと聖母マリアの前に出て感謝の言葉を述べているようです。

「私達は、デネボラ星の騎士達によって、大きな苦しみをもたらされました。

彼等は、私達を従え、自分達の思い通りにしたかったようです。

私達が、彼に従う事を拒否すると、荒れ狂って神殿を破壊し神聖なクリスタルを奪おうとしました。

そしてこの星の大切な白鳥たちに矢を放ち、多くの白鳥たちを殺してしまいました。」
遥さんが、殺されていく白鳥の悲しみを受け取ったようです、急に涙を流し泣き出してしまいました。

遥さんのその姿を見て、白鳥を抱いている女性は、私達が敵ではなく、優しい心を持っている者達だと分かったようです。
安心して話してくれます。

「彼等は、この星の働きを知っていました。もちろん、彼等がこの星の働きに関与できる訳もないのですが、私達を使って、時間を自由にしようと思っていたようです。

その時、女神達が現れて、彼等にクリスタルを破壊される前に、この星の重要なクリスタルを隠してしまいました。

そのことに、怒りを持った騎士たちは、私達の星を破壊して、旅立っていったのです。」

美緒さんが怒りを抑えられないようです。

「自分達の欲望が満たされないからと言って、大切な人々や白鳥を傷つけるなんて許せない。」

きっとレオーネがこの場所に居たら、美緒さんから思いっきり殴られていたことでしょう。

神殿の外に置いてきてよかったと、思いました。

彼女たちは、私達と共に外の世界に出て、以前のスピカ星に戻ったことを確認すると、白鳥を空に放ちました。

闇のエネルギーが取り払われて澄み渡った空を飛ぶ白鳥は嬉しそうでした。

一緒にいた女性達も、わし座騎士団の大鷲に乗せてもらい、喜んで自分達の星を見えています。

今スピカ星には、美しい光りが再びさし始めました。

PART2 時をつかさどるマザー・クリスタル

私は彼女たちにマザー・クリスタルの事を訪ね、活性化することをお願いしました。

「わかりました。

このスピカ星のクリスタルを活性化し、星の働きを取り戻す事が、私達にとっても重要な仕事です。

皆さんが協力して下されば、私達もとても嬉しく思います。

このスピカ星には、3つのマザー・クリスタルがありますので、私をご案内いたしましょう。

最初のクリスタルは、野原にあります。

私は、このスピカ星で、クリスタルを守護する神官のリーダーでアネモリーラと呼ばれています。

私自身は、リーラと呼ばれる方が好きです。」

リーラとクリスタルの神官達が、ようやく笑顔を見せてくれました。

皆さん、とても純粋でキラキラした輝きを持っている素晴らしい神官達です。

私達は、シェンロンに乗って移動しています。

リーラは私と一緒にエルエルに乗りました。
「このシェンロン素敵ですね、

とてもたくましいのですが、優しくて穏やかなエネルギーです。

きっと皆さんを守ってくれる偉大な力を持っていますね。」

リーラはエルエルが気に入ってくれたようです。

最初のクリスタルがある場所へと私達は降り立ちましたが、クリスタルはそこにはないようです。

リーラが、ある場所に立ち、右手を挙げて祈っています。

すると、大きなクリスタルがスーと私達のもとに降りてきました。

今までに見たこともない美しい虹の輝きに満ち溢れたマザー・クリスタルです。

私達は、クリスタルに光の種を入れ、光のワンドで光を送りますが、十分に輝きません。大天使達にも協力してもらい光を送りますが、途中で光が途絶えてしまいます。

その時です、大空の裂け目のようなところから、多くの白鳥が現れ、巨大なマザー・クリスタルの中に飛び込んでいきました。

私達は驚いて、後ろに座り込んでしまいました。

鳥が苦手なさそり座の騎士団の団長は、怖がってすぐに草むらの中に逃げ込んでしまいました。

美緒さんは、その姿を見て大笑いします。

リーラと神官の女性達が、クリスタルを取り囲み、澄み渡った声で歌い始めます。

すると、飛び込んでいった白鳥もマザー・クリスタルも一体となって輝き始めました。クリスタルが、活性化しその光を大きく放ち始めました。

このクリスタルの輝きの源は、白鳥の精霊のエネルギーだったのです。

私は不思議に思い、このクリスタルの事を尋ねると、「過去、現在、未来」という答えが返ってきました。

このクリスタルは、宇宙の時間に関わっているようです。

クリスタルの神官であるリーラが教えてくれました。

「皆さんは物理的な肉体を持っているので、皆さんにとって、時間の始まりは肉体の誕生であり、時間の最後は肉体の死ですので、皆さんの時間は区切られた時間です。

しかし、皆さんが楽しい時を過ごすときは、時間は早く過ぎ去り、苦痛に満ちた時間を過ごすときは、長く感じられます。

時間というのは、皆さんの意識によっても変化していくものなのです。

創造主やマスター達のように、永遠を生きるスピリットの時間は無限です。

スピリットは、その状況に応じて新たな時間の枠組みを作ります。

時間は、その中に、空間を構成しながら流れていくのです。

その時間を管理しているのが、この星にある3つのマザー・クリスタルなのです。」

私の心の中で、マザー・クリスタルが描く時間が、ゆっくりと流れていきます。

私達は、この光輝く大きなクリスタルを、森の中に置いたままにするのもかわいそうなので、このクリスタルのために、神殿を作ってあげることにしました。

どこか希望の場所がありますかとお尋ねすると「湖のほとりが良い」とのことでしたので、シェンロンに頼んで、クリスタルを運んでもらい、美しい湖の横に設置し、光輝く神殿をホビットと魔法使いにお願いして作ってもらいました。

「時のクリスタル」が、湖の光と風のそよぎを受け、ますます輝き始めました。

そして、湖には、多くの白鳥たちが降り立ち、心地よさそうに泳いでいます。

PART3 時を紡ぐクリスタルを活性化する

私達は神官のリーラと共に第2のクリスタルの活性化にむかいました。

「私達のクリスタルは、同じ大地の上にあるのではなく、異なる次元にあります。

そして3つのクリスタルが垂直につながるようにして、時の働きを生みだしているのです。」

私達は第2のクリスタルを目指して、大空に飛び上がりました。

第2のクリスタルは、天空にあるようです。虹色の雲を抜けていくと、そのまま別次元に入り、美しい虹色のクリスタルの前に到着しました。

リーラが、このクリスタルに呼びかけると、異なる場所から「時の精霊」が現れました。同じ場所にいると、自分の力を使ってクリスタルを動かされてしまうので、別の場所に隠れていたようです。

リーラが「時の精霊」に向かって嬉しそうに声をかけます。

「時の精霊よ、私達の時のクリスタルが目覚めるときが来ました。

地球から来てくれた勇者や女神達が、騎士団を引き連れ私達の星を救いに来てくれたのです。」

「時の精霊」は、「時のクリスタル」が復活する事がとてもうれしそうです。

「偉大なる勇者たちよ、私達もこの時期を待ち望んでいました。

いつか新たな時が動き、この星に希望の光がさすことを私達も待ち望んでいたのです。本当にありがとうございます。」

「時の精霊」は、大空にある「時のクリスタル」を活性化する為に祈りの歌を歌い始めました。

すると、白鳥たちが大空の至る所から現れ、クリスタルの中に入っていきます。

すると「時のクリスタル」は更に輝き光に満ち溢れます。

私達はこの天空のクリスタルも、美しい虹が輝くように、虹の光りで神殿をつくりあげました。

「時の神官」と「時の精霊」が手を合わせると、地上の時のクリスタルと天空の時のクリスタルの光がつながっていきます。

天空にあるクリスタルを活性化終わると、最後のクリスタルへと再び地上に向かいました。

「3番目の時のクリスタルは、まさしくスピカ星のコアと深くつながっているクリスタルです。

スピカ星の星自体のエネルギーを使って時の働きを作り出しているのです。」

神官リーラはそのまま、私達と共にシェンロンに乗ってスピカ星の海の中に深く入って行きます。

いつの間にか、自分から先にエルエルに乗り、自分の意思でエルエルを動かしています。私は仕方なくリーラの後ろに乗ります。他のメンバー達も、シェンロンで、リーラの後を追いかけます。

すると海を通り越して、星の奥深い場所へとたどり着きました。

まるで、深い海の底であり、マグマが流れる地殻の際にあるような特別の場所にそのクリスタルは置かれています。

神官リーラが、声をかけると大地の精霊があらわれます。

精霊は、クリスタルの源となる星のパワーを守る役目もしているようです。

「大地の精霊様、今、時のクリスタルが復活の日を迎えました。

しばらくの間、闇のエネルギーによって閉ざされていた「時のクリスタル」が地球から来た勇者たちによって目覚めさせられ、今新たに動き始めました。」

まるで賢者の様な姿をした「大地の精霊」は、私達を見て満足そうに微笑みました。

そしてクリスタルに向かって唸るような声で祈り始まりました。

こちらのクリスタルには、大地のエネルギーともいえる赤いマグマの姿をした光がどんどん入ってきています。

クリスタルは赤く輝きながら光輝いています。

大地に置かれた「時のクリスタル」も無時活性化して3つのマザー・クリスタルが一つにつながりました。

これらの「時を紡ぐクリスタル」の力によって、スピカ星の「宇宙の時」を動かす働きも活性化してくるようです。

PART4 時を操るスピカ星の創造主クロリス

3つのマザー・クリスタルが活性化し輝き始めると、星が振動し始め、湖から多くの白鳥が驚いて飛び上がりました。

湖のふもとにあるクリスタルも地中の中にあるクリスタルも身震いをするかのごとく振動し、天空のクリスタルと光がさらに大きくつながっていきます。

そのことによって、スピカ星自体が次元を高めていくようです。

スピカ星自体が、今までの世界と異なる光の世界へと動いている感じです。

星の動きと共に上昇する白鳥もいれば、途中で振り落とされる白鳥もいるようです。

スピカ星が、新たな次元に入って行くと、さらに大きな光が生まれます。

そして、その光の中に立っていたのは、時の女神クロリスです。

この時の女神クロリスこそが、スピカ星の惑星意識であり、時を生みだす創造主の一人のようです。

彼女が、この3つのクリスタルの力を操り、星々の時を生み出しているようです。

「TAKESHI さん、そして女神達、多くの騎士団、皆さんの働きによって、スピカ星が昔のように素晴らしい輝きを取り戻し、光あふれる世界になったことを私達はとてもうれしく思います。

私達は、天の川銀河の時をゆだねられたものです。

天の川銀河に生命が生まれ生育する為には、時が必要です。

時がなければ、生命は生まれません。

この星の白鳥が、一人一人に与えられた時そのものです。

そして、私達の「時を紡ぐ水晶」によって、その「時の働き」は、天の川銀河全域に満ち溢れるのです。

私達の働きなくしては、やがて天の川銀河の時も止まってしまいます。

そうなる前に、皆さんたちによって、スピカ星の働きがもとに戻されたのは幸運でした。ありがとうございます。」

創造主クロリスはそのように言うと光の中にずっと消えてしまいましたが、その神々しい姿に、言葉を失うほどです。

私達は、クロノス様に光をいただき、この日のツアーを終了することにしました。

帰りがけに、リーラがそっと私の耳に囁きました。

「クロリス様が、TAKESHI さんに、これからのあなたの活動は、時を超えて未来や過去に行く必要も出てきますので、クロリス様がすべてサポートします。

時間を超える必要が或る時は、私達にいつでも願ってください。」と創造主の言葉を伝えてくれました。

私達は、創造主クロリス様との出会いにより、これからいくつもの時を超えた活動も可能となっていくのです。

PART6 天の川銀河を司る創造主達

スピカ星の闇を払い、スピカ星の次元上昇を行ったことで、私達は、「春の大三角形」と呼ばれる星々の働きを取り戻すことができました。

春の大三角形とはおとめ座のスピカ星、しし座のレグルス星（デネボウ星）、牛飼座のアルクツールス星で、すべての星に、星域を守る創造主がいらっしゃいます。

私は、星のツアーの翌日にアルクツールス星の創造主のもとに呼ばれました。

アルクツールス星は、古くから地球と深い関係を持っている星で、人類に特別な叡智を提供してきた星です。

アルクツールスは、偉大なるマスターと呼ばれる「クート・フーミ」様が統治されており、魔法使いのマーリンもいらっしゃいます。

マーリンとは、私達はいつも行動を共にしているので、アルクツールス星の秘密の次元へとすぐに案内していただきました。

星の秘密の扉を開くと、クート・フーミ様がいらして、にこやかにお話ししていただきました。

そして、この星のさらに上にある次元へと案内してくださり、創造主へと合わせてくれました。

創造主は私達の仕事を大変喜んでくれました。

この宇宙には、次元の法則があり、自分が存在している次元以外の所には、マスターや天使であったとしても、自由に行き来することができません。

人間のみがそれを許されている特殊な存在であるがゆえに、この次元降下した星に入り、マスターを救い出し、マザー・クリスタルを活性化し、星の次元上昇ができることを再度伝えてくれました。

そしてこの3つの星が、同じ次元で一つにそろうことにより、新たな時と空間が生み出され、星々の再創造が行われるということを伝えてくれました。

星の時間は、星の惑星意識が目覚め、星の次元の創造が始まったころより、動き始めるそうです。

そして星に生きる多くの植物や動物などの生命が生み出され、時間は流れていくのです。

この3つの星の創造主は、新しい星の時間と空間（次元）を生み出し管理することが役目です。

3つの星のマザー・クリスタルが同じ次元で輝き始めた時に、さらに上位にある偉大な創造主への道が開かれることを教えていただきました。

私は翌日、しし座のレグルス星に降り立ちました。

この星のマザー・クリスタルがまだ十分に開かれていないような気がしたからです。

レグルス星のレオンとレオーネが迎えに来てくれました。

私達は創造主のもとに行き、そこにあったマザー・クリスタルの活性化を願いました。

レグルス星の創造主は私達を見て、満足そうな顔をしています。

「昨日、おとめ座と牛使い座からマザー・クリスタルの光が立ち上がるところを見させていただきました。

しばらく、私達の星域の大切な仕事が滞っていましたが、再びその仕事を始める時が来たようです。

私も、この日が来ることを心から待っていたのです。

本当にありがとうございました。

それでは、私のところにあるマザー・クリスタルの活性を行うとしましょう。

それではレオン、私と共にやるがよい。」

創造主は立ち上がって、クリスタルの活性を行う準備を始めました。

私は、その時、創造主にお願いがある事を伝えました。

「創造主よ、このクリスタルはとても重要なクリスタルです。

創造主様と共に、レオン様とレオーネ様のご兄弟が力を合わせることで、さらに素晴らしいパワーを発揮すると思うのですが、レオーネ様も一緒に活性のお手伝いをさせていただきませんか。」

創造主は、私と兄弟を交互に見比べながら

「お世話になった地球の勇者が言うのであれば、そうしたほうが良いのだろうな。」と言いました。

レオンとレオーネは、私の方をみて、小声で「ありがとう」とつぶやきます。

しし座の創造主の家族3人でクリスタルの活性が始まりました。

私も大天使もしっかりと応援しています。

そうすると、とても大きな光がクリスタルを包み、レグルス星ごと大きく次元上昇していくような感じです。

そして、クリスタルの中から、大きな光の柱がほとばしり出てきました。

その光は宙を駆け上がり、天空へと大きく広がっていきました。

どうやら、レグルス星のマザー・クリスタルが活性化して、レグルス星の次元が上がり、おとめ座のスピカ星、牛飼い座のアルクトール星と同じ次元に戻ったようです。

3つの星のクリスタルが同じ次元に保たれたことにより、この3つの星の働きを統括する偉大な創造主への道が開かれました。

私達は、特別なメンバー達で、この光を上げていく事にしました。

というのも、この上にいらっしゃる創造主は、いつも私達がお会いしている小創造主よりも、さらに高い次元にいらっしゃる創造主で、この宇宙の時間と空間を作ったり、生命創造の根幹にかかわったり、星同士のバランスや関連を作ったりされる創造主です。

この創造主は、宇宙の源となった唯一の創造主（大創造主・第1種創造主）の子供のような立場で、私は中創造主、第2種創造主と呼んでいます。

スピカ星やレグルス星などの、私達が今までお会いした星を守る役割の創造主やインドラ様やゼウス様のような星の上に天地創造を行う創造主は、小創造主、第3種創造主と呼んでいます。

第3種創造主は、第2種創造主の子供のような存在で、この天の川銀河には、30 数余名

いらっしゃると聞いています。中創造主は3名ほどです。

そして、私と数名のメンバー、そしてレオンとレオーネ達も一緒に、光の中を中創造主の元まで上がっていきます。

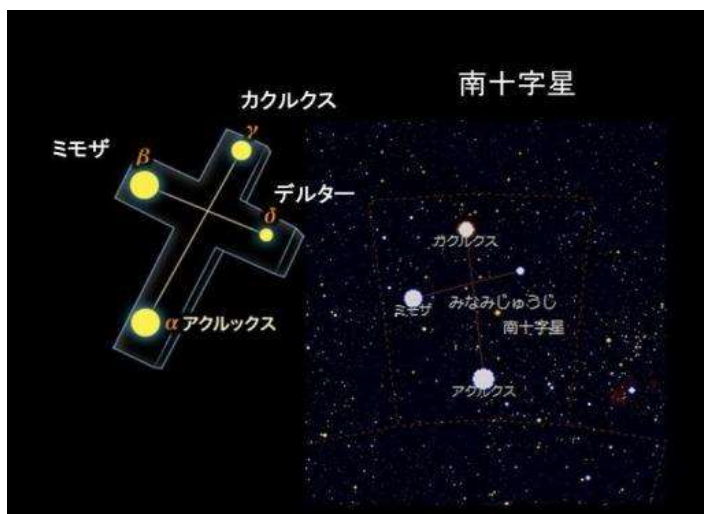
まさに、輝くばかりの宇宙の中に、大きな宇宙船が浮かんでいました。

その中で、この宇宙を自由に動きながら、宇宙を維持する為の活動をおこなっていらっしゃいます。

中創造主の名前は、アリターリア様とおっしゃいます。

私達はそこで、この宇宙の秘密を知ることとなりましたが、その話は 次の機会に譲りましょう。

第6章 南十字星の創造主と魔法使い



PART1 アクルックスの創造主を助け出す

今日もメンバーたちで集まり、星のツアーが始まります。

私達は、デネボラ星の騎士団であり、闇に堕ちてしまったレオーネを光りのマスターに戻すと共に、スピカ星、アルクツールス星、そしてレグルス星で構成される「時と空間を紡ぐ星々」の働きを正常化させることに成功しました。

今回は、南十字星の創造主の救出とケンタウルス座の光の統合へと向けて動き始めました。

私達は最初に、ケンタウルスのトームズとブレゴリー、そして魔法使いマーリンにこの南十字星の様子を調べてもらっていましたので、その報告をうけます。

「南十字星の各星々は、現在は闇の勢力が大暴れしているというわけではありませんが、

それぞれの星にいらっしゃる創造主と魔法使いたちが、闇の力を恐れて隠れている状態です。

この南十字星は特別な星で、それぞれの星に創造主としての力を持った方がいらっしゃいます。

そして 4 人の創造主達が、力をあわせてこの南半球の星々を統治されているようです。創造主達には、仕事をサポートする魔法使いたちがいて、特別な力を使って、この南十字星の力を守護しています。

私達が調べたところ、全ての星の創造主と魔法使いたちが公務についておらず、自分達の星から逃げ出したりして、地下や別の次元に隠れているようです。

それぞれの星の創造主達の居場所については、推測もできている星もありますので、その星から創造主達を助け出していけば、全ての星の創造主達を救い出さるのではないかと思います。」

最初に南十字星のなかでも最も輝きの強いアクルックス星へと入りました。

南十字星は、しばらく前から私達のシェンロン達が入り、闇のエネルギーを浄化してくれたおかげで、だいぶ明るい星になっています。

ケンタウルスのトームズとブレゴリーが、アクルックス星の創造主が隠れている場所をすでに調べてくれたようです。

私達が、アクルックス星に降り立つと、すぐに創造主の隠れ家に案内してくれました。

アクルックス星は、昔は自然豊かな星だったようですが、今は星自体も元気がなく重だるい星へと変わっています。

トームズ達は、いくつかの森を抜けて、山の中腹に続くような洞窟の前に私達を連れてきました。

暗くてひんやりとした洞窟は、歩いていても決して気持ちの良いものではありません。

遥さんや葵さんは、美緒さんの後ろに隠れるように歩いています。

洞窟の行き止まりの様な所に、小さなろうそくの様な明かりが見えます。

創造主は、よっぽど辛い出来事があったようで、不安と絶望の中で座り込んでいました。

まずは、癒しの大天使達に、彼の心とスピリットを癒してもらいます。

大天使ハニエルと大天使ウファエルが、不安で心を閉ざしている創造主へ光を送ります。そして聖母マリア様と遥さん達が、愛のエネルギーを送ります。

創造主は、私達の姿を見て驚きはしたものの、優しい聖母マリア達の姿を見て安心したようです。

遥さんが、創造主に優しい声で呼びかけます。「私達は地球から来たんです。

皆さんの事を心配しているケンタウルスの人をお願いされて

仲間の騎士団の人達と共に、南十字星の創造主の皆さんを助けに来ました。

ケンタウルス座を闇に陥れた偽りのマスターは、闇から解放されました。

次は皆さんが、自由になる番です。」

優しく囁きかけるような遥さんの声は、絶望の中で自分を見失っている人達には、優しい女神の声に思えるようです。

絶望の中に沈み込んでいた創造主も顔を上げ、遥さんの声をかみしめるように聞いています。

創造主が途切れるような声で答えます。

「私達は本当に助かるのでしょうか。

私達は、希望をもって今まで耐えてきましたが、この苦しみから解放されるのでしょうか。」

遥さんは、創造主に近づいて、彼の手を取ります。

「創造主様、もちろんですよ、

私達は其のために、皆さんを迎えに来たのです。

これから、私達と共に、南十字星を光の世界に戻しましょう。」

創造主は、ゆっくりと立ち上がりました。

「そうですね、私達は再び創造主としての力を取り戻して働くときが来たようです。

力強い騎士団の方達もいらっしゃっているようですので、私達も自分の星のために立ち上がりましょう。」

やがて創造主も落ちついてきて、南十字星とケンタウルス座が生まれ変わるために、私達が来たことを理解し始めたようです。

創造主は、まだ意識がはっきりしないようですので、アスクレピオス様の治療をうけてもらうために、ペガサスにラスアルハゲ星に運んでもらいました。

そして、創造主は、自分だけでなくデルタ星の創造主が、さらに奥に隠れていることを伝えてくれました。

私達は、さらに洞窟の奥へと進みました。
アルケイデース様や騎士団の団長たちが松明を片手に進みます。
しかし大きな岩が行く手を阻んでいます。
勇者たちが一生懸命に岩をどかそうとしましたが、岩は動きません。
どうやら魔法がかかっているようですので、
光のワンドで光を送ります。
すると岩の魔法が解け、岩が粉々に砕けていきます。

岩の奥には小さな部屋がありました。
そこに不安と恐怖で意識を失いかけている創造主とそれを守るかのように小さな魔法使いがいました。
魔法使いは、自分の魔法が破られたことにたいして、とても驚きうろたえています。

私達は、自分達の事を伝え、助けに来てくれたことを伝えましたが、信じてくれません。
私は、同じ魔法使いであるセントジャーメインとマーリンを呼び出しました。
やはり魔法使い同志、お互い顔見知りです。
彼等はすぐに仲良くなり、私達の事を信頼して受け入れてくれました。

しかし、デルタ星の創造主は、意識がはっきりとしておらず非常に危ない状態です。
私は、癒しの 4 大天使を呼び、デルタ星の創造主を癒すと共に、聖母マリア様達に愛を送ってもらいました。
しばらくの間、創造主は夢を見ているようでした、何度も「助けてくれ！」という言葉を発しもがいています。

横にいた魔法使いがその様子を見て創造主を癒そうとしますがうまくいかないようです。

「創造主は、凶悪なケンタウルスだけでなく、闇の心を持った魔法使いにつかまってしまったのです。

私が魔法を使って助け出したのですが、その時に大きな苦痛と恐怖を味わってしまい、今では悪夢の中でこのように苦しみの声を上げていらっしゃるのです。」

創造主のお世話をした魔法使いは悲しそうに言いました。

その様子を見ていた魔法使いセントジャーメインとマーリンは、創造主の様子を調べながら2人で話をしています。

「TAKESHI さん、これは闇の魔法による呪いをかけられていると思います。

其れも、通常使用しない強力な魔法です。私達にしばらく預けてもらえませんか、この呪いを解くためには、いくつか必要なものがありますので。」

私は、この創造主をセントジャーメイン達に任せる事にしましたが、まず傷の手当てをしなくてはいけないのでアスクレピオス様の治療院に運び、そこで呪いの魔法を解くための準備をしてもらう事になりました。

もちろん創造主のお世話をしていた魔法使いも大喜びで共に行くことを願い出ます。この創造主は、アルケイデース様が抱きかかえて洞窟の外まで連れ出します。

そしてそこに待っていたペガサスに乗せてアスクレピオス様の治療院まで運びます。

セントジャーメインが創造主のお世話をしていた魔法使いと共に、ペガサスに乗って同行します。

魔法使いマーリンは、私達と共に行くようです。

「この南十字星の創造主に仕える魔法使いたちは非常に優秀なもの達ですが、彼等でも立ち向かえない魔法使いがいるようです。これからの旅は、かなり危険が伴う旅となりますので、私が同行いたします。」

PART3 魔法使いラエルと創造主の塔

魔法使いマーリンは、アルクツールス星の代表的な魔法使いであり天の川銀河でも最高の魔法使いですので、南十字星やケンタウルス座の魔法使い達にも詳しいことでしょう。私達も共に歩んでくれた方が安心です。

「そういえば、先ほどの魔法使いが、この星にもう一人の魔法使いがいるとっていました。

それは、最初に救出したアクルックス星の創造主に仕える魔法使いで、今はカエルの姿にされているようです。

彼が私に、その魔法使いがいる場所を教えてくださいましたので、これから皆さんをご案内いたします。」

魔法使いマーリンは、私と共にシェンロンにのり、洞窟から少し離れた湖の近くに私達を案内しました。

魔法使いマーリンは、何か特別な呪文のようなものを使って祈ります。

そして、突然、カラスの様な鳴き声を立てました。

私達は、あまりの急なことに驚いたのですが、これは魔法使いたちが仲間を探す時の合図のようです。

しばらくすると、カエルの姿をした魔法使いがやってきました。

カエルは、魔法使いマーリンに向かって、「ゲロッ、ゲロッ」と鳴いています。

その声を、しばらく聴いていた魔法使いマーリンは、わたしたちにむかって、この魔法使いも闇の魔法でカエルにかえられたようです。

しかし、これは初歩的な魔法ですので、私がすぐにこの魔法をとき、元の姿に戻してあげることが出来ます。」

魔法使いマーリンは、大きな杖を、カエルの上で何度も振り下ろしながら呪文を唱えています。

すると、カエルの周りの空間がぐにゃと歪み、その瞬間に黒い衣装をまとった魔法使いが現れました。

彼は、自分の魔法を解いてくれたのが、魔法使いマーリンであることを知ってとてもよろこんでいます。

「魔法使いマーリン様、本当にありがとうございます。

あなたが来て下さらなければ、私はずっとカエルのままでやがて鳥にでも食べられたことでしょう。

本当に、あなたは私の師匠であり命の恩人です。」

魔法使いマーリンにしてみれば、この魔法使いは自分が教えた弟子の様な魔法使いのようです。

魔法使いマーリン彼の肩をたたき無事だったことを喜んでいます。

そして私達のわからない言葉を早口で会話をしています。

おそらく、南十字星の魔法使いたちの状況、闇の侵攻具合を直接彼から聞いているようです。

ラエルと呼ばれる魔法使いは、マーリンから私達の事や創造主を助けてもらったことも聞いたようです。

「TAKESHIさんと地球の女神様、そして騎士団の皆さん、私達の創造主を助けてくださり大変ありがとうございました。

私達も力を尽くしたのですが、闇の力に翻弄されてしまい、創造主とこの星を守ることが出来なかったのが非常に残念です。

皆さんが来て下されなければ、このアクルックス星はまだ闇の中に沈んだままでしょう。どうか、私達の星やケンタウルスの仲間達を助け出すことに力をお貸してください。」

私達は、この星を復興し、再び南十字星の創造主が統治する星に戻したいことを伝えました。

その為には、この星に残る闇のエネルギーを一掃しなければなりません。

魔法使いらエルは、目を閉じてしばらく意識を集中しています。

「おそらく、このアクルックス星に攻め込んできたケンタウルスのリーダーが創造主の塔に残っていると思われますので、そこを片付ける必要があるようです。」

彼は、アクルックス星を、支配するために使われたケンタウルスのエネルギーを調べていたようです。

私達は、魔法使いらエルの案内で、シェンロンに乗って森を抜けていきます。

見晴らしの良い平地の中央に立つ大きな塔のもとにつきました。

塔の周りにはたくさんの建物があるようですが、今は、壊されて廃墟になっているようです。

そして塔には、大きな闇の渦巻が、不気味な笑みを浮かべる悪魔のように立ち上がっています。

私達は、塔の近くの広場でシェンロンを降ります。

おそらくこの塔の中にも、闇が支配するマスターがいると思われますが、今迄、闇の渦巻の下には、生気を奪われ希望を失ったマスターしかいませんでしたので、皆さんほとんど恐れを持つ事はなくなりました。

反対に、闇に落ちたものは、このように闇によって生気を吸われ絶望の中で動けなくなるのだ、という事の方に大きな恐怖を感じているようです。

しかし、魔法使いラエルは、闇の渦巻を初めて見たようで、恐れに身を震わしています。美緒さんが、彼に、「大丈夫だから」と声をかけています。

それに、こちらにはアルケイデース様をはじめ騎士団の団長たちがそろっていますので心配することはないようです。

私達は、広場から石造りの道を通して創造主の塔へと向かいます。

昔は、この石畳を子供たちが走りまわり、野菜や食べ物を積んだ荷車が行き来して、市場が立ったりしていたことを魔法使いラエルは懐かしそうに話してくれました。

創造主の塔は、暗くて陰惨な雰囲気とする塔ですが、もとは南十字星の創造主達が使用していた光の塔であるとのこと。

私達は、最初にアルケイデース様を初めとして騎士団の団長たちに塔の中に入り、闇の存在達がいなかを調べてもらっています。騎士団が、塔の上階に行くにつれ、いくつかの場所で激しい音がしましたので、塔の中で少し格闘があったようですが、すぐに収まりました。

さそり座のアンタレス様が、塔の状況を確認して、私達に最上階に上がってくるように連絡してきました。

私達は、らせん階段を上り、塔の最上階に入りました。

そこには床に体を横たえ傷ついているケンタウルスの姿があります。

しかし彼は、騎士団達を見て、自分の中に怒りや憎しみを掻き立て、体がうごかなくても攻撃しようとしているのです。

すごい憎悪のエネルギーが飛んできて、一瞬気分が悪くなりました。

おそらく、闇のマスターだったレオーネに命令されて、この星を支配した部下だったに違いありません。

レオーネに出てきてもらい確認すると、確かにレオーネの部下の指揮官でした。

レオーネは、自分のために、多くの者たちを闇に引き込んでしまったことの責任を感じ、ケンタウルスに謝罪を行いました。

光のマスターに姿を変えたレオーネの姿に、ケンタウルスも驚きを隠せません。

彼は、自分達を恐怖と暴力で支配して闇に引き込んだあげく、多くの仲間達を殺した者です。

いくら謝罪されたとしても簡単に許せるものではありません。

しかし、レオーネの真摯な気持ちに、ケンタウルスが本来持っている純粋な正義感が目覚め始めたようです。

彼の気持ちが少しずつ落ち着いてきました。私達は、癒しの 4 大天使を呼び、また聖母マリア様にも彼の心を癒してもらいました。ケンタウルスは、喜んで私達の光を受けとり癒されていきました。

この塔にはほかにも傷ついたケンタウルス達がいるようです。

アスクレピオス様は創造主の介護で忙しいようですので、カペラ星のイシス様たちに治療をお願いすることにしました。

さそり座とアルデバラン星の騎士団達も、ケンタウルスの体を持ち上げあたり、包帯を巻いたりして治療を手伝っています。

宇宙の光の女性達も、光のワンドでケンタウルス達を癒しています。

私達は、この暗く陰惨な塔を創造主の塔にふさわしい塔に改築するために、ホビットや魔法使いにお願いして光の塔に変えてもらいました。

創造主が、元気になって戻ってきたら、この星のマザー・クリスタルを活性化しなければなりません。

それまでは、未だ何があるかわかりませんので、マザー・クリスタルは、魔法使いラエルによって異なる次元に隠されています。

この南十字星に関わる星は、創造主と魔法使いたちによってマザー・クリスタルが守護されているようですので、全ての創造主と魔法使いが助け出され元気になってからマザ

ー・クリスタルの活性と星の次元上昇は行ったほうが良いようです。

創造主が戻ってきた時、この星も再び光の世界に戻すことが出来るでしょう。

PART4 水の星カクルクス星の創造主

私達は、次のカクルクス星に進むことにしました。

この星に降り立つと、広々とした海が見えますが、海の水も濁り魚たちの姿も見えません。エルエル達のシェンロン達は、引き続き、空からこの星の浄化を行っているようです。魔法使いマーリンがこの星の魔法使いを呼び出している間に、ペガサス騎士団とわし座騎士団にカクルクス星の偵察を行ってもらいます。

ウミヘビ座の騎士団達は、海の中の偵察が得意なので、彼らは海の中を偵察してもらいます。

さそり座の騎士団は、アクルックス星の警備のために残してきましたので、しし座の騎士団とアルデバラン星の騎士団は、残された大地の偵察です。

魔法使いマーリンがいくら呼び出しても、魔法使いは出てきません。

魔法使いうエルも心配になって、目を閉じ意識を集中して、カクルクス星の魔法使いをさがしています。

彼等はどこかに閉じ込められているようです。

魔法使いうエルの意識の中に、かすかに助けを呼ぶ魔法使いの意識が入ってきます。

「彼等はどこかに閉じ込められているようです。

波が打ち寄せる音がしますので、どこか海の近くだと思います。

どうか海の回りを探してもらえませんか。」

私達は全ての騎士団に、海岸沿いを集中的に探すようにお願いしました。

特殊な視力を持つわし座騎士団のマスター・ビジョンを中心にして、それぞれが探す場所が割り当てられ、再び搜索が始まりました。

魔法使いラエルは、魔法使いに意識でエネルギーを送り、もうすぐ助けに行くからとメッセージを送っています。

魔法使いラエルからメッセージがありました。

「この星の魔法使いが、最後の力を振り絞って海岸に大きな虹をかけますから、その虹を目当てに探してください。」

騎士団にも緊張が走ります。

宇宙の光のメンバーたちのシェンロンもエルエル達に合流して探索に回ってもらいます。

すると30分くらいして、エルエルとマスター・ビジョンから、同時にこの星の創造主と魔法使いを発見したと連絡がありました。

切り立った岸壁の上に鎖でつながれているようです。

私達もすぐにその場所に向かいました。

創造主はもう意識を失ってぐったりしていますが、魔法使いは気持ちをしっかり持って自分達を守っています。

ここは、雨風が強い場所であり、自分達の身をついばむ鷲たちもいるような場所です。

魔法使いは、自分達をその様なものから守るために、光のシールドを作り生命を長らえてきたようです。

もし、この魔法使いにこれだけの力がなければ、この星の創造主と魔法使いは、すでに息絶えていたことでしょう。

アルケイデース様が急いで彼等の鎖を剣でたたき切ります。

私は、この状況では2人の命があぶないので、無理を言ってアスクレピオス様に来てもらいました。

アスクレピオス様は、ここにつくとすぐに彼等の手当てをしています。すぐにでも、自分の癒しの神殿に連れていきたいようです。

私は、エルエルとエルナエルを呼び、この2人を運んでもらうようにお願いしました。

それぞれの介護には、アルケイデース様とアルデバラン騎士団の団長についてもらい、わし座の騎士団を護衛につけ、すぐに飛び立たせます。

魔法使いマーリンもこの魔法使いの事が心配のようですので、一緒にアスクレピオス様の神殿に行きました。

魔法使いうエルは、この星の魔法使いであるキラージュの姿をみて、その精神力の高さに驚いています。

カエルにされてしまった自分が情けなくて悔し涙を浮かべています。

その姿を見たウミヘビ座の騎士団の団長であるヒュードラが、彼に向かって言葉少なに言います。

「あなたが、彼と同じ立場だったら、あなたも彼と同じことをやり遂げたと思いますよ。」

その言葉に、魔法使いラエルもうなずき返します。

同じ旅を通して、仲間達もお互いを思いやり、素晴らしい関係が築けているようです。

その時ウミヘビ座の騎士団の一人が、団長に何やら報告をしています。

「TAKESHI さん、どうやら海の底に沈んでいたマザー・クリスタルを発見したようですが、どうしますか、彼等が捉えられていた場所の近くの海底にあるようです。」

私達は、マザー・クリスタルを探し出しましたが、この星の創造主も魔法使いもいない状態では、どこに置いたらよいか判断することが出来ません。

もちろん活性化もできないでしょうから、今日のところは其のままにしておく事にしましょう。

この場所の目印だけを残しておくようにウミヘビ座の騎士団にお願いすることにしました。

しかし、この星にはほかには生きている人の姿は見えません。

この星の人達は、どこに行ったのでしょうか。

今日の星のツアーはこれで終わりです。

今日は騎士団もぐったりと疲れたようですし、アスクレピオス様の癒しの神殿で治療を受けている創造主や魔法使いたちの回復も待たなければなりません。

また 1 週間後に行われる星のツアーでは、創造主達も回復していると思われますので、南十字星のマザー・クリスタルの活性は来週行うことになります。

第7章 南十字星の次元上昇 と高次の創造主

PART 1 ミモザ星の魔法使いと闇の渦巻

私達は、時を新たにして、ミモザ星へと入りました。

この星にはいくつもの場所に石造りの建物が見えますが、まるでスペインや南イタリアのようなおしゃれな雰囲気が残っています。この星には、おそらく物理次元が存在し、叡智ある人達が生活していたのでしょう。私達にとってはとてもなじみやすい星のように思えます。

この星の事について魔法使いラエルが説明してくれます。

「このミモザ星は、南十字星の中では最も進んだ中心的な星です。

ここには、魔法使いたちの学校や創造主から宇宙の真理を学ぶ学校もあり、たくさんのケンタウルスや近隣の星の人達が集まっています。

また服や手工芸品を作る人や様々な食べ物や香辛料を作る人達もいて、星の中で交易がおこなわれています。

しかし、南十字星に入ってきた闇はここから入ってきたのです。」

魔法使いラエルがそのように言いますが、この町は他の星よりもまだ生き生きとして元気な様子です。

確かに街を行きかう人はいなくなりすたれていますが、星の自然が荒廃し荒れ果てている様子はありません。

もうすでに闇の支配をおこなっている者達もいないようですが、どうしたのでしょうか。

いつものようにわし座騎士団とペガサス達が空から偵察し、他の騎士団は陸地を調べています。

アスクレピオス様の癒しの神殿から戻ってきたマーリンが、この星の魔法使いを呼び出しています。

すると近くの空間に光が輝き、そこから一人の魔法使いが出てきました。

魔法使いマーリンとこの魔法使いは昔からの友達らしく、マーリンは、この魔法使いが無事だったことを大変喜んでいます。

しばらくの間、2人は早口で魔法使いの言葉を使って今迄の事を話し合っています。

好奇心が強く魔法が大好きな美緒さんは、2人のそばにいて、どのような言葉を使っているのか耳を傾けていますが、もちろん理解はできないようです。

魔法使いマーリンが、このミモザ星の魔法使いであり、南十字星の魔法使いのリーダーであるルーチェを私達に紹介します。

魔法使いルーチェは、私達に恭しく礼をして話し始めます。

「皆さん、ミモザ星にようこそ、この星は南十字星の中でも最高の叡智と魔法力を誇る星です。

皆さんは、この南十字星や周りの星々が闇の力に支配され荒廃してきた様子をご覧になられ大変大きなショックを受けられたと思います。

私達もそうです、このミモザ星の自然と町並みはかろうじて守られましたが、この星も次

元降下を起こし、私達が自由に活動できる訳ではありません。

ましてや、他の星々は創造主も魔法使いも傷つけられ、自然も荒廃してしまいました。

私達南十字星は 4 つの星がすべて活性化され同じ次元で輝かなければ、本当の働きをすることが出来ません。

皆さんが遠くから、わざわざ南十字星まで来ていただき、創造主達を助けていただいたことに、私達は深い感謝の言葉をささげたいと思います。」

美緒さんが魔法使いルーチェに尋ねます。

「私達が行ったほかの星は、あれほど荒れ果てていたのに、この星はとても美しいままですね。

皆さんが、この星を守ってくださったのですか。」

魔法使いルーチェはその言葉に複雑な顔をして答えます。

「実は、ケンタウルス座から来た闇のマスターは、この星の魔法学校の校長をまず仲間に入れました。

私も創造主もすでにその動きを察知しておりましたので、魔法学校の生徒達や創造主の真理の学校の生徒達は、すぐに別の次元に移動させ、彼らの力が及ばない場所にかくまっていました。

そして、魔法学校の先生や私の仲間たちの魔法使いを呼んで、魔法学校の中で、闇に落ちた魔法使いを捕まえようと思ったのですが、彼は思った以上に強敵でした。

私達も、20 人近くの力を持った魔法使いで彼に対抗し捕まえようとしたのですが、逃がしてしまったのです。

私達は、次の包囲網をこの街全体に設置していました。

おそらく闇のマスターやケンタウルス達が、この町の中に現れるだろうと予測していたのです。

しかし、彼らは逆にこの町以外のところに現れて、星を荒らし始めました。

私達の包囲網は、彼等をこの町から出さないための包囲網ではなく、逆に私達をこの年の中に閉じ込めるための、包囲網になったのです。

其の為に、この町だけは守れたのですが、星全体のエネルギーが乱れてしまい、ミモザ星は次元降下してしまったのです。

そして、この星の降下した次元と、私達が存在する次元が釣り合わなくなり、私達はこの星に住むことが出来なくなってしまったのです。」

私は、魔法使いルーチェに質問します。

「それではこの星の創造主様とマザー・クリスタルはどのような状態ですか。」

「創造主様はお元気で、皆様のご活躍をご覧になってとても喜んでいらっしゃいます。ミモザ星の闇がなくなったらすぐにでも、皆さんにお礼が言いたいと言っております。マザー・クリスタルなのですが、実はこの町を離れた場所にあり、そこに闇に落ちた魔法使いが陣取っているようで、私達も近寄れないのです。

このマザー・クリスタルさえ、取り戻すことが出来れば、この星の次元上昇も難しくないのですが、」

その時偵察隊が戻ってきました。

わし座騎士団のヴィジョンが、やはり闇の渦巻を、この町から遠く離れた場所に見つけたようです。

そして、魔法使いルーチェが言うように、他の場所の自然は、他の星ほどではありませんが、荒廃しています。

動物たちは存在しているようですが、いくつかある町には人はもう住んでいないようです。

私達は、魔法使いマーリン、魔法使いルーチェ、魔法使いラエルや騎士団と共に、闇の渦巻を目指してシェンロンに乗って移動します。

魔法使いルーチェは、地球人がシェンロンを操る姿を興味深く見えています。

PART2 闇に落ちた魔法使いの悔恨

やがて闇の渦巻が見えてきました。

魔法使いルーチェが言うように祈りの塔をつつむように渦巻が起こっています。

この中にマザー・クリスタルもあるようです。私達は、祈りの塔の前に降り立ちました。

すぐにホビット達が、闇を包み込む光の箱を準備し、闇の渦巻を包み込むようにかぶせます。

魔法使いルーチェと魔法使いラエルが、これはすごい魔法だと、驚いています。

光の箱は、魔法使い達にも協力してもらって、祈りの塔に渦巻いている闇のエネルギーを、ぐんぐん吸い込んでいきます。

魔法使いルーチェが、「こんな方法があるなら、自分達にも教えてもらいたい。」と興奮しています。

私達は、大天使達を呼び、天使達の神聖な光りを渦巻に送ってもらいます。

祈りの塔が神聖な光で満たされていきます。その天使達を見た魔法使いルーチェがまた言います。

「これは最高次元の召喚魔法だ、私にも教えてください。」

私は「あとで教えますね。」と軽く流しておきます。

聖母マリア達と宇宙の光のメンバー達も愛の光を送っています。

あまり大きな反応がないところを見ると、おそらく魔法使いのマスター自身も、闇のエネルギーによって、パワーを失っている可能性もあります。

いつものように騎士団達が先に入ります。

私は、魔法使いルーチェに言いました。

「騎士団と一緒に、闇が残る塔にはいませんか、たくさんの勇気が学べますよ。」

魔法使いルーチェは、それは怖いらしく、首を横に振ります。

そのしぐさに、皆さん苦笑しています。

アウディケース様から、無事を確認したとの連絡がありました。

私達は、魔法使い達を従えて祈りの塔に入ります。

この塔は、1階部分が広くなっており、そこにマザー・クリスタルが設置してあります。上の階はなく、頂上部分に祈りをささげるスペースが作られています。

そして、マザー・クリスタルのすぐ横に、クリスタルにすぐるようにして、魔法使いが座っています。

彼はとても衰弱して気力を失っています。

魔法使いルーチェが、彼を見て驚いています。

「あなたは、魔法使いの学校長だったのに、闇の魔法使いになってしまった。

しかし、今のあなたには傷つき気力も魔力も失っているように見えます。

あれほど、闇の魔法使いとして恐れられたあなたが、何故このような姿に。」

闇の魔法使いは、力なく答えます。

「闇の力は、私にすべてを与えたが、私が得たものの全てを奪い去っていった。

私達の希望も野望もそして欲望も、全て闇によって作り出され、すべて闇が奪い去っていったのだ。

残されたものは、気力も体力も奪われた屍のような自分だけだ。」

その言葉に、魔法使いはもちろん、私達も闇の恐ろしさを思い知ります。

「しかし、それを望んだのは、まさしく自分だった。」魔法使いは悲しくつぶやきます。私達は、この魔法使いに、光の遺伝子を送り、闇の渦巻を光にかえていきますが、彼の絶望感は高まります。

私の心の中で、彼の声が聞こえてきます。

「私は、自分の心を悪魔に売り渡して多くの罪を重ねてきた。

この大切な南十字星の創造主と魔法使いを傷つけ、多くのケンタウルスや人々を不幸にした。

私は生きている価値がない、どうかここで終わらせてくれ。

これ以上の苦しみを与えないでくれ。」

私はこの魔法使いの悔恨の思いが痛いほど伝わってきました。

絶望に満ちたその姿から、ずっと生気が引いていき、彼はこの世から旅立っていきました。

まるで闇の渦巻に、彼の命ごと持って行かれたような終わり方です。

彼の生気を失った体は、騎士団達によって、祈りの塔の横に埋葬されました

私は、初めて闇の渦巻から人を救うことが出来ず、ただ茫然としています。

葵さんが、私の横でつぶやきます。

「人の望みまでは変えられないという事ね。」
そうです、人は自分が望んだままを生きていく、あるいは死んでいくのでしょうか。

この星の闇のエネルギーが一掃されると、別次元に逃げていた創造主も私達のもとに現れました。

「TAKESHI さん、そして皆さんありがとうございました。

私達は、これでミモザ星を次元上昇させて、光の星にすることが出来ます。

あなた方の働きに深く感謝します。」

私達はマザー・クリスタルのもとにいき、マザー・クリスタルを活性化しなければなりません。

魔法使いルーチェを中心に魔法使いと創造主が活性を行っています。

やがて、ミモザ星も次元上昇するでしょう。ホビット達は、この祈りの塔を美しい塔につくりかえています。

ここは彼らに任せることにして、私達は南十字星全体の次元上昇の準備を行う事にしました。

PART3 デルタ星の光を取り戻す

私達は、これから南十字星全体の次元上昇をおこします。

そのためには、南十字星に属する4つの星のマザー・クリスタルを活性化し、ひとつひとつの星を次元上昇させ、同じ位置にまでそろえなければなりません。

全ての星の創造主と魔法使い達が必要とされる時がやってきました。

私はアスクレピオス様に連絡して、治療を行っている創造主と魔法使いの様子を尋ねました。

「TAKESHI さん、彼等は順調に回復していますよ。

呪いをかけられた創造主の呪いも解け、元気になりましたよ。

星の次元上昇に彼らの力が必要でしょうから、彼等を南十字星に一度戻しましょう。

仕事が済んだら、もう一度こちらに戻してください。

もう少し治療が必要ですから。」

私は、シェンロンとペガサス騎士団を、アスクレピオス様の癒しの神殿に向かわせ、創造主達をミモザ星へと連れてきてもらえるようお願いしました。

私達は、その間に行う事があります。

まだ私達が行っていないデルタ星のマザー・クリスタルを探し出すことです。

デルタ星を調べたところ、この星を浄化してきたシェンロン達のおかげで、大分闇が晴れていましたが、1 か所とても大きな闇が残されているところがありました。

そこは大きな闇のヘドロのようなものが、地中深くまで残っています。

この闇は、この星の中心部に向かって広がっているようです。

私達は、まずホビットにお願いしてこの闇を閉じ込める光の箱を準備しました。

魔法使いルーチェと魔法使いラエルも一緒に来て手伝ってくれます。

魔法使いたちは、この闇のエネルギーを地中から引き揚げ、光の箱の中に入れて浄化します。

闇のエネルギーが箱の中に吸い込まれていく様をみて魔法使いルーチェは大喜びです。この時、闇が出てきた地中の穴からきらりと光るものが見えました。

この星のマザー・クリスタルです。

まるで闇が覆いかぶさるように、マザー・クリスタルのエネルギーを奪っていたようです。

私達は、このクリスタルを引き上げ、エネルギーの浄化をしていきます。

この闇の浄化が終わると、私達はこの星の創造主がいた塔へと向かいます。

シェンロンにお願いしてこのクリスタルを、デルタ星の祈りの塔へと運んでもらい、騎士団達の力を合わせて塔の1階の中央に設置します。

そして光りの種を入れ、光のワンドで光を送り、このクリスタルを綺麗に浄化しておきます。

後は創造主と魔法使いが戻ってくるのを待つばかりです。

PART4 創造主達の再開とレオーネの謝罪

私達がミモザ星に戻ってくると、もうすでにアスクレピオス様の癒しの神殿から戻ってきた創造主と魔法使い達が集まって歓談していました。

皆さん再び、共に集まれるとは思ってもいなかったようです。

ミモザ星の創造主が、他の星々の創造主と魔法使い達を慰労するための食事なども準備して、再会を祝っています。

私達がそこに到着すると、皆さん嬉しそうに席を立ち拍手で迎えてくれます。

ミモザ星の創造主が、私達と騎士団の団長たちも席に着くように言いました。

「TAKESHI さん、地球の女神さま、そして勇敢な騎士団の皆さん、私達は皆さんのおかげで闇の支配から助け出されました。

私達、南十字星の創造主と魔法使い達は心から、皆さんの働きに感謝します。

今日は、これから私達も力を合わせて南十字星の星々を次元上昇いたしますので、よろしくお願いします。」

創造主達が喜んで拍手をおくります。

私も皆さんにご挨拶をしなければいけないようです。

「私達がここに来れたのも、この星々を救うために私達のもとに来てくれた勇敢なケンタウルスのおかげです。

そして、ケンタウルス座と南十字星の復活を願う騎士団や女神、そして魔法使い達の協力があってこそここまで来ることが出来ました。

しかし、大切なのはこれからです。

南十字星を次元上昇させるとともに、ケンタウルス座の闇を取り除かなくてははいけません。

それまでは、気を抜かずに共に働きましょう。」

一段と大きな拍手が響き渡ります。

魔法使いマーリンから星々の状況について説明がありました。

「まずこのミモザ星に関しては、創造主様も魔法使いルーチェも元気ですし、マザー・クリスタルの活性もすんでおりますので問題はありません。

ミモザ星の次元上昇は他の星に先駆けて行われておりますので、これからこのミモザ星の水準に他の星々をあわせていく事になります。

ミモザ星のエネルギーの浄化に関しては、しし座の騎士団が担当します。

アクルックス星は、創造主もお元気になりましたし魔法使いラエルも元気です。

この星のマザー・クリスタルは、魔法使いラエルの手元にありますので、創造主様と魔法使いラエルを中心にマザー・クリスタルを活性化していただければ、すぐに星の次元上昇は行えると思います。

ここはさそり座の騎士団が浄化と守護を務めています。

デルタ星に関しましては、先ほどまで私達はデルタ星行っております、星の浄化もだいぶ行われております。

現在は、ペガサス騎士団とおうし座の騎士団が引き続き浄化を行っています。

マザー・クリスタルも発見し祈りの塔に安置して浄化も行っておりますので、あとは創造主様と魔法使いによって活性化が行われる

とよいと思いますが、創造主様がまだ完全ではないようですので、地球の女神である葵さんと遥さんがサポートさせていただきます。

カクルクス星に関しましては、おそらく4つの星の中では、最も状態が悪いようですが、そのサポートも十分に考えております。

星の浄化はだいぶ進んでおりますが、現在もシェンロン達とウミヘビ座騎士団が入り引き続き浄化を行っています。

マザー・クリスタルは、海の中にあることを発見しておりますが、創造主様の意向により設置する場所が決まりましたら、引き上げたいと思います。

カクルクス星のマザー・クリスタルの浄化と次元上昇に関しては、地球の女神である美緒さんと私がサポートしたいと思います。

後は、TAKESHIさんとミモザ星の創造主と魔法使いルーチェの判断で進めさせていただきます。」

「そして最後に、皆さんにもっとも大切な事をお話しいたします。

このケンタウルス座と南十字星を闇に陥れたマスターはもうすでに存在していません。」
創造主や魔法使いからは安堵の声が聞こえます。

「彼は自分が行ったことを反省し、光のマスターとして生まれ変わり、これからケンタウルス座と南十字星のために心から働きたいと申しておりますので、どうか彼の事を許してください。」

創造主達の間には、マーリンが何を言い出したのだらうと、動揺する声が聞こえます。

そして兄のレオンの陰に隠れていたレオーネが、自ら創造主の前に現れました。

創造主達は、自分達を助けてくれたグループの中に、自分達を闇に落とした恐怖のマスターがいるとは思いませんので慌てふためいて、テーブルの下に隠れようとします。

レオーネが心を決めたように話し始めます。
「私は、本当に愚かでした。

自分の中の寂しさに負けてしまい、他の物を力ずくで従えようと思って多くの者達を傷つけてしまいました。

ケンタウルス座や南十字星だけでなく、おとめ座やしし座の者達も傷つけ、皆さんの幸福と希望を奪い去ってしまいました。

本来ならば、ミモザ星の魔法学校の校長のように、自ら死を選ぶことが正しかったかもしれません。

しかし私は、母の愛によって救われ、ここにいる仲間たちの愛によって目覚めさせられました。

私は、皆さんの中に、私が行った事に対する憎悪と恐怖がたくさん残っている事を知っています。

私は、皆さんが私を許してくださるとは思っていません。

しかし、皆さんを恐怖に陥れた私はもうすでにいません。

そのことを知って頂くだけでも、皆さんは安心されるかと思います。

そして、私が行ったことの罪滅ぼしを少しでもさせていただきたいと思い、TAKESAHIIさん達の仲間に入れてもらいました。

今の私にできる事は、私が行った事の愚かさを皆さんに伝え、私と同じ過ちを繰り返すものが2度と現れないようにする事だけです。」

レオーネの言葉を聴いた創造主は、徐々に落ち着きを取り戻し、テーブルの椅子に戻りました。

そしてレオーネの改心の言葉を最後まで聞くと安心したかのように、うなずいています。

PART5 南十字星の次元上昇

私達は、魔法使いマーリンの計画道理に仕事を進めます。

ミモザ星とアクルックス星は良いとしても、デルタ星とカクルクス星はまだ仕事が残っています。

私達もシェンロンに乗ってデルタ星とカクルクス星に向かいます。

カクルクス星では、創造主の指示で近くの浜辺にマザー・クリスタルを安置することにしました。

この星は海の生命達がたくさんいるので、海のほとりにクリスタルを設置したほうがよさそうです。

クリスタルの神殿となる土台を急いでホビット達やウミヘビ座騎士団が作り上げています。

そこに、シェンロンによって引き上げられてきたクリスタルが安置されます。

まず、美緒さんがクリスタルの中に光の種を入れると、クリスタルが中から輝き始めました。

そして大天使達に来てもらい、クリスタルに光を送ります。

その様子を初めて見た魔法使いのキラージュと創造主は驚いています。

美緒さんをまじまじと見つめ尊敬の気持ちを表しています。

恥ずかしがる美緒さんをみて魔法使いマーリンも笑っています。

後は、魔法使いマーリンと魔法使いのキラージュによってクリスタルがどんどん活性化されパワフルになっていきます。

カクルクス星の創造主も、偉大な光を呼び寄せクリスタルに光を送ります。

私はその様子を見て、しし座の創造主、おとめ座の創造主達にも助けを求めます。

すると、カクルクス星が振動をはじめ、光の世界に向かって動き始めました。

海の波が高くなり、風も強く吹き寄せてきます。

しばらくすると、それも止んで穏やかな海に戻ってきました。

遠くで、魚たちが跳ねる様子も見えてきます。カクルクス星は、光の世界に入ってきたようです。

次に私は、デルタ星に移ります。

ここでは、もうすでに祈りの塔でクリスタルの活性が行われています。

ペガサス騎士団が大空を舞って、光を呼び込んでいます。

おうし座騎士団は胸に剣を掲げ、祈りの塔を囲んで守護しています。

葵さんと遥さん、そしてデルタ星の創造主と魔法使いが4方向からクリスタルに光を送っているようです。

クリスタルの上には、大天使達の光も見えますので、十分に活性しているようです。

葵さんが、私が来たことに気づいたようです。

「TAKESHI さんがいらっしゃったので、星の次元上昇をはじめましょう。」とささやきました。

創造主達もうなずき、両手を天に向かってさし延ばすように、星の次元上昇を祈ります。デルタ星は細かく振動しながら動き始めます。

他の星系の創造主達も光をつないでくれます。

デルタ星の上に大きな光があふれるように降り注ぎ、デルタ星が光の世界に向かって移動していきます。

これでデルタ星も素晴らしい星になっていく事でしょう。

アクルックス星では、魔法使いラエルが大切に隠していたクリスタルが、新しくつくり変えられた光の塔に設置され、祈りが始まっています。

さそり座騎士団とケンタウルスのトームズとブレゴリーが、光りの塔を囲むように警護についています。

創造主と魔法使いラエル、そしてさそり座騎士団のアンタレスがクリスタルに向かって祈っています。

私は、彼らのもとにおりたって大天使達を呼び、クリスタルの光を強くします。

次元上昇が始まります。

アクルックス星が大きく振動し、光の世界に力強く入って行きます。

アクルックス星の光の塔の周りでは、ホビット達や動物たちが戻ってきた物音がします。

私は3つの星を次元上昇させて同じラインにそろえた後、4つの星を統合させるための次元上昇をこれから行います。

ペガサス騎士団とシェンロンのグループが、この4つの星の間を走り回り光のラインでつないでいきます。

そしてそれは、4つの星を同じ平面上でつなぐ光のフロアーとなりこの4つの星を固く繋ぎ止め、南十字星としての働きを活性します。

私は、4つの星の創造主達にさらに次元上昇を行うように指示を出しました。

今迄は4つの星がバラバラだったのに、今は一つの方角に向けて次元上昇していきますので、お互いの距離が縮まり、強いきずなが出来てきます。

4つの星が、それぞれを支えあうようにして次元上昇していきます。

南十字星そのものがさらに高い光の世界に入って行きました。

ここまで来ると、もう闇の支配をうけた存在達は入ってくることが出来ませんので、南十字星の創造主達はしっかりとした働きが出来るでしょう。

南十字星の光のフロアーが出来上がると、その中心から大きな光が、宇宙空間にむかって立ち上ります

その輝く光の先に現れたのは、まさに仏陀様そのものです。

地球に降りてこられた仏陀は、この偉大なる創造主の一部であったと思われます。

ブッダ様は、この天の川銀河の中心的な創造主（第2次創造主・中創造主）の1人です。この南十字星の創造主を統治していたのは、仏陀様ということであれば、おそらくこの南十字星は、とても大切な役目を持っているはずです。

仏陀様は、私達の前に尊い姿を現しになり、言葉を伝えてくれました。

「この南十字星は、人々にとって大切な目覚めの意識を導く場所であり、叡智を育む光を送る場所です。

皆さんが、この場所を闇の支配から解放してください。深く感謝します。

この場所が闇のエネルギーの影響によって十分機能していなかったために、天の川銀河の星々がいくつも闇にのみこまれてきました。

皆さんの地球もまさにそうです、深い闇の中で人々が苦しめられています。

南十字星がその働きを取り戻すことによって、天の川銀河や地球の闇も少しずつ晴れてくる事でしょう。

そしてその為にも、光の運び手であるケンタウルス達を助けてあげてください。」

私達は、偉大なる創造主である仏陀様の光を厳かに受け取り、南十字星の新たな再出発を祈りました。

第8章 ケンタウルス座に光を送る



PART1 ケンタウルス座に光を送る

南十字星の創造主たちが、本来の働きに戻ることによって、南十字星は今まで以上の輝きを取り戻しました。

次は、この南十字星を守護するケンタウルス座の星々の働きを元に戻さなければなりません。

今日の星のツアーはいよいよケンタウルス座に入ります。

前回の星のツアーの終わりに、このケンタウルス座の調査をケンタウルスとペガサス騎士団にお願いしてありましたので、その報告から受けることにしましょう。

ケンタウルスのトームズとブレゴリーが報告します。

「まず私達は、今回のケンタウルス座の大きな争いの元となったケンタウルスの足元にある星に行ってみました。

それはリギル・ケンタウルス星とプロキシマ・ケンタウリ星の2つの星です。

ここではまだ大きな闇のエネルギーが残っており、部分的に争いが行われているようですが、ここが一番大きな闇を抱えていることは間違いがないようです。

ハダル星には闇が多いうえに、どうも闇に落ちた魔法使いが支配しているようで、どのような状態か理解しがたい状況です。

バーダン星もイーター星まだ闇が多く残っていますが、争いなどは起きていないようです。

ムリファイン星は、多くのケンタウルス達がいまだ混乱状態にあるようです。

何か地殻変動が起きているようで星の状態も安定していません。」

どうも、彼らの話では、主要な星はすべて闇の中にあってまともな星はないという事のようにです。

私達は今回の星のツアーのために更なる仲間達を呼び寄せました。

それは、個人のアチューメントの時に、地球の深い闇を解決してほしいと頼まれたことがありました。

その闇とは、遠くギリシアの神話時代に作られた巨大なものでした。

私達はすでにオリュンポスの神々であるゼウス神やポセイドン神とも大変仲良くなっていたましたが、その闇は、彼等によって処罰を受けた巨人族の闇でした。

私がある闇の中に入ると、巨人族の末裔であるアトラスが地球を持ち上げたままの姿で長い間苦しみ、絶望感に見舞われていたのです。

私達は彼の苦しみを癒し、地球の大きな闇のエネルギーを開放してあげました。

そのことを喜んだ巨人族のリーダーであるオーケアノスは、私達と巨人族の間に深いつながりを作ってくれたのです。

私達はオーケアノスの好意によって、彼の娘であるステュクスが、私達のツアーに同行してくれることになりました。

私達は、巨人族のステュクスが同行してくれることで、活動範囲をさらに広げる事になるようです。

それでは、話をケンタウルス座に戻しましょう。

私達はまずシェンロンで、南十字星のミモザ星に入りました。

今日はここを基地としてケンタウルス座の攻略を行う予定です。

ミモザ星の創造主であるガンダルフは、偉大な魔法使いでもあります。

彼は、創造主でありながらケンタウルス座の状況がどのようになっているか、その目で見たいという事で、私達に同行することになりました。

私達はまず、ケンタウルス座にこの場所から光を送る事にしました。

大天使と魔法使い達にも手伝ってもらい、ケンタウルス座全域に、南十字星の光を送ります。

そしてシェンロンのグループやりゅう座のドラゴン達にも手伝ってもらい、闇のエネルギーを当面の間、浄化してもらいます。

私達がケンタウルス座の様子を見ていると、ケンタウルス座の足元にある3つの星の闇が、大きく浮かびあがってきました。

他の星の闇のエネルギーはさほど大きいものではなさそうでしたので、私達はこの足もとにある3つの星に向かう事になりました。ただし、レオーネが行くと皆さんが混乱しそうなので、レオンとレオーネの騎士団は、引き続き南十字星の警護と浄化にあたります。

PART2 悲しみから正義に目覚めたリギル・ケンタウルスのマスター

私達は、リギル・ケンタウルス星に入りました。

この星の闇のマスターは、ケンタウルスですが、この星の荒れ方は大変なものです。

おそらく隣の星であるプロキシマ・ケンタウリ星との戦いが長く続いたのでしょう、あちらこちらが戦場となり、今でも傷ついたケンタウルス達が、傷の手当てを受けることもなく苦しんでいます。

まだ体が動くケンタウルス達が食べ物を与え看病をしているようですが、この星自体が荒れ果て、食べ物もいつまでもつのか心配です。

事前にケンタウルス座の星々を浄化しておいたおかげで、この星の闇も少しは晴れてきています。

この星のケンタウルスのマスターは、私達が来ることを知っていたようです。

おそらく南十字星が立ち直ったことで、私達の話は、ケンタウルス達にも伝わっているようです。

私達が、星に降り立つと、騎士団に属している様なケンタウルスが近づき、ブレゴリーとトームズに話をしています。

ブレゴリーが彼の話伝えてくれました。
「彼はこのリギル・ケンタウルス星の騎士団の使いだといっています。
団長は、自分達がケンタウルス同士で争ったのは間違いだったという事に気づいたようです。
其の為に豊かで幸福だった自分達の星を悲惨なものにしてしまったといっています。
出来れば、地球の勇者の方々に会いたいと願っているようです。」

私はわかりましたといって、使いできたケンタウルスについていきます。
葵さん達は、魔法使いから緊急薬や元気が出る薬をたくさんもらっていますから、通る道々で倒れているケンタウルスや介護をしているケンタウルスに差し出しています。
その都度、ブレゴリーとトームズがケンタウルス語で「薬だよ」と声をかけています。

私達は、リギル・ケンタウルス星の騎士団の神殿のようなところに連れてこられました。
ここにはまだ数頭の元気なケンタウルス達もいました。
私達が入って行くと年老いて疲れ果てたケンタウルスが、私達を迎えてくれました。
私達とトームズ、ブレゴリー、そして魔法使い、騎士団の団長は神殿の中に入ります。

「よくケンタウルス座に来てくれました。
私は、リギル・ケンタウルス星の騎士団の団長で、ギレットといいます。
あなた方と共にいるケンタウルスは、あなた方をこのケンタウルス座に呼んできてくれたケンタウルスですか。」
私は「そうです。」と答えました。
騎士団の団長は、トームズとブレゴリーに、軽く会釈をします。

「そうですか、それは良かった。
実は、私達もあなた方に、ケンタウルス座の
和平をお願いしたいと思っておりました。
私達は、自分達の野望と狂乱に明け暮れ、殺
戮を繰り返してきました。
そして気づけば、この星で元気なものは数え
るほどしかいません。
多くの騎士が死に絶え、残されたものも傷つ
いています。
このままでは、この星は壊滅してしまい、私
達の一族もみな死に絶えてしまいます。
今戦いを止めなければ、私達は取り返しのつ
かないことになるでしょう。
南十字星の創造主様たちが復活したと聞いて、
私達は希望を持つ事が出来ました。
どうか、私達を救ってください。」

彼の言葉には嘘はないようです。
彼の心から、自分達の子供だけでなく多くの
親族の者達も殺されていった絶望感を感じ
ます。
この神殿の周りを見るだけでも、この星にこ
れ以上戦う気力が残っていないことが分か
ります。

全てのケンタウルスに絶望感と家族を失っ
た悲しみが満ちあふれています。
この団長も最後になって、子供達を失った悲
しみからケンタウルスとしての正義感に目
覚めたようです。

ブレゴリーとトームズが安心した様な顔を
しています。
私は、このリギル・ケンタウルス星の騎士団
の団長であるギレットに答えます。
「わかりました。

私達もケンタウルス座の中に、和平を望む方がいてくださり大変うれしく思います。私達はまさに、ケンタウルス座が今迄のように素晴らしい愛と正義に満ちた星々となるように努力いたします。」

「TAKESHI さん本当にありがとうございます。

どうかこの神殿はご自由にお使いください。そして、この神殿を警護する若きケンタウルス達よ、この勇者と共に同行し、彼等を守り、ケンタウルスの星々を平和に導くための仕事をなさい。

それが私達に残された大切な役目です。」若きケンタウルス達は、胸に剣を掲げ、ギレット団長の言葉に忠誠を使います。

私はすぐに、アスクレピオス様とカペラ座のイシス様にお願いして治療部隊に来てもらいます。

この神殿のほかにも大きな建物がいくつかありますので、その建物を治療院や食堂として使用させてもらう事にしました。

しかし、どう考えても治療薬や食べ物が足りません。

魔法使い達におねがいして、治療薬や包帯などをたくさん準備してもらいます。

また北極星の創造主、ペテルギウス座の創造主にもお願いして、私達を助けてくれるフェアリーやホビットや人々がいれば、こちらの星まで来てもらう事にしました。

おそらくこの星と同じような状況が他の星でもあることでしょう。

PART3 リギル・ケンタウルス星のマザー・クリスタル

私達は、ギレット団長にお願いして、この星のマザー・クリスタルも浄化し活性化することにしました。

この星が闇の中に閉ざされたままでは、他の星々からも救援に来ることが出来ませんし、サポートを行うことも出来ません。

ギレット団長と若きケンタウルス達は、私達を祈りの神殿のような場所に連れて行ってくれます。

しかしそこには、神官たちはおらず、マザー・クリスタルが放置されたままです。

おそらくこの星が闇に落ちた為に、神官たちは光の次元に取り残されたのでしょう。

私達は、いつものように光の種を入れ大天使達を呼んで活性化しています。

そして、私達と共に来てくれた創造主であり魔法使いであるガンダルフ様を中心にクリスタルの活性を行っていきます。

いつものように、クリスタルが大きく輝き始めると、この星が振動していきます。

そして、ゆっくりと次元上昇をしていきます。この星に生きるケンタウルスの思いを乗せて星は上がっていきます。

もちろん完全な次元上昇ではありませんが、他の星から助けに来る人達が入れるようになったでしょう。

完全な次元上昇は、全ての星のマザー・クリスタルが活性してから行います。

私達は神殿に戻ります。

すでにアスクレピオス様とカペラ座のイシス様の救援隊が到着し、騎士団と一緒に治療にあたっています。

宇宙の光の女神達も一生懸命手伝っています。

しかし、私は一つ気になったことがあります。この星を支配しているのはレオーネの部下ではないかと思っていたのです。

そのことを不思議に思い、ギレット団長の部下に聴いてみました。

「ケンタウルス座に、光のマスターを装って入りこんだ闇のマスターと仲間達は、ケンタウルス座の多くの騎士団を仲間につけました。

最初は、強い力を持つライオンのマスターに誰もが従っていたのですが、彼らの暴力的な支配に、ケンタウルス達は傷つき、心の中で不満と怒りをもちはじめたのです。

やがて闇のマスター達が持ち込んだ闇が、ケンタウルス達の心を支配し、彼らの心を怒りと暴力的なエネルギーで満たしました。

ケンタウルス達は、今迄よりも強いパワーと闘争心に目覚めたのです。

彼等は、闇のマスター達と戦い、彼等を追い出してしまいました。

そして、自分達の仲間同士で、自ら争いを始めてしまったようです。

その中でも、この星のギレット団長と隣の星のプロキシマ・ケンタウリ星の団長の争いは、壮絶を極め、多くのケンタウルス達が死んでいきました。

そしてその争いは、他の星々へと広がっていったようです。」

「それで闇のマスター達はどうしたのですか。」と私は尋ねました。

「彼等は、ケンタウルスから目の敵にされ、星々を逃げ回っていましたが、やがてケンタウルス座から出ていったようです。」

それで、レオーネがスピカ星に疲れ切った姿でいた理由が分かりました。

彼等は彼ら以上に強力な力を持つ闇のエネルギーによって散々な目に合わされたのです。

ギレット団長の部下は更に言葉を続けます。

「ギレット団長も、自分の子供や兄弟たちを殺されてようやく目覚めてくれたのです。

きっとこの話を聴いて、この星の全てのケンタウルスが喜ぶでしょう。

いえ、ケンタウルス座の全てのケンタウルスが喜ぶと思います。

私も、何時戦いで死ぬのかな、と絶望的な気持ちでいたのですが、これで希望が持てます。私達は、皆さんに感謝し、命に代えても皆さんを守ります。」

彼はそう言って、両足を曲げ、ケンタウルス式のお辞儀をして、私の元を去っていきました。

きっと家族に喜びの報告をするのでしょう。

PART 4 光のケンタウルス騎士団の新たな旅立ち

ケンタウルス座のメインの星となるのは、ケンタウルス座の α 星ですが、この星は 3 連星と言って、3 つの星が連なって輝いている星です。

その中でも、リギル・ケンタウルスとプロシキマケンタウリが中心となっています。

ケンタウルス騎士団も、この 2 つの星が中心で、リギル星には、前回和平を願っているギレット団長の騎士団があります。
今日行くプロキシマ星にも、闇に落ちた騎士団の団長がいるようです。

まず、私達は創造主の星である南十字星のミモザ星に入ります。

創造主であり魔法使いのガンダルフ様が待っています。

私達は、今日もこの南十字星に、偉大なる創造主と宇宙の大天使たちの光を呼び込み、南十字星の力を強めるつもりです。

ガンダルフ様が、私を見つけると嬉しそうによってきます。

「TAKESHI さん、今日は、ケンタウルス座の騎士団の中で、闇の影響から自由になった騎士達を南十字星に呼ぶことにしました。

そして、南十字星の創造主の復活と共に、この天の川銀河の平和のために働く新たなケンタウルス騎士団の結成を呼び掛けたいと思っています。」

私もそのことに同意します。

南十字星の創造主と、光のケンタウルスのブレゴリー達が呼び掛けると 20 人ほどのケンタウルス達が、南十字星にやってきました。ケンタウルス達は、とてもうれしそうに創造主の復活と闇の支配の終焉を祝っています。

今回集まってきたのは、リギル星、メンケント星、イーター星、ムリファイン星から来た騎士のようです。

バーダン星やハダル星の騎士達は、まだ闇の中で身動きができないようです。

ミモザ星の創造主であるガンダルフ様が南十字星の復活と「光のケンタウルス騎士団」の結成を宣言します。

新たな騎士団の司令官には、私達をケンタウルス星に導いたトームズと光のケンタウルスの代表であるブレゴリーを選びました。そして、彼のもとに各星の騎士達が結束を固めることになりました。

宣言に合わせて、南十字星の創造主と天の川銀河を守護する大天使達が一斉に光を送ります。

そして、その光に導かれるように天の川銀河の創造主達が南十字星とケンタウルス座の星域に祝福の光を送ります。

この宇宙全体に大きくて荘厳な光が広がります。

私達は、創造主から、友情の証として闇を浄化する力がある腕輪をいただきました。

私は、これをホビットと魔法使いにお願いしてたくさん作ってもらい、今回集まったケンタウルスの騎士団に持たせました。

これから、この宇宙の秩序と平和を守るために彼らの力が必要となりそうです。

また各騎士団の団長や中心的なメンバーには、闇を光に変えるゴールドの弓矢も与えられました。

これから、彼らは南十字星の創造主と共に、南十字星と天の川銀河の平和のために働くことになります。

そしてその第1歩が、ケンタウルス座を闇の力から解放することです。

今迄共に働いていた騎士団達も仲間が増えて大喜びです。

PART5 プロキシマ・ケンタウリの騎士団と女神

儀式が終わると、私達はプロキシマ・ケンタウリに向かいました。

ここは、ケンタウルス座最強の騎士団があったところですが、団長がとても大きな闇の渦巻きに飲み込まれ、今でも暴れているようです。

今回の闇の渦巻は、今迄の渦巻とスケールが違います。

まるで台風のように大きくて、そこにある建物や樹木を押し倒しながら動いているようです。

これでは、私達も近寄れませんし、光の箱を渦巻にかぶせることも出来ません。

私達はどのようにしたらよいか途方に暮れてしまいました。

すると新しく加わった巨人族のステュクスが一つの作戦を提案しました

「私が仲間を集めて4方向からこの渦巻を鎖でつなぎ、動きを止めますから、その間にケンタウルスの騎士団の皆さんが、ゴールドの弓矢を渦巻にはなってください。

すると闇の渦巻が小さくなりますので、光の箱をかぶせたらどうでしょう。」

騎士団達もステュクスの言葉に活路を見出したようです。

ステュクスは私達と一緒にいるときは、アルケイデースと同じくらいの大きさですが、彼女たちが本当の大きさになったら、きっと騎士団達も驚くことでしょう。

ステュクスは、私達のところからはなれると走り出しました。

すると彼女は走りながらどんどん大きくなっていきます。

彼女が闇の渦巻の前につくころには小高い山ぐらいの大きさになりました。

その姿を見て、アルケイデース以外の騎士団は驚いています。

アルケイデースは昔ヘラクレスとして巨人族とたたかっているので、彼女たちの大きさもパワーも知り尽くしています。

大きくなったステュクスが、腕をあげて3本指を差し出すと、稲光と共に、彼女と同じ大きさの巨人達が渦巻きを取り囲むように、3人現れました。

そして鎖の様なものを渦巻に投げかけて、渦巻きを縛り上げました。

そして電流の様なものを流し渦巻に電気ショックを与えています。

これで渦巻きの動きを止めることができたようです。

新たに私達の仲間になった「光のケンタウルス騎士団」が、闇の渦巻の周りに走り込み、ゴールドの弓矢を放ち始めました。

私達も一緒に光のワンドで、闇の渦巻きにどんどん光を送ります。

偉大なる創造主と大天使たちの光も闇のエネルギーを浄化していきます。

そして小さくなった闇の渦巻に、小人と魔法使いで光の箱を設置します。

ステュクス達は自分達の仕事が終わったので3人の巨人は消え去り、ステュクスもいつもの大きさに戻りました。

騎士団の団長たちは、そのあまりのすごいパワーに、胸に剣を掲げ敬意を表しています。

それをみてステュクスは、「馬鹿なことをしないで。」と笑っています。

闇がだいぶ薄れた頃に、癒しの大天使たちが彼の心を癒し始めます。

聖母マリアと宇宙の光の女神達も、近くにより彼に愛の光を送っています。

彼はとても傷つき意識も朦朧とした状態で、闇に操られていたようです。

私達の光の遺伝子を受け入れ、闇の渦巻きの中に光が満ちていきます。

闇のマスターはすぐに、アスクレピオス様に来てもらい、彼の治療院へと運びました。

これで、このケンタウルス座最大のプロキシマ・ケンタウリ星の闇は光へと統合されていくようです。

プロキシマ星の闇がどんどん晴れて赤黒がった星が明るい星に変わっていきます。

プロキシマ・ケンタウリ星の騎士団のメンバー達が武器を捨て、私達のもとに歩いてきます。

この星の騎士団の副団長ラレバが私の前に出て、両足を曲げ、ケンタウルス式のお辞儀をします。

これは一切の敵意がないという意思表示でもあるようです。

「地球から来られた勇者よ、私達もあなた方の話を聴いています。

私達は、団長に従って今迄多くの争いを行ってきましたが、同胞であるリギル・ケンタウルス星の騎士団との戦いには、多くの苦難を伴いました。

なぜなら、私達は以前からとても仲が良く、お互いの騎士団のメンバーは友達同士でもあるのです。

また家族が、相手の星に嫁いでいくこともあります。

その様な中で、お互いを傷つけあうのは、自分の友人や家族を傷つけるのと同じで、私達にとって耐えがたい苦しみでした。

私達は、噂でリギル・ケンタウルス星のギレット団長が、戦いを止め和平を望んでいるという話を聴きましたが、それは本当でしょうか。」

騎士団の中から、ギレット団長が現れました。

「その答えは、私からお話ししましょう。

私も和平を望んでいます。

いえ争いを止めなければ、私達の星は滅んでしまいます。」

プロキシマ・ケンタウリ星の副団長は、ギレット団長を見つめ、

「ありがとうございます。

私達は、これでこれ以上の苦しみを、私の家族や子供たちに与えなくても済みます。

私達は、これから兄弟として、以前のように仲良く過ごすことが出来るのでしょうか。」

ギレット団長はラレバ副団長に近づき体を起こしてあげます。

「もちろんです、今迄の悪夢は終わりました。これからは、お互いを兄弟とおもい、信頼をもってお付き合いしましょう。」

プロキシマ・ケンタウリ星のケンタウルス達が口々に「戦争は終わった」と叫びながら喜んでいます。

彼等は、街々を走り抜け、戦争が終わったことを星の人々に伝えていきます。

星全体が、喜びの感情で埋め尽くされていくようです。

私達は、ここにもカペラ星のイシスの救援部隊とアスクレピオス様を呼びました。

彼等は、隣のリギル・ケンタウルス星で治療を行っていましたが、だいぶ終わったようですので、こちらの星に移ってプロキシマ・ケンタウリ星のケンタウルス達の治療を行ってもらおう事にしました。

ラレバ副団長は、救援隊のためにもともと治療所として使用していた場所や大きな建物を準備してくれました。

確かにこの星にも、傷ついて治療が必要なケンタウルス達は沢山います。

水も食料も足りていないようですが、戦争が終わったことを喜ぶ気持ちが星にあふれています。

私は、ラレバ副団長にお願いして、この星のマザー・クリスタルを活性化させるために、クリスタルの場所に案内してくれるように頼みました。

私達が、案内された場所は、湖の中の小島です。

この小島には壊れかけた神殿が立っていますが、もともとは神聖な場所だったようです。

私達と南十字星の創造主であるガンダルフ様で活性をはじめました。

騎士団の副団長であるラレバも真剣に祈っています。

クリスタルに光の種を入れ、大天使達の光をお借りしてクリスタルを活性化すると大きな光が輝き始めました。

私達は一瞬目がくらみ目を閉じましたが、目を開けるとそこに3人の女神が立っています。

女神の一人が、私達に向かってにこやかに話し始めます。

「私達が目覚めたという事は、このケンタウルス座にも平和の兆しが見え始めたという事でしょうか。

私達は、ケンタウルス座の人々が闇に飲み込まれてしまい、戦いに明け暮れるようになってから、星々が次元降下してしまったので、このクリスタルの中に閉じこもりました。

アルファ・ケンタウリの3つの星の女神がここに集まって、一緒にとじこもることで、アルファ・ケンタウリが平和に目覚めた時、3つの星がすぐに統合されるように祈りを捧げてきたのです。」

「女神よ、あなたの願いどおり、プロキシマ・ケンタウリ星とリギル・ケンタウルス星は、戦いを止め平和な星となりました。

南十字星の創造主と魔法使いも復活し、ケンタウルス座はすこしずつ平和になっていきます。

ケンタウルス達の間でも、平和のために働く光のケンタウルス騎士団も結成され、もうしばらくしたら、以前のように正義感にあふれたケンタウルス座が戻ってくると思われます。」

「それはとてもうれしいことです。
私達の願いがかなう時が来たのですね。」

さっそく癒しの大天使たちを呼びだして久しぶりに戻ってきた女神達を癒してもらいます。

彼女たちが、元気を回復している間に、こちらは星の次元上昇の準備です。

今回はこの女神と創造主の力をかりて、3つの星を同時に次元上昇させるつもりです。

私は、この星域を守護する創造主や仏陀様、そして大天使様に、アルファ・ケンタウリの3つの星の次元上昇をお願いしました。

2人の女神がさっと姿を消して3つの星に別れます。

それぞれの星のクリスタルのもとに行き、各星の次元上昇を行います。

南十字星の創造主達も、アルファ・ケンタウリの上空にやってきて、星の上に神聖幾何学を描いています。

私達もクリスタルに向かって祈り始めると、3つの星の次元上昇が始まりました。

ぐらぐらと大地が揺らぎ、暗かった星がどんどん明るくなります。

その時に、空を覆うばかりの大きなケンタウルスの姿が現れました。

星の大地に足をかけ、大空に向かって胸を張っている姿です。

もしかしたら、このケンタウルス座の惑星意識かもしれません。

第8章 魔法使いユミレーシ ャと創造主ガンダルフ



PART1 ハダル星の闇に落ちた魔法使い

今日も新しい星に向かう星のツアーが始まります。

前は、アルファ・ケンタウリの3つの星が次元上昇する様子を見て安心しましたが、やはりプロキシマ・ケンタウリ星では、闇に落ちた騎士団の団長を支持するケンタウルスと、和平を望む副団長のラレバを支持するグループに分かれて少し抗争があったようです。

南十字星の創造主のもとで、「光のケンタウルス騎士団」として生まれたケンタウルス達は、副団長のラレバとともに相手と話し合いを行い、相手を数で圧倒して抗争を鎮めることが出来たようです。

私達は、ハダル星に進むことにしましたが、このハダル星、少し厄介な事があります。

騎士団の団長はケンタウルスではなく魔法使いなのです。

しかも闇に落ちた魔法使いなのでかなり危険です。

特殊な魔法が使えることに傲慢になって闇に落ちたらしいです。

その魔法とは・・・時を止める魔法です。

このハダル星の騎士団は、負けることを知りません。

なぜなら、戦いになると、この魔法使いが相手の時を止めてしまいますので騎士達は動けなくなります。

その間にハダル星の騎士によって捕えられ殺されてしまうのです。

その戦法を他の星の者達は知っていますので、このハダル星に戦いを仕掛けるものはいません。

今回の戦いはかなり危険ですので、魔法使いと騎士団だけでハダル星に乗り込みます。宇宙の光の女神達は南十字星でお留守番です。

気になってトート神を呼び出したら、やはりこの魔法使いもトート神の弟子のような存在でした。

トート神は、私達に大変申し訳なさそうな顔であやまってきます。

トート神はこの宇宙の中でも多くのマスターを育てる大先生のような存在ですが、その弟子の中から闇に落ちるマスターが出てきて、トート神も弱り切っているのです。

私達はハダル星に降りると、トート神をはじめ、魔法使いグループで相談しました。

そして、向こうが時の魔法を使う前にこちらが相手の時を止めて、一気に仕掛けていく作戦をとることにしました。

その時です。

私達の動きが止まりました。

騎士団も魔法使い達もすべての動きが止まっています。

私達がハダル星に入ったことが知られたようです。

先に、ハダル星の魔法使いによって時を止める魔法を使われたようです。

私達を取り囲むように、ケンタウルスの騎士団が槍を構えて近寄ってきますが、騎士団も魔法使いも身動きが取れません。

私達もこれで終わりかと思ったとき、スピカ星であったリーラの声が聞こえます。

「TAKESHI さん、このような時こそ、女神クロノス様をお願いして下さい。」

私は心の中で女神クロノス様を呼びます。するとクロノス様が、私の前に現れてくださいました。

「私達の止められた時を動かしてください。私達にかけられた時を止める魔法を打ち破ってください。」

私達の体が、突然動くようになりました。それを見て驚いたのは、ハダル星の騎士団です。

今迄、ハダル星の魔法使いが使った「時を止める魔法」を破ったものは誰もいなかったからです。

一瞬、ハダル星のケンタウルス達がひるみました。

その隙を狙って、アルケイデースが、一人のケンタウルスの両足を握って、大きく振り回

し、左右にいた3人のケンタウルスを吹き飛ばしてしまいました。

アルケイデースは、前から私を攻撃してくる可能性があるケンタウルスを片付けてくれたようです。

そしてアルデバランの団長も剣を抜き、3人のケンタウルスが持つ槍を、あっという間にたたき折ってしまいました。

巨人族のステュクスはいきなり3倍くらいの大きさになって、私達の後ろから迫ってきたケンタウルスを持ち上げて横のケンタウルスに投げつけました。

ステュクスの破壊的なパワーは更に他のケンタウルスを捕まえ、仲間に投げつけケンタウルス達をなぎ倒していきます。

殆どこれで勝負は決まったようです。特にステュクスが巨大化したことに驚いた多くのケンタウルスが腰を抜かし、地面を前足で這うようにして逃げていきます。

戦いはすぐに終わりました。幸い相手のケンタウルスに重大な傷を負わせることなく戦いは終わりました。ステュクスの並はずれたパワーを見せつけられた騎士団は、またしても胸に剣を掲げ、ステュクスのパワーを賞賛しています。ステュクスは、笑いながら「本当にそのポーズはやめて頂戴、今度したら投げ飛ばすわよ。」と言います。皆が、愉快に笑います。

「ところで、誰が時を止める魔法を破ったのですか。」と魔法使いルーチェが聞きます。マーリンが、その事をとっさにできるのは、地球の勇者しかいないでしょうと笑って答えます。

「やはりそうですか、それだけの高等な魔法を使えるのなら、どうかわたしを弟子にしてください。」

いつもの魔法使いルーチェのおねだりです。

「ステュクスと闘って勝てたら弟子にしてみよう。」と私は、答えます。

魔法使いルーチェが、「それだけは。」と言って首をよこにふります。

皆さんそのしぐさを見て大笑いです。

さて、私達はハダル星の騎士団の本拠地であるハダル城を目指します。

ハダル城が遠くに見えて来ました。

私達は、山道のような場所を降り切って広い道に出ました。

途中に、私達を通さないように、大きな壁のようなものを作っています。

きっと後ろにケンタウルスの騎士団を隠しているのでしょう。

わし座のヴィジョンが様子を見るために大空高く舞い上がりましたが、やはり後ろにはケンタウルスがたくさん待機して、弓や投石器も準備しているようです。

ここは下手にせめても大きな壁に押し返されるだけでしょう。

騎士団の団長がみなステュクスを振り向きます。

確かにステュクスにしてみれば、子供だましの戦法です。

「そうね、ここは私の仕事よね。」といってステュクスは立ち上がりました。

そして壁の前に歩いていくと、急に大きな姿になりました。

今度は小山ぐらいある姿ですので、壁も足の膝くらいまでしかありません。

壁の後ろに隠れているケンタウルスも、その姿を見てパニックになっています。

ステュクスが、指を2本立てました。

すると壁の後ろ、ケンタウルスが待機している後方に2人の大きな巨人が現れました。両側から巨人達に挟まれ、逃げ場を失ったケンタウルス達は、パニックを超えてほぼ気絶同然です。

未だ意識を保っているケンタウルスは、戦う事を諦めて一斉に逃げ出しました。

その時を見計らって、アルデバランの騎士団が壁に向かって突進していきましたが、すでにステュクスが、壁をつまんで、ぽいっと放り投げてしまいました。

アルデバランの騎士団の前には、腰を抜かして動けなくなったケンタウルスばかりが、恐怖に怖気づいて逃げまどっています。

これでは戦にならないでしょう、私達は、彼らの間を進んでいきました。

戦いが終わってステュクスが戻ってきました。

アルデバランの騎士が再び剣を胸に掲げようとしているので、さそり座のアンタレス団長が抑えています。

PART2 ハダル星の魔法使いユミレーシャ

私達は、先を急ぎ、ハダル城の前までやってきました。

もうケンタウルスの姿は見えません。

中に残っているのは、魔法使いだけでしょうか。

ここはケンタウルスのブレゴリーとトームズに見に行ってもらう事にしました。

彼等は、ハダル星の騎士団が身に着けていた胸当てを身に着け、ハダル星の騎士団の身なりをしています。

魔法使いマーリンも姿を隠して城に潜入します。

わし座のヴィジョンには城の上空から調べてもらいます。

ブレゴリーとトームズが中に入って調べたところ、ケンタウルスは恐れをなしていなくなっているようです。

しかし、相手も魔法使いです、何を仕掛けてくるかわかりませんので用心が必要です。

魔法使いマーリンも戻ってきました。

「魔法使いは闇の渦巻につかまっていた。

未だ自由に動け意識もはっきりとしているようですが、やがて魔法学校の校長のように、闇のエネルギーにすべてを吸い取られ意識もなくなっていくのではないのでしょうか、」わし座のヴィジョンもまだ小さいのですが、闇の渦巻を見つけたようです。

この城にはケンタウルスの騎士達もいないようですので、私と魔法使いだけではいることにしました。

しかし警護は必要なので、相手を油断させるためにステュクスに普通サイズの女性になってもらいついてきてもらう事にしました。

このハダル星の魔法使いの名前は、ユミレーシャという名前のようです。

南十字星の創造主であり魔法使いであるガンダルフのもとで勉強した魔法使いですので、自分の師匠が来れば、話し合いに応じてくれるでしょう。

魔法使いマーリンは、魔法使いユミレーシャが隠れている部屋へと私達を案内しました。

創造主ガンダルフ様が、魔法使いユミレーシャに声をかけます。

「ユミレーシャ、ユミレーシャ、私だ、ガンダルフだ、ユミレーシャいるか」

部屋の中で物音がしました。

創造主ガンダルフ様が部屋の扉を開け、中に入りました。

ここは、師弟だけで話をしてもらおうと思いますので、私達は外で静かに待ちます。

「ユミレーシャよ、久しぶりだったな。元気だったか。」

「師匠よ、わざわざこのような場所まで来て下さったのですか。」

「うん、ユミレーシャの事が気になってな。」

「お師匠様は、お元気だったのですか。」

「うん、私も魔法使いも無事じゃったが、他の星の創造主や魔法使いは大変なことになってしまった。」

「そうだったのですか。」

ユミレーシャがばつが悪そうにうつむきます。

「そういえば、魔法学校の校長は死んだよ。」
ユミレーシャは驚いた顔をしています。

実は、闇のマスターに従った魔法使いは、ユミレーシャと魔法学校の校長の2人だったのです。

ユミレーシャはケンタウルス座を支配するように言われ、魔法学校の校長は南十字星を

支配することを託され、特別な能力を与えてもらったのです。

そのおかげで、ユミレーシャとハダル星の騎士団は、誰にも負けることはありませんでした、今日までは。

「どうしてそういう事になったのですか」ユミレーシャはおそるおそる聞きました。

「校長は、闇のマスターから特別な力をもらって、南十字星を自分の物にしたと思い込んでいた。

自分の力が誰にも負けない、どのような者でも従えると思って他人を支配していた。

あるとき自分の力の源である闇の力が途絶えてしまった。

それ以来、闇の渦巻に囲まれるようにして、自分の力と生命力、そして自分が他人から奪い取った全ての物が、闇の渦巻に吸収され、彼はすべてを失ってしまったのだ。」

ユミレーシャは、その話を聴いて呆然としています。

「校長は、何故死んだのですか。」

「そうじゃな、校長の最後の言葉を教えよう。闇の力は、私にすべてを与えたが、私が得たものの全てを奪い去っていった。

私達の希望も野望もそして欲望も、全て闇によって作り出され、すべて闇が奪い去っていったのだ。

残されたものは、気力も体力も奪われた屍のような自分だけだ。」

ユミレーシャは、自分の今の状況ととても似ていると感じたのでしょうか、涙を流しています。

「しかし、それを望んだのは、まさしく自分だった。」創造主ガンダルフ様は悲しくつぶやきます。

「私は、生きたい、死にたくないのです。私にも、その闇の渦巻が生まれ、日々生命力を失っていきます。私もやがて校長のように死んでいくのでしょうか。」

「今のままでは間違いなくそうなるだろうな。」

「お師匠様、どうかわたしを助けてください。」

ユミレーシャは創造主ガンダルフ様にしがみついて泣いています。

「自分がしたことは、自分でかたをつけんな。」

創造主ガンダルフ様は、ユミレーシャの手を振りほどき、この部屋を立ち去ろうとします。

ユミレーシャは自分が死んでしまう恐怖で体を震わせています。

「お師匠様、私を見捨てないでください。私を助けてください。」

「ユミレーシャよ、自分が今までしたことをどのように思っておるか、教えてくれ」

「私は今まで、闇の力を使い、他人を支配することを当たり前と思っていましたが過ちでした。

私は、今すべてを失いましたが、本当は初めから何ももっていなかったのです。」

「そうか、今迄の気持ちをすべて捨てて、人のために尽くす気はあるのか。」

「お師匠様、私が助かるのならそういたします。」

「それでは、彼にすぎるがよい。」

「彼とは、どなたですか。」

「地球の勇者だよ。」創造主はその様にいうと、部屋の扉を開け「彼を助けてやってください。」と私に頼んできました。

私達は、部屋に入ると、涙を流している魔法使いに光の遺伝子を送っていきます。

闇の渦巻きの中で光がスパークをはじめ輝きが広がります。

まだそこまで大きくなっていない闇の渦巻きでしたので、さほど時間がかかることなく浄化が出来ます。

魔法使いマーリン、創造主ガンダルフ様、魔法使いルーチェと私で光の箱を作り、ユミレーシャの闇を吸い取り光に変えていきます。

そうすると魔法使いはぐったりとして、私達の腕に倒れこんできました。

闇の渦巻きの力によってやはり生命力を奪われている感じです。

私達は、闇の渦巻を切り離すと、アルケイデースが、彼をプロキシマ・ケンタウリ星にきているアスクレピオス様の治療院へと運びます。

魔法使いルーチェは付添いのために、ユミレーシャに同行することになりました。

ハダル星のマザー・クリスタルは、この城の地下深く隠されていました。

ステュクスによって、そのクリスタルは運びだされ、魔法使いたちによって、クリスタルの神殿に安置されました。

そしてハダル星のクリスタルも、いつものように活性化が行われました。

しかし、この星の闇は深く次元上昇には至りません。

私達の今日の予定はここまでです。

続きは来週の星のツアーになりますが、魔法使いがいなくなった今、この星の浄化と残されたケンタウルス騎士団を平和に導くための話し合いをしていかなければなりません。

もちろんその役目は、トームズ、ブレゴリーの役目です。

「光のケンタウルス騎士団」のケンタウルス達も、次の星のツアーまでこの星に滞在して、この星のケンタウルスのために、傷の手当てや食料を確保してあげます。
そしてシェンロンとペガサスの騎士団、およびアルデバランの騎士団は、引き続きこの星の浄化を行います。

第9章 幻想の闇に巻き込まれた騎士団とケンタウルスが生まれる星



PART1 バーダン星の秘密

次に目指す星は、ケンタウルス座の腰のところに当たるバーダン星と腕のところに当たるイーター星です。

バーダン星に入ると、一面砂漠のようです。私達が呼び出しても、人はもちろん小動物の気配も感じられません。

ところどころに枯れた樹木があるだけです。この砂漠の砂の中に、何か生命がいることだけは確かです。

私は、さそり座のアンタレス様に協力をもらい、この砂の中に、一斉に「さそり」を送り込んでもらいました。

しばらくすると、砂の中から人が、驚いたように出てきます。

彼は、体中に布をまいて、まるで砂漠をさすらうベドウィンのような姿をしています。

彼は、私達を見てとても怒っていましたが、ケンタウルスのブレゴリーとトームズから事情を聞き、私達がバーダン星の人々を助けに来たことを知ると、大変喜んで事情を話してくれました。

「この星は、リギル星やプロキシマ星、ハダル星、イーター星などの騎士団の領地争いのため、いつも戦場になっていました。

そのため、この星のマスター達が、この星に何も存在しないように砂でおおい砂漠にしてみました。

そして、私達は地下に隠れ、マスターはイーター星のマスターのもとに身を寄せているのです。」

私は、この星のマザー・クリスタルを活性化したいのですが、クリスタルはどこにあるのかと聞きました。

「この星のマザー・クリスタルは、2つあります。

一つはこの星の地下にあるのですが、もう一つはマスターがイーター星に持って行きました。」

この星の地下にあったマザー・クリスタルを魔法で呼び出し、地上に表しました。

しかし、もう一つのクリスタルがないとうまく活性しませんし、次元上昇もできないようです。

私達はイーター星に向かい、マスターを連れ戻さなければならないようです。

私達はこの星を去る前に、大天使たちを呼び、この星に雨を降らせ、海と川を作ってもらう事にしました。

そしてステュクスにお願いして、この星を水が豊かな星にしてくれるようお願いしました。

もともとステュクスは河川の神様なので、大地を潤すことは得意なのです。

そして、ホビット達にお願いしてバーダン星に植物の種もまいてもらいます。

もう一つのマザー・クリスタルが戻ってきたときに、この星の新しい歴史が始まることでしょう。

PART2 幻想に巻き込む闇の渦巻

私達は、バーダン星のマスターをさがすために、ケンタウルス座の肘の所にあるイーター星へ向かいました。

確か、イーター星からは、新しく生まれた「光のケンタウルス」に参加しているケンタウルスがいるはずですから、彼から状況を聴くことにしました。

ひとりの賢そうなケンタウルスが私達の前に出てきました。

「イーター星のケンタウルス騎士団も、他の星と同様に、闇のマスターから特別な力をもらい暴れ始めました。

団長は力強く支配的で、メンケント星を奪い取るために、メンケント星の騎士団と良く争っていました。

其の為に、あまり大きな部隊ではない私達の騎士団は、メンケント星の騎士団達の攻撃に耐えきれず、ほとんどの者が倒れてしまいました。

しかし、騎士団の団長は、常にメンケント星や他の星々を支配するのだという幻想に捕らわれていました。

そして気づいたら、星は荒れ果て、ケンタウルスの騎士団はおろか、星の住民さえも傷つき多くの者が死んでしまいました。

私達は、このままでは生き残れないと思い、団長の目の届かない所に隠れていました。」

私達は、イーター星をシェンロンで偵察すると、荒れ果てた大地のかなたに大きな闇の渦巻きを探しました。

そこに捕らわれているマスターは、先ほどの騎士団の団長でしょう、見るからに、大型のケンタウルスの騎士です。

この渦巻は、まだ成長過程ですので、おそらく騎士団の団長は、まだ自分の意思をもって行動していると思われます。

わし座のヴィジョンに、近くまで行って詳しい様子を見てもらい、私の心の中にその様子を送ってもらいます。

「TAKESHI さん。騎士団の団長は狂ったように暴れています。

他の星を占領したい思いでいっぱい、周りのケンタウルスに様々な命令を出していますが、周りにいるケンタウルスはすべて傷つき、横たわっていたり、ひざまづいたりしています。

中には、もうすでに命を落としているケンタウルスもたくさんいるようです。

団長の幻想は、悲惨な現実を生みだしています。

このままでは残っているケンタウルス達も、やがて息絶えると思います。」

ヴィジョンから伝えられた話を聴いて、イーター星のケンタウルスは辛そうです。

きっと自分達の仲間もそこにいることでしょう。

ここはいくら騎士団でも下手に近づくと、あのパワフルな団長の渦巻にまきこまれそうです。

もし巻き込まれたら、彼の幻想に捕えられ、幻想の中に生きる事となり、現実世界に戻って来れなくなります。

これがこの団長の闇の力なのでしょう。

ここは、この闇の団長の力と比べ物にならないくらい大きなパワーを持っている物でなければ、対抗できないようです。

ここはステュクスの巨人族に任せることにしました。

ステュクスと仲間の巨人たちが周りを取り囲むと、いつも見上げるくらいある大きな闇の渦巻きも彼らの胸くらいの高さで、とても小さく見えます。

彼らは、袋のようなものを取出し、闇の渦巻きにかぶせ、光に統合していきます。

おおきな火花が周りに飛び散って、闇の渦巻きがどんどん小さくなります。

騎士団達は、この予想もしない展開にびっくりしています。

私達はこういう事もあるかと思い、光の遺伝子を特殊な布の中に編み込んだ巨大な袋を作っていたのです。

火花が落ち着くころを見計らって、私達も団長の渦巻に少しずつ近寄ります。

そして魔法使い達が、幻想のエネルギーを無に帰すための魔法を行っています。

創造主ガンダルフ様と魔法使いマーリンを中心に、様々な神聖幾何学が、残された渦巻と騎士団の団長に描かれていきます。

やがて、幻想を生みだしていた闇の渦巻が、真っ赤な炎によって燃やし尽くされていきます。

これで、彼の幻想の力も燃え尽きたことでしょう。

助け出された団長は、まるで亡霊のような顔をしていました。

すでに生气はなく、ただ幻想によって生かされていた感じです。

彼が薄目を開きました。

「私の悪夢は終わったのか。

長い夢だったが、これで私も安らかに眠れる」と言って目を閉じ2度とその目を開きませんでした。

周りにも倒れているケンタウルス達も、かなり深刻な状態ですので、アスクレピオス様に来ていただき、騎士団全員で介護にあたります。

この星から来たケンタウルスは、仲間たちの姿を見て駆け寄り、友の名前を必死で呼んでいます。答えるケンタウルスはわずかです。

私達は魔法使い達と共に、マザー・クリスタルを探します。

幸いイーター星出身のケンタウルスが、その場所を知っていたので、彼に案内してもらう事にしました。

クリスタルは岸壁のような所と海の中に 2 つあるようです。

確かに、クリスタルは傷つき力を失っていましたが、私達も力をあわせてクリスタルの活性を行いました。

すると、クリスタルの中から、美しい女神が現れました。

この女神は、星の守護を行うための女神ですが、ケンタウルス同志の争いが起こるとクリスタルの中に隠れてしまったようです。

彼女のカも借りて、マザー・クリスタルを活性し、星の次元上昇を行うと、このイーター星も昔ながらの美しい星に戻り始めました。異なる次元に逃げていたフェアリー達も戻ってきて嬉しそうに飛び回っています。

そして、イーター星に逃げ込んでいたバーダン星の魔法使いも、何が起こったのかと出てきます。

そこをガンダルフ様に見つかって、自分の星から逃げ出したことを怒られていました。

私達は、イーター星を次元上昇した後に、バーダン星の魔法使いを伴って、再びバーダン星へと戻ります。

バーダン星に戻ると、2つのクリスタルと2人のマスターがそろいました。

私達は、イーター星の女神にも手伝ってもらい、バーダン星のマザー・クリスタルを活性化し、バーダン星の次元上昇を行います。

すると、バーダン星から上空に向かって、大きな火柱のような柱がドンドン立ち上がります。

横で、スティックスが、「このバーダン星はケンタウルス座の要なので光の柱を立てたわよ！」と笑っています。

さすが、巨人族の女ボス！やることが、けた外れにすごいです。

PART3 ケンタウルスの子供を生み出す メンケント星

ケンタウルス座にもう一つの大きな光の柱が立ったのは、ケンタウルスの左肩にあたるメンケント星です。

ただしこのメンケント星は様々な問題を抱えた星でした。

メンケント星のケンタウルスが私達にそのことを話してくれました。

「メンケント星は、非常に頭のよい騎士団の団長がいて、彼はこの星の全てを自分の物にするために、この星のマスターと魔法使いを捕まえて殺そうとしたのです。

先ず彼は、マスターと魔法使いの力を奪うために、この星のマザー・クリスタルを破壊してしまっただけです。

すると、この星の地殻に異常がおこり、火山が至る所で噴火してしまいました。

そして、それだけではなく大雨が降ったり地震が起こったりと、星全体が異常な状態になってしまいました。

魔法使いとマスターは、自分達がつかり殺されることに恐れをなして別の次元に逃げ込んでしまいました。

闇に堕ちた騎士団長は、やがて彼に不満をもったケンタウルス達によって倒されましたが、この星の大切なマザー・クリスタルは、粉々に砕けてしまい、この星は生命力に欠けた星となっています。」

私達は、このメンケント星をどうしたら救い出せるか話をしました。

アルケイデースは、ここの騎士団をまとめて星を再興するしかないだろうといいます。

しかし、砕け散ったクリスタルをどのようにしたらよいか、わかりません。

魔法使いマーリンが創造主ガンダルフ様に質問をします。

「創造主ガンダルフ様、もしこの星のマスターと魔法使いが戻れば、クリスタルを新しく生みだすことはできますか。」

「そうじゃな、この星は新しいクリスタルを作るしか、方法はないようだな、他の創造主と相談してクリスタルの準備をしよう。」

創造主ガンダルフ様はそう言って南十字星に戻りました。

魔法使いマーリンが私に向かって言います。

「TAKESHI さん、どうでしょうか、時の女神クロノス様をお願いして時間をさかのぼり、別の次元に逃げ込む前の魔法使いとマスターを探し出し、この時代に連れてきたらどうでしょうか。」

「そうですね、この世界から彼等に呼びかけても、すでに世界が異なっているようですので、出てこれないでしょう。

それでは、クロノス様をお願いして、私達を過去の時代に戻してもらいましょう。」

これは、私達にとっては、初めての時間旅行となります。

私は心の中で、クロノス様をお願いして、マスター達が別の次元に逃げていく前の時間に戻りました。

私達は過去にさかのぼり、火山が噴火する中を別次元に向かって逃げ出そうとしているマスター達を見つけ出しました。

そして、彼等を捕まえようと6人ほどのケンタウルスの騎士団が、追いかけています。

しかし、一人の勇壮なケンタウルスが、マスターと魔法使いを守るために、彼らの元を離れ、騎士団に向かっていきます。

そのケンタウルスは、6人のケンタウルスを相手に、傷だらけになりながらも必死で戦っています。

おそらく、マスター達を守るために自分が犠牲になって、追ってきた騎士団達を足止めしようとしているようです。

ほとばしり出る鮮血にまみれながらも、道をふさぐように戦っています。

その時、火山が噴火して、溶岩流が彼と追ってきた騎士団達を包み、炎の中に押し流してしまいました。

私達はその姿を見て驚きました。

その勇壮なケンタウルスこそが、私達の前に溶岩に包まれた形で現れたブレゴリーだったのです。

彼はこの騎士団の副団長でありながら、闇に落ちた団長から、マスター達を守るために戦っていたのです。

私達は、別次元に逃げ込もうとしていたマスターと魔法使いを説得して、私達が存在している時間に来てもらう事にしました。

女神クロノス様をお願いして、私達は先ほどの時間に戻ります。

マスターと魔法使いに、私達がケンタウルス座で行ってきたことをお話ししました。

現在ケンタウルス座はもうすでに和平が結ばれ、平和で素晴らしい星になりつつあること。

そして、メンケント星を再び輝く星にするために、南十字星の創造主達が、新しいマザー・クリスタルを準備していることも話しました。

その話を聴いて、マスターと魔法使いも非常に喜んでいます。

「私達の夢がかなったようです。
あの時は、私達は恐怖に襲われて、私達が本当にすべきことが見えていませんでした。
私達のために、戦ってくれたケンタウルス達にも悪いことをした。」

すると、ケンタウルスのブレゴリーが、他のケンタウルス達の間をぬってマスター達の前に姿を現します。

「マスター、魔法使い様、お元気で何よりです。
私達は、皆さんをお救いすることが自分の務めだと思っていましたので、皆さんがご無事でしたらそれでよいのです。」

ブレゴリーの姿を見たマスターと魔法使いが驚いています。

「ブレゴリー、追っ手のケンタウルスと共に、火山流のなかに飲み込まれたとばかり思っていました、無事だったのですね。」

「いえ、私は確かに火山流に飲み込まれ死にましたが、地球の勇者と創造主様たちが私を助けてくださったのです。

私はそれから、トームズと共に、地球の勇者や騎士団の皆さんと共に、ケンタウルスに平和をもたらすために働いています。」

マスターと魔法使いは、ブレゴリーの大きな体にすがるようにして泣いています。

「創造主様、そして皆さん本当にありがとうございます。

私は、私達を助けるために犠牲になったブレゴリーやその仲間のケンタウルスの事が心配だったのです。」

私達は、マスター達が落ち着いたところで、この星のマザー・クリスタルの活性に入ろうと思います。

私達は、なるべく火山の影響を受けない場所に移動しました。

そこに、クリスタルの神殿を作り、南十字星の創造主達にクリスタルを生みだしてくれるようお願いしました。

「偉大なる南十字星の創造主よ、どうかメンケント星のために、マザー・クリスタルをお与えください。」

すると私達の前に創造主ガンダルフ様が現れました。

そして杖を大きく振り上げると、そこに美しいマザー・クリスタルが現れてきます。

マスターと魔法使いは、頭を地面にこすりつけるようにして「創造主様！ありがとうございます。」と言っています。

マスター達は、新しく与えられたクリスタルにとっても喜んで、祈りをささげ始めました。すると、南十字星の3人の創造主達も姿を現し、創造主ガンダルフ様を中心にクリスタルの4方向に立ち、杖を掲げ祈り始めました。

クリスタルは4人の創造主とメンケント星のマスター、魔法使いに囲まれて力強く輝き始めます。

マザー・クリスタルの活性が進むと、星が振動をはじめました。

マザー・クリスタルが復活したことにより、星の地殻が安定し、火山の噴火なども収まってきたようです。

メンケント星は、光の世界に向けて大きく動き始めました。

メンケント星が光の世界に入り始めると、創造主ガンダルフ様は不思議な呪文を唱え始めました。

「偉大なる光よ、ここに降り立ち、新たな生命を生みだしたまえ」

するとマザー・クリスタルの頭頂部から光が放たれ、さらに高次元にある 2 つのクリスタルとつながりました。

4 人の創造主達は、スーッと空に上がり、高次元の 2 つのクリスタルを活性化し始めました。

大きな光の柱が、大空に向かって立ち上ります。

それは、今迄に見たこともないくらい大きくて輝かしい光の塔のようなものです。

そして、その光の塔の上には大きな女神が現れ、大空を輝かしい光りで包みます。

その光をみて、周りから女性のケンタウルス達がたくさん集まってきました。

女性のケンタウルスの一人が言います。

「ケンタウルスの女神さまが再び現れてくださいました。

またこの星に、新しいケンタウルスの生命を迎えるときが来ました。

皆さん、急いで準備をしてください。

仲間達を集めて、子供たちが生まれてくるわよ！」

その声は喜びと活気に満ち溢れています。

それと共に子供のケンタウルスが、光の塔の下からたくさん生まれてきます。

女性のケンタウルス達は、生まれたばかりのケンタウルス達を手慣れた仕草でお世話をしています。

更に多くのケンタウルスが集まってきます。男性のケンタウルスも、女性達のお手伝いを始めました。

ブレゴリーやマスター達はその光景を見て喜んでいます。

トームズを含めた「光のケンタウルス騎士団」も、槍や弓を投げ捨てて子供たちのお世話を始めました。

遙さん達もその姿を嬉しそうに見つめています。

久しぶりに見る平和な光景に、ケンタウルス達も私達も目に涙をうかべています。

創造主ガンダルフ様が、私のもとに笑みを浮かべながら降りてきます。

「TAKESHI さん、このメンケント星は、ケンタウルス達の子供を産み育てる大切な星なのです。

ケンタウルス達は、この星で女神達によって生み出され、この星の女性のケンタウルスによって育てられ、それぞれの定められた星の家族のもとにいくことになります。

ケンタウルスは本来神聖な存在なのです。その命が、今回の多くのケンタウルスが闇に落ちることによって失われました。

しかし、彼らは多くの事を学んだのです。そして、これからは更にすばらしい騎士団として目覚めていく事でしょう。

PART4 地殻変動の星からのお引越し

さて残る主要な星は、ムリファイン星のみとなりました。

私達が、ムリファイン星に降り立つと、とても奇妙な感覚がします。

地面が揺れているうえに、ドッドッドッという振動もしますので、私達は、一度星の上空に上がりました。

すると、星の大地を、多くのケンタウルスが狂ったように走りまわっているのです。

状況を調べてみると、ムリファイン星は、地殻変動が起こっており、火山の噴火や地震が絶え間なくおこっているようです。

その事に恐怖を覚えたケンタウルスが、冷静さを失い混乱した状態で星の上を走り回り、傷ついたり亡くなったりしています。

小さな子供のケンタウルスが、大きなケンタウルスに踏みつぶされたり、地殻変動でできてしまった崖から落ちたりと、とてもひどい状態です。

この星には、もうすでに騎士団もなく無法状態という感じがします。

ムリファイン星も、混乱し恐怖におののいているケンタウルスの精神状態を反映して、さらに不安定になり地殻変動を大きくしています。

このままでは、星は地震や噴火だけでなく大陸の沈下なども起こして、星ごと壊滅しそうな状態です。

創造主ガンダルフ様がこの様子を見て、とても悲しんでいました。

「この星は、ケンタウルス座の中では、とてもおとなしく文化的な星なのです。

騎士団も作らず、この星の人はケンタウルス独自の文化を作りあげ、進んだ科学技術を研究する星だったのですが、闇が入り込んだために、彼らの科学技術が暴走して、星を破壊するようなことになったのではないのでしょうか。

星の様子を調べに行っていた巨人族のステュクスが戻ってきました、彼女は星の地殻の問題も専門です。

「TAKESHI さん、どうもこれは普通の火山噴火ではなさそうです。

星のあちらこちらで交互に噴火しているので、なにか人工的な問題がありそうね。」

魔法使いや巨人族も交えて、この星の対策を相談しました。

一つには、ケンタウルスを落ち着かせて冷静な状態に戻し、星の意識を安定させること、しかしこれには時間がかかりすぎますし、地殻が不安定であれば、まず不可能です。

もう一つは、星の地殻の状態を大きく変更し、安定した星の地殻に戻すこと、しかしケンタウルスが星にいたままでは、ケンタウルスの多くが傷つき生き延びることは不可能です。

そこで私は、ケンタウルス達をムリファイン星から他の星に、一時的に移すことにしました。

先日、ケンタウルス座全体の次元上昇を行う必要から、ケンタウルスの右肩にあたるショルダー・スター星のマザー・クリスタルを探し出し、星の活性を行っていましたので、もしかしたらその星が移住に使えるかも知れません。

アルケイデースと美緒さんにシェンロンに乗って見に行ってもらうと、幸いなことに、この星にはうっすらと草が生えていました。まだ若い星ですが、ムリファイン星にこのままケンタウルスを残すよりは良いでしょう。

私達は、南十字星の創造主とステュクスの一族、そして白鳥座のフェアリーやホビット達にお願いして、山や野原を整え、川や海を作

り、木々を植えて、ケンタウルスが生存するにふさわしい星へと作りあげてもらおう事にしました。

その間、愛の女神や癒しの天使達は、ムリファイン星のケンタウルスに光を送り、彼らを落ち着かせようと試みています。

問題は、錯乱したケンタウルスが、きちんと移動をしてくれるかということです。

エルエル達のシェンロングループとペガサス騎士団、わし座騎士団は、ムリファイン星から移住先の星までの光の通路を作ります。そして魔法使いにお願いして、自然な道のように見えるように、中に大地や植物たちを作り出し、宇宙空間を移動している事に気づかれないようにしてもらいましょう。

さて移住先の準備が整い、光の通路もつながりました。

「光のケンタウルス騎士団」が集合して、ケンタウルスをこの光の通路の中に導きます。しかし、ケンタウルス達は、混乱しているのでなかなか私達が思うように、光の通路の中に入ってくれません。

ケンタウルスのトームズが、私に提案してきました。

「ケンタウルスは、葡萄酒が好きなので、葡萄酒の匂いをさせて、向こう側の世界に行ったら葡萄酒が飲めるよ、としたらたくさんのケンタウルスが、お酒に誘われて通路の中に入ってくるかも知れません。」

ケンタウルス達は葡萄酒が好きなので、お酒の神デオニュソスを呼ぶことにしました。葡萄酒のにおいを通路にぶんぶん匂わせて、みんなで酒宴を開こうと呼びかけました。

そうすると、今まで錯乱して走り回っていたケンタウルス達の足がピタッととまり、葡萄酒の匂いのする通路に我先にと走りこんでいきます。

その様子を見て、私達も大笑い、安心しました。

その間に、この星に残っている傷ついたケンタウルスや子供のケンタウルスを騎士団達は探し回っています。

わし座の騎士団やペガサス騎士団も応援に入り、星の中を探しています。

そして、100 人近くのケンタウルスを助けてきたようです。

皆さん、無事に新しい星に移りました。

ケンタウルスに、新しい星に何が必要かと尋ねると、すかさず答えがかえってきました。

「ブドウの木を植えてください」。

もちろんホビット達にたくさんブドウの木を植えさせたことは言うまでもありません。

ムリファイン星のケンタウルス達は、新しい星に移り、ようやく落ち着いたようです。他の星の騎士団も手伝ってくれて、食物を運んでくれたり、彼らにふさわしい建物を作る手助けをしているようです。

そして、私達は、急いでこのムリファイン星の地殻を整え、落ち着いた星にしなければなりません。

南十字星の創造主と巨人族にお願いして、星の再生工事を行ってもらうことにしました。しばらく時間はかかると思いますが、ムリファイン星が、元のような緑あふれる星に戻ったときには、また再び、ケンタウルスがこの星にもどってくることでしょう。

私達は、これでケンタウルス座の重要な星を全てまわり、星に残る闇のエネルギーを片付け、マザー・クリスタルを活性化して星の次元上昇を行ってきました。

残るのはケンタウルス座全体の次元上昇ですが、これは各星でエネルギーの調整をおこなったりする必要がありますので、来週行う事にしました。

南十字星の創造主と「光のケンタウルス騎士団」そして私達の騎士団は、この 1 週間の間に星々の再生をおこなったり、星のエネルギーを調整する仕事をして、1 週間後の星座の次元上昇を待つようです。

私達は疲れ果てて、地球に変えることにしました。

思ったよりもこのケンタウルス座は大変でした。

闇の落ちたマスター達を助け出し、星の次元上昇を行った星だけでも、リギル星、フロキシマ星、ハダル星、バーダン星、イーター星、メンケント星、ムリファイン星と 7 つの星に当たります。

これに南十字星を加えると 11 の星、またしし座、おとめ座を加えると 14 個以上の星を助け出したことになります。

しかしこれで仕事がすべて、終わったわけではありません。最初から気になっているおおかみ座に次回入ろうと思います。

第 10 章 気高き狼一族そしてケンタウルス座の次元上昇



PART1 気高き狼一族の騎士団

おおかみ座はこのケンタウルス座に取りかかる時からとても気になっていた星々です。今日はケンタウルス座の次元上昇を行う日ですが、その前におおかみ座にわたり、出来れば、おおかみ座も一緒に次元上昇したいと思っています。

それは、前回の星のツアーが終わってから、ブレゴリーが私にこのような事をいつてきたからです。

「TAKESHI さん、ケンタウルス座の騎士団とおおかみ座の騎士団はとても仲が良く本来は一緒に仕事をしていました。

彼等は嗅覚に優れ、光の存在か闇の存在かをすぐに見分けることができます。

ケンタウルス座に偽りの光のマスターが入ってきた時も、おおかみ座の騎士団は、すぐに彼等が偽物だと気づき、私達に警戒するように言ってくれたのですが、私達はそのこと

を聞き入れず、偽りのマスターに心酔してしまったのです。

おおかみ座騎士団は、私達を守るために、偽りのマスターに戦いを挑みましたが、私達が偽りのマスターの方についてしまったために、おおかみ座の騎士団は、反対に傷つけられてしまいました。

彼等は、これ以上言っても無駄だと思ったのか、全員おおかみ座に帰っていきました。

私達は、彼等に謝罪しなければならないのです。

どうか私達も一緒におおかみ座に連れて行ってください。」

私は、ブレゴリーの願いを受け入れ、「光のケンタウルス騎士団」を連れておおかみ座に行くことにしました。

このころには、前回参加していなかったハダル星やイーター星、バーダン星のケンタウルスも加わり、全ての星に「光のケンタウルス騎士団」が出来上がっていました。

私達は、各星の騎士団の代表を伴って、おおかみ座に向かう事にしました。

そしておおかみ座を訪ねるもう一つ理由があります。

姿を消すことができる闇の存在達を探す時に、狼の騎士団の臭覚が頼りになるから、必ず仲間にするように、女神アテネ様から言われていたのです。

ブレゴリーの話も聞いても、おおかみ座騎士団の嗅覚はすばらしい事がわかります。

この日、私達は、ケンタウルス座のイーター星から、おおかみ座の手の所にある星にわたり、そこからカッカブ星にわたりました。カッカブ星は、とても穏やかな星で、見渡す限りゆるやかな草原や森が連なっています。

この星では、年をとった風格のある巨大な狼のマスターが待っていました。

私には、彼の一族の名前は「バーチ族」と聞こえました。

バーチ族の長老は、私達が来た理由を問いました。

するとブレゴリーが前に進み出ました。

「バーチ族の長老、お久しぶりです。

私達ケンタウルス一族は、おおかみ族の皆様に謝罪に来ました。」

バーチ族の長老は、ブレゴリーをしばらくの間見つめ、何も言わずうなずきます。

「長老よ、私達が間違っていました。

おおかみ座の騎士団の皆さんの警告を無視して、闇のマスターに従ったばかりか、皆さんを傷つけてしまいました。

私達は、地球から来られた勇者と女神の皆さん、そして偉大なる騎士団の力によって、ケンタウルス座と南十字星から闇のエネルギーを取り除き、昔ながらの正義のために働くケンタウルス座に戻りました。

今、私達は目覚め、新たな騎士団を結成し、これからも宇宙の平和のために尽くそうと思っています。

其のためにも、まず自分達が皆さんに対して行ったことを謝罪するために、こちらへ参りました。」

ケンタウルス達がすべて前に出てきました。彼等はバーチ族の長老の前に 2 列に並び、前足の膝を大地に着け、頭を下げて謝罪の気持ちを表しています。

騎士団の団長たちも、その姿に胸を撃たれ、ケンタウルスの横に、並び胸に剣を掲げ敬意を表しています。

バーチ族の長老は、ケンタウルス達の気持ちを受け入れたのか頷くと、おおかみ座の星々に響くように低く吠えました。

「わかりました。

皆さんの謝罪を受け入れましょう。

今迄と同じように、おおかみ座の騎士団は皆さんと共に働きましょう。」

ケンタウルス達が、頭を上げ嬉しそうに声を上げます。

するとおおかみ座の 6 つの星から、6 人のおおかみ騎士団の団長達がやってきました。ひとつの星には、それぞれ 10 人から 20 人のおおかみ騎士団があるようですが、そのリーダー達です。

彼等はすべて長老の子供たちのようです。

おおかみ騎士団の団長は、自分達に謝罪の気持ちを表しているケンタウルス達を見て、時が来たのを知ったようです。

おおかみ騎士団の団長の一人が、長老の前に行き挨拶をします。

「おおかみ騎士団の団長たちよ、太陽は再び昇り始めたようだ。

長い闇の時を過ごし、傷ついたケンタウルス達が、真実を悟り目覚めた。

この地球から来られた勇者たちと多くの騎士団達の勇気ある行いによって、ケンタウルスは新たな光を生み出した。

今迄通り、私達とケンタウルス騎士団との絆は戻ったようだ。

これからも、彼等と共に、宇宙のために働こう。」

おおかみ騎士団の団長たちは、長老の言葉に敬意を表し頭を下げます。

おおかみ座の伝統では、おおかみ座の星とケンタウルス座の星の組み合わせが決まっているようです。

各星のケンタウルス騎士団の代表のもとに、おおかみ騎士団の代表が歩みより、ケンタウルスの横に座ります。

全ての星の和解が行われたようです。

今度は、リギル・ケンタウルス星のギレット団長が、おおかみ騎士団にお礼の言葉を言います。

「私達も、本当に大変な過ちを犯しました。ひとつは、自分達の心が闇に支配され、多くの仲間達を傷つけ殺してしまったことです。そして自分達の星を荒廃させ、ケンタウルス座の未来をことごとく壊してしまいました。もちろん私も、家族の多くを戦いの中で失ってしまいました。

2つ目に、私達が本来従うべき南十字星の創造主を傷つけ、この星系を闇の中に落とし込んでしまいました。

そして3つ目は、敬愛すべきおおかみ座騎士団との絆を失ってしまったことです。

私達は、進むべき指針を失い、さらに闇の中に迷う事となりました。

しかし、皆さんは、愚かな私達の過ちを赦し、再び私達と共に働いてくださるという事を決断してくれました。私達は、皆さんに、深くお礼を申したいと思います。

これから私達は、皆さんの言葉を重んじて共に働かせていただきたいと思っております。どうか、よろしくお願いします。」

全てのケンタウルスが、長老と自分のパートナーとなるおおかみ騎士団の団長に、ひざを地面につけて、胸に剣を掲げ、敬意の姿勢を取っています。

おおかみ騎士団の団長たちも、眼光鋭く相手をみつめ、相手の心とひとつになるように見つめています。

これでケンタウルス騎士団とおおかみ騎士団の友好の絆は再び結ばれたようです。ケンタウルス騎士団は準備をしていた葡萄酒を出して、友好の宴をはじめました。

おおかみ騎士団の長老は、私の横に来て、自分達の歴史を話し始めました。

おおかみ座には主要な星が6個あり、彼の子供たちがそれぞれの星で家族を持ち、騎士団を作っていること。

各星の狼騎士団は、ケンタウルスの各星の騎士団と古くからつながりがあり、ケンタウルスの騎士団に、先祖代々つかえてきたこと。

狼騎士団は、敵をその優れた臭覚で探すだけでなく、ケンタウルス騎士団を自分の身を挺して守ってきたこと。

しかし、ケンタウルス騎士団が闇に堕ち、仲間内で争いを起こすようになると、自分達も攻撃され裏切られてしまい、その絆が切れてしまったこと、などを話してくれました。

私達は、おおかみ座の騎士団のけがれなき純粋な心に感動さえ覚えました。

家族を思う以上に、自分が仕えたケンタウルスの騎士団を守りぬいてきたにも関わらず、そのケンタウルス騎士団から裏切られてしまう・・・彼らの心の悲痛な思いを感じずにはいられませんでした。

私は、ケンタウルス騎士団を闇から救いだし、昔のような純粋な騎士団に戻りつつあることを、気高き狼の長老に話しました。

彼らの失われた絆と時間が戻ってきます。

おおかみ騎士団の長老は私達の仕事の話をお聴くと、自分達の騎士団も役に立たせてほしいと、私達のために騎士団を作る事を提案してくれました。

長老は、各騎士団の団長に理由を話しました。すると長兄の団長が喜んで答えます。

「このケンタウルス座を光に戻してくれた騎士団や天の川銀河でもずば抜けた力を持つ騎士団と共に働けることは、私達にとって誇りでもあります。

私達も、様々な世界を知り、多くの騎士団やマスター達と交流し、多くの事を学びたいと思います。

本来は、私達自身が行きたいくらいですが、団長が抜けると具合が悪いので、各騎士団の副団長を皆さんと共に同行させたいと思いますが、いかがでしょうか。」

長兄は、各騎士団の団長を見まわしました。各騎士団の団長は問題ないようです。

皆さん口々に、これほど素晴らしい体験はめったにできないから、自分が行きたいと言っていますが、ケンタウルス座の立て直しを団長は行わなければならないので、まだ若く有能な副団長を、私達と行かせることに同意しました。

バーチ族の長老は、自分達の騎士団が、天の川銀河の素晴らしい騎士団と交流したり、宇宙の様々な問題を解決する事をおして、一回りも二回りも素晴らしい騎士団になれることを願っているようです。

「TAKESHI さん、そして騎士団の団長様、どうか私達のおおかみ騎士団を、皆さんのお役に立てるように自由にお使いください。彼等にとって、それが一番の学びとなる事でしょう。」

最後に、私達は、おおかみ座の各星のマザー・クリスタルを光でつなぎ、カッカブ星のクリスタルを活性するとともに、おおかみ座全体の星々を活性しました。

彼等は、私達の次の星のツアーから同行してくれることになりました。

PART2 ケンタウルスの星域に創造主の光を導く

最後に、私達は南十字星を中心としてケンタウルス座、おおかみ座、さそり座、ウミヘビ座を一つの同じエリアとして大天使と創造主の光で包むことにしました。

このエリアは、天の川銀河の平和と秩序を守り、創造主の叡智や公正さを導くエリアです。創造主の光は、仏陀様によって南十字星に導かれ、南十字星の4人の創造主と魔法使いによってこの宇宙にひろげられます。

天の川銀河の中で問題が発生した場合には、ケンタウルスと狼騎士団がその解決に努めるようです。

さそり座とウミヘビ座は、さらに特殊な力を持って、困難な問題にあたる特殊部隊のような存在です。

今回の星のツアーによって、南十字星の創造主達も元の星に戻り、南十字星の働きもさらに高まったようです。闇に堕ちたケンタウルス騎士団も、ほとんどの部隊が闇に支配された団長を失いましたが、若くて正義感に満ち溢れたケンタウルス達が、新たな団長として騎士団を率いていきます。

そして何よりも、ケンタウルス騎士団をサポートする誠実なおおかみ騎士団も、ケンタウルス騎士団のもとに戻りました。

私達は最後に、南十字星、ケンタウルス座、さそり座、ウミヘビ座を光りの通路で結び、さらに光のフロアーを作り、幾層にも光を満たしました。

そして大天使と創造主の光を導き、この星々をさらに次元上昇させて、今まで以上の光の星にしていきます。

南十字星の創造主、各星のケンタウルスの騎士団そして星々を支える女神やマスター、おおかみ座やさそり座、ウミヘビ座の騎士団やマスター達も共に祈ります。

私は各星々に呼びかけます。

「偉大なる創造主よ、偉大なる騎士団そして星々を守護するマスターと女神達よ、今ここに、星々の光をひとつに束ね、星々を光の世界へと導いてください。

正義と愛のもとに、全ての星が協力し合い、この天の川銀河が素晴らしい星となるようにここに光を送ってください。」

すると星々のマザー・クリスタルがさらに輝き、星々が更なる光の世界に向けて次元上昇していきます。

今迄の闇のエネルギーを脱ぎ捨て、光の世界に向かって上昇していきます。

星の人々の歓喜の声が聞こえてきます。皆さんが、愛と喜びの光で満たされていくようです。

これから、これらの星の人々はお互い協力しあい素晴らしい世界を作っていく事でしょう。

私達をまっている人達が、もうすでにいるようです。

次回からは、新しい星のツアーに入りましょう。